

●国際連合大学 2014-2015 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

実施報告書

東京都・千葉県八千代市・千葉県・和歌山県・大阪府

2015年1月18日(日) — 1月26日(月)

国 際 連 合 大 学 (UNU)
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

●国際連合大学 2014-2015 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

実施報告書

東京都・千葉県八千代市・千葉県・和歌山県・大阪府

2015 年 1 月 18 日(日) — 1 月 26 日(月)

国 際 連 合 大 学 (UNU)
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

はじめに

国際連合大学(United Nations University)は、持続可能な人類の安全保障、気候変動、開発、平和構築など、国連とその加盟国が直面している、喫緊の地球規模の諸問題の解決への取り組みに、研究、教育、能力開発、知識の普及を通じて寄与することを目的とする国連機関です。

国際連合大学は、2002年に主にアジア太平洋地域の教職員や教育分野の専門家等の資質の向上と相互理解の促進を目的とし、日本政府からの拠出金をもとに「日本国際教育交流プロジェクト」を開始しました。2000年に設立された「ユネスコ青年交流信託基金」で実施されていた「韓国教職員招へいプログラム」は、同年より本事業のもとで開催されることとなり、同大学からの委託を受けてユネスコ・アジア文化センター(ACCU)が実施を担当し、昨年まで14回にわたり、1,668名の韓国の教職員を日本に招へいしてきました。

今回の国際連合大学国際教育交流事業・韓国教職員招へいプログラムは、2015年1月18日(日)から1月26日(月)までの9日間にわたり、韓国の小・中・高等学校の教職員等98名を我が国に招へいしました。このプログラムは学校およびその他の教育・文化施設を訪問・見学することにより、日本の教育制度およびその現状についての理解を深め、ひいては、両国の相互理解と友好を促進することを目的としています。

実施にあたりましては、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育部、および千葉県八千代市・千葉県・和歌山県の各教育委員会、訪問先の学校、その他の教育・文化施設等、多数の方々の多大なるご支援とご協力をいただきました。ここにあらためて関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

2015年3月

国際連合大学

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

目次

第Ⅰ章 実施内容

1. 全体プログラム(東京) 5
2. グループ・プログラム(各市・県) 10
3. 全体プログラム(大阪) 22

第Ⅱ章 コメントと提案

1. 韓国教職員 29
2. 受入れ教育委員会 45
3. 主な受入れ学校および機関 47

付録

1. 実施要項 58
2. プログラム日程 60
3. 参加者リスト 66
4. 関係機関リスト 72
5. 文部科学省講義資料 76
6. 過去のプログラム実績 85

第1章 実施内容

1. 全体プログラム(東京)
2. グループ・プログラム(各市・県)
3. 全体プログラム(大阪)

1.全体プログラム（東京）

1.来日、オリエンテーション（第1日）

「韓国教職員招へいプログラム」の参加者 98 名は、2015 年 1 月 18 日（日）に来日した。同日、プログラムの主催機関である国際連合大学にて、オリエンテーションが行われた。

はじめに、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）米島百合子人物交流部部長から参加者に歓迎のあいさつが述べられた後、各グループに随行する ACCU 担当スタッフが紹介され、最後に、ACCU 職員よりプログラム日程の説明や滞在ガイダンス等が行われた。

2.開会式（第2日）

プログラム第2日の1月19日（月）、開会式が行われた。はじめに訪問団を歓迎して、文部科学省国際統括官の山脇良雄氏よりあいさつがあり、日韓国交正常化50周年の年に団長をはじめとして皆さまをお迎えできて非常にうれしい、実際に交流を行うことが将来の日韓関係の相互理解のため、信頼関係構築のため大きな助けとなる、と話した。また、ESDは未来の予測が困難な現代において、ますます重要な課題となると思われる。韓国の先生方には、この訪日プログラムを通じて日本のESDをご覧いただくと共に、日本の学校とみなさんの学校が繋がっていくことを願っている、と述べた。

続いて本事業主催者である、国際連合大

学大学院事務局長の岩佐敬昭氏によるあいさつがあった。自身も昨年8月の韓国派遣プログラムに参加したが、各学校での熱心な教育に心を打たれ、また家庭訪問では温かく受入れていただいた。今回は韓国のみなさんを受入れることができ非常にうれしく思っている。これを機に日韓の学校間での継続的な交流につながることをお祈りしている、と述べた。

次に本事業の実施団体を代表してユネスコ・アジア文化センターの老川祥一理事よりあいさつがあった。本事業は ACCU が国際連合大学の委託を受け、日本の文部科学省、韓国教育部の協力によって韓国ユネスコ国内委員会（KNCU）と共催というかたちで実施をしている事業である。日韓には政治的に困難な問題もあるが、そうであればあるほど国民同士の文化的交流がより大事であり、教育の友好増進のために子どもの教育を担う先生の役割は重要である、と述べた。

次に駐日本国大韓民国大使館参事官の崔成有（チェ・ソンユ）氏よりあいさつがあった。韓国のアイドルグループを例に出し、日韓関係が悪いことは実感しがたいが、今年の日韓国交50周年ということで、政治的にも日韓関係がよくなることを願っている。本事業を通じて先生方に日韓交流の架け橋となって欲しい、とあいさつを締めくくった。

最後に韓国教職員訪日団の関東石（ミン・ドンソク）団長よりあいさつがあった。教育の重要性はいくら強調してもしすぎることはないが、良質の教育のためにもっとも重要なのは、すばらしい教員である。今

回、訪問団はこの訪問を通じ両国の ESD 発展のために積極的取り組んでいきたいと考えている、と述べた。また今回の来日にあたり文部科学省、国際連合大学、ACCU への感謝を忘れず、8月に韓国を訪問する訪韓団を温かく迎えるよう準備する、とあいさつを締めくくった。



関東石団長

3.(1) 講義 I (第 2 日)

「日本の初等中等教育」

文部科学省 初等中等教育局

初等中等教育企画課

専門官 (併) 企画係長 栗山 和大

開会式に続いて、同会場にて日本の初等中等教育について、文部科学省の講義が行われた。講師は 2013 年夏の韓国政府日本教職員招へいプログラムに参加した栗山和大専門官 (併) 企画係長であった。

I) 日本の基本的な初等中等教育制度

- ① 学校数について
- ② 在籍者数・進学率の経年変化
- ③ 「国>都道府県>市町村」という構造
- ④ 教育委員会について
- ⑤ 学習指導要領
- ⑥ 改定事項
- ⑦ 教員養成・免許制度について

II) 日本の現状認識

- ① 少子化・高齢化の進展
- ② 子どもの貧困層の上昇
- ③ 日本の国際的な存在感の低下

III) 教育施策の方向性

- 政策① グローバル人材育成
政策② 学習指導要領の改訂
政策③ 教職員指導体制の整備

(2) 講義 II (第 2 日)

「日本における ESD の推進について」

文部科学省 国際統括官付

ユネスコ振興推進係長 江幡 忍

続いて、同会場にて、日本における ESD の推進について、文部科学省の講義が行われた。講義内容は、以下の通りであった。

I) 持続可能な開発のための教育 (ESD) について

II) ESD に関するこれまでの我が国の取組

III) これまでの文部科学省の取組

- ① 教育振興基本計画について
- ② 学習指導要領
- ③ ユネスコスクールを ESD の推進拠点と位置付け拡充
- ④ グローバル人材の育成に向けた ESD の推進

IV) ユネスコスクールにおける ESD 取組例

V) その他の取組

- ① ASPUnivNet
- ② 企業におけるユネスコスクールへの支援

VI) ESD に関するユネスコ世界会議について

- ① ステークホルダー会合 (於 岡山市)
- ② 「ESD に関するユネスコ世界会議」の開催概要
- ③ 「あいち・なごや宣言」

Ⅶ) 今後のESD推進に向けた取組

- ① 学校教育への更なる浸透
- ② 社会教育をはじめ、学校外の学習の場への浸透
- ③ ESDのモニタリング・評価に向けた研究
- ④ ユースの参画の促進
- ⑤ マルチステークホルダーによる取組の促進
- ⑥ ステークホルダー間の連携の強化

4. 歓迎交流会（第2日）

同日12時30分より、同ホテル2階の「万里」において国際連合大学主催・文部科学省協力・ACCU運営による歓迎交流会が開催された。

式では、文部科学審議官の前川喜平氏をはじめ、本プログラム設立のきっかけをつくった元文部大臣で参議院議員の中曽根弘文氏、国際連合大学サステナビリティ高等研究所大学院事務局長の岩佐敬昭氏、ACCUの高坂節三理事、韓国教職員訪日団団長の関東石氏があいさつした。

前川喜平文部科学審議官は、韓国は日本にとってかけがえのない大切な隣国だ。日韓両国の教職員同士が活発に交流を行い、教育をはじめ幅広い分野で緊密な協力関係を構築し、両国の信頼関係を強化することがアジアの、そして世界の繁栄につながると確信している、と述べ韓国の歌「サランヘヨ」を披露した。また、中曽根議員からは、このプログラムは、2000年3月に文部大臣として初めて韓国を訪問し、当時の文龍鱗（ムン・ヨンリン）教育部長官との合意に基づき開始したもので、強い思い入れがある。日本と韓国は地域・子どものために隣国同士仲良くしなければならない。か

かけがえのない日韓両国の絆が更に深まっていくことを心から祈念する、と参加者を激励した。

来賓からは、訪問団を歓迎し、本プログラムにおいて日本の教職員や児童生徒と交流し大いに学び、帰国後に活かしてほしい、とのあいさつがあった。その後、国際連合大学の岩佐大学院事務局長より訪問団の関団長に記念品の贈呈が行われ、訪問団からも記念品が贈られた。

日本側出席者の中には、昨年8月に日本教職員団として韓国を訪問した日本教職員もおり韓国人参加者と再会を喜ぶ場面も見られた。韓国教職員は終始、他グループの参加者や日本側出席者と、和やかに懇談を楽しんでいた。



前川喜平文部科学審議官



中曽根弘文参議院議員

5.東京近郊校訪問（第3日）

A グループ

神奈川県立有馬高等学校

プログラム第3日の1月20日（火）、金元中（キム・ウォンジュン）氏をグループ長とするAグループの韓国教職員32名は、神奈川県立有馬高等学校を訪問した。同校は1983年に設立され生徒数866名、各学年7～8クラスから成る学校である。各学年には英語コースが設けられ、国際交流にも積極的に取り組んでおり、神奈川県内の公立高校としては唯一ユネスコスクールに登録されている。

一行が到着すると、校長の伊東由美氏からのあいさつ、副校長の相馬晶夫氏の紹介があり、同校の生徒が韓国語で歓迎のあいさつをした。それに対して金元中グループ長がお礼のあいさつを述べ、学校側に記念品を贈呈した。続いて、総括教諭の望月浩明氏より学校概要説明があり、訪問団からは、韓国のESDについて取組みや実情を発表した。その後授業見学に移り、外国籍生徒の選択授業や数学、英語の授業を見学した。昼食を挟んで行われた部活動見学では、茶道部で茶道体験をし、ESS部では英語を学ぶ生徒と共に折り紙を折って日本文化を体験した。最後に全員で記念写真を撮り、同校を出発した。



茶道部での茶道体験

B グループ

大田区立大森第六中学校

李景錫（イ・ギョンソク）氏をグループ長とするBグループの韓国教職員は、1月20日（火）、大田区立大森第六中学校を訪問した。2011年にユネスコスクールとなった同校は、2012年にNPO法人日本持続発展教育（ESD）推進フォーラムが主催するESD大賞でユネスコスクール最優秀賞を受賞した。

学校到着後、校長の税所要章氏、グループ長の李景錫（イ・ギョンソク）氏のあいさつに続き、主幹教諭の柴崎裕子氏から学校概要の説明があり、環境教育、防災教育、国際理解教育などESDの基本的な考え方を中心に活動している同校の取組が紹介された。その後、授業参観が行われ、社会、理科、音楽などをはじめ、さまざまな授業を見学した。授業参観が終わると、体育館で行われた全体交流会で全校生徒、教職員から歓迎を受けた。「流浪の民」の合唱、群読、生徒による韓国語や英語でのスピーチ、英語・日本語による学校紹介など豊富なプログラムが用意されていた。また、李景錫氏は檀上でのあいさつで、日本と韓国は『近くて遠い国』とよく言われるが、このような交流を続けることで『近くて近い国』になれるよう努力したい、と述べた。全体交流会のあと、給食交流が行われた。訪問団を歓迎するための特別メニューだというキムチチャーハンを味わいながら、ボランティア通訳同席のもと、同校の生徒・教職員と訪問団員が交流を深めた。午後は、3学年全クラスで、韓国教職員による授業が行われた。ハングル、伝統衣装、伝統的な遊びについてなど教室ごとに多彩な授業が行

われ、座学のみならず体験型の授業を通して互いの文化への理解を深めた。後日、生徒が書いた作文では、「本物のチマチョゴリを見ることができ感動した」、「もっと韓国の方と交流をしたいと思った」などの感想があった。交流業終了後、控え室に戻ると、同校についての質疑応答時間が設けられ、訪問団からESDカレンダー、主幹教諭の役割、自己肯定感と学習意欲の関係、書道の授業の意義などについての質問があがり、それに対する詳細かつ丁寧な説明がなされた。最後に税所校長、李景錫団長が謝辞を述べ、記念品交換、記念写真撮影をすると、あたたかい見送りを受けながら一行は同校を後にした。



チマチョゴリを着て韓国文化についての授業を行う訪問団員（大森第六中学校）

C グループ

横浜市立永田台小学校

プログラム第3日の1月21日（火）、金丙珪（キム・ビョンギョ）氏をグループ長とするCグループ33名は横浜市立永田台小学校を訪問した。同校は、1974年に創立され、横浜市中心部から近いベッドタウンに位置し、緑豊かで静かな環境の小学校である。2010年に横浜市で初めてとなるユネスコスクールへの加盟後、「命」を基盤とす

るESDの推進をしている。また、限られた自然を生かして環境教育を行い、大学や他校、地域と連携した教育活動を行っている。

一行が到着すると、校長の住田昌治氏をはじめとする教職員の出迎えを受け、全校児童による歓迎会が催された。児童代表による韓国語でのあいさつや学校紹介、歌、ソーラン節などが披露された後、金丙珪グループ長からはお礼の言葉が述べられ、学校へ記念品が贈呈された。続いて、住田校長より学校概要と同校で実践しているESDの取組みについて説明を受けた。その後、4校時には12クラスに分かれて韓国教職員が授業を行った。授業では、韓国の楽器チャングや伝統遊びを紹介し、子供たちからは歓声が上がった。給食は数名ずつ分かれて児童と共にし、通訳なしではあったが、それぞれのクラスで交流を楽しんでいる様子であった。5校時には2グループに分かれて授業参観を行い、最後に意見交換の場が設けられ、韓国教職員からは「生活教育が行き届いていると感じた」「校長の運営がしっかりしており、教職員が優秀である」など、感想が述べられた。



全校児童による歓迎会(永田台小学校)

2.グループ・プログラム (各県・市)

A グループ:千葉県八千代市

大徳(テドク)高校の校長金元中(キム・ウォンジュン)氏をグループ長とするAグループは、1月21日(水)から24日(土)までの4日間、千葉県八千代市を訪問した。同市教育委員会の協力により、小学校3校、中学校1校、大学1校と、千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館と八千代市立郷土博物館を訪問した。

◆ 市長・教育長表敬訪問・オリエンテーション

プログラム第4日の1月21日(水)午後、訪問団一行は、八千代市市長の秋葉就一氏と教育長の加賀谷孝氏の表敬訪問を行った。秋葉市長は、同市が韓国との交流を積極的に行っていることを紹介し、訪問団を歓迎した。加賀谷教育長は、この交流を機に、同市における教育をさらに発展させ、両国の友好がさらに深まることを祈念する、と述べた。次に、訪問団を代表し、金元中グループ長が八千代市で過ごす4日間を意義深い時間にしたい、盛大に歓迎に感謝する、とあいさつした。その後、金元中グループ長と秋葉市長、加賀谷教育長がそれぞれ記念品交換を行った。

続いて、八千代市のオリエンテーションが行われ、まず、教育委員会の小林伸夫教育次長が歓迎のあいさつと共に同市の教育施策を紹介した。八千代市では、「子どもたちの可能性を引き出す教育」、「学ぶ意欲の向上」、「教育を核とした新しい地域社会の構築」、「学校施設の計画的な改修、学校規

模の適正化」の4点を重点施策としている、と述べ、その後の質疑応答では、学ぶ意欲の向上施策に関する質問や学校と地域社会の連携についての質問があがった。



秋葉市長(左)と金グループ長(右)
(八千代市総合生涯学習プラザ)

◆ 歓迎交流会

同日午後6時より、八千代市主催の歓迎交流会が開かれた。八千代市側からは、加賀谷孝教育長、学務課の内藤俊夫課長のほか、教育委員会の職員、各訪問校の校長や教員、過去に韓国派遣プログラムに参加した教員、ホストファミリーなどが出席した。

教育次長の小林伸夫氏の開会のことばがあり、続いて、加賀谷教育長のあいさつ、金元中グループ長のあいさつがあった。そして、教育委員長の石井伸一氏の乾杯の音頭で歓談が始まった。交流会の途中には、同市の若手教員による韓国アイドルグループのダンスが披露され、会場は大盛り上がりとなった。韓国側からは、歌やハーモニカ、サクスの演奏が披露され、両国の参加者が互いに手を取り合い、交流を深めた。



歌とサクスの演奏を披露する韓国教職員(歓迎交流会)

◆ 八千代市立八千代台東小学校

プログラム第5日の1月22日（木）午前、一行は八千代市立八千代台東小学校を訪問した。

一行が到着すると、日本と韓国の国旗を手にした全校児童に温かく迎えられ、訪問団は、学校をあげての歓迎に感動した。

はじめに、校長の三浦義彦氏のあいさつと学校概要説明があり、教育目標が「世界とつながる、人間性豊かな子どもの育成」であること、来年度より新校舎に移ること、給食センターから運ばれる給食はアレルギーのある児童に配慮されていることなどが説明された。続いて金元中グループ長より、感謝の意が述べられた。

続いて、雨天の日を除いて行われている業間体育を見学し、訪問団は1月の寒空の下、児童が元気に校庭で縄跳びをする姿に驚いた様子であった。続いて行われた授業見学では、同校の全クラス回り、児童の様子や施設を見学した。その後、教員との意見交換が行われ、児童の服装や学校と地域住民や保護者と関わりについて議論をした。

給食交流では、韓国教職員が2名ずつ各クラスに入り、児童と一緒に給食と食べた。最後に金元中グループ長と三浦校長が記念品を交換し、一行は児童たちに見送られながら同校を後にした。



児童の歓迎を受ける韓国教職員
(八千代市立八千代台東小学校)

◆ 八千代市立大和田南小学校

同日午後、一行は八千代市立大和田南小学校を訪問した。児童による吹奏楽の演奏に迎えられ、一行は同校の歓迎ぶりに心を打たれた。

はじめに教頭の島川英昭氏のあいさつと学校概要説明があり、「世界に生きる大南の子」を学校目標としていること、同校の教員は、クスノキのように大きく育ててほしいと願いを込めて教育しているという説明があった。その後訪問団を代表して金元中グループ長が、秩序・清潔・共同といった日本の良いところを学んで帰国したい、とあいさつし、記念品を交換した。

続いて授業参観があり、音楽と国語の総合的取り組みである読み聞かせの授業や、幼かったころの自分を振り返る生活科の授業を見学した。その後、同校管理職との意見交換があり、学校の施設管理や環境活動に関する質問があがった。続いて、同校の多くの教員との意見交換があり、下学年グループと上学年グループの2グループに分かれ、引き続き教職員間の意見交換を行った。授業参観で見学した、読み聞かせや生活科の授業についての質問や、公文書処理や児童の個人記録簿の管理についての質問があがり、活発な議論が交わされた。



生活科の授業を見学する韓国教職員ら

◆ 八千代市立阿蘇小学校・八千代市立睦中学校

プログラム第6日の1月23日（金）午前、Aグループは2グループに分かれて学校訪問をした。15名が訪問した八千代市立阿蘇小学校では、はじめに校長の梅津友彦氏が、今日の交流を通じ、日本と韓国の教育や文化について互いに認識を深め、学びあえる機会としたい、とあいさつした。続いて学校概要説明があり、学ぶ意欲を高めるための読書活動の充実、里山体験を通して行う環境教育の推進、小学1年生からの英語教育と国際交流活動を通して行う国際理解教育の推進を3つの柱として、ESDを推進していると述べた。続いて行われた歓迎集会では、同校の児童と韓国教職員が、「故郷の春」を韓国語で、「カントリーロード」を英語で一緒に歌い、歌を通して琴線に触れる交流をした。その後、授業参観や教職員の意見交換が行われ、特にESDについて活発に議論した。

17名が訪問した八千代市立睦中学校では、はじめに校長の久保光則氏のあいさつ、続いて金元中グループ長のあいさつがあった。その後行われた学校概要説明では、一小一中の小規模校であること、豊かな自然に囲まれ温かい地域性であること、芝生の校庭があることなどが紹介された。また、生徒の可能性を引き出すため、学びあう教室、豊かな心、地域との連携の3点を教育目標としていることが説明された。授業参観では、全教室を見学し、生徒が集中して授業に臨む姿や、整理整頓された校内の様子に感心した。休憩を挟み、教職員の意見交換があり、中2病についての質問や情報モラルについて議論が交わされた。

その後、両グループは阿蘇小学校に集まり、同校の児童と給食と食べた。各教室に韓国教職員が2～3名ずつ入り、身振り手振りに加え、ICTなどの機器を活用しながら、積極的に児童と交流した。



児童との給食交流（八千代市立阿蘇小学校）



授業参観（八千代市立睦中学校）

◆ 秀明大学

同日午後、一行は八千代市にある秀明大学学校教師学部を訪問した。同学部は、郷土の教育を担う、確かな指導力がある一流の教師を全寮制で育成している。はじめに、学校教師学部の近藤公一学部長より歓迎のあいさつと学部概要説明があり、創設7年目の新しい学部だが、教員就職率が高く、成果を上げている。その理由は、「教育に対する使命感・情熱」、「豊かな人間性・社会性」、「確かな専門的知識」、「実践的指導力」の4点を求められる教師像として教育しているからである、と述べた。続いて、広々としたキャンパスを回り、授業を見学した。訪問団は、スーツを着用して懸命に授業に臨む学生の様子に感銘を受けた。続いて、

韓国教職員と大学教員、教員採用試験に合格し卒業を控えた学生との意見交換が3つのグループに分かれて行われた。意見交換では、日本社会における教員の地位、取得単位数、教育実習、学費などに関して活発に意見交換をした。同学部では、全寮制であるというメリットを生かし、月曜から木曜まで、夜間に3時間講義を行うと聞き、訪問団は教員になったばかりの頃の初心を思い出した。最後に、金元中グループ長が感謝の意を述べ、同校を後にした。



意見交換（秀明大学）

◆ 国立歴史民俗博物館・八千代市立郷土博物館

プログラム第7日の1月24日（土）、Aグループ一行は、千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館と八千代市立郷土博物館を見学した。国立歴史民俗博物館では、韓国語のガイドレシーバーを借り、関心のある展示を各々見学した。寺子屋の体験コーナーでは、江戸時代の古文書や双六を通し、日本の歴史や文化に触れた。また、原始・古代から現代に至るまで、日本と韓国の共通点を多数発見した。続いて見学した八千代市立郷土博物館では、はじめに館長の清藤一順氏のあいさつがあり、続いて同館を見学した。展示物の一つひとつから同市の自然や歴史、それらの移り変わりを理解することができ、今回交流した八千代市の

方々がどのような場所で育ち、生活しているか、その背景を理解することができた。



説明を聞きながら見学する団員ら
（八千代市立郷土博物館）

◆ 情報共有会・ホームビジット

八千代市立郷土博物館見学後、休憩を挟み、同博物館の会議室で約1時間の情報共有会を行った。翌日大阪で行われる報告会のため、発表原稿や資料を整えた。情報共有会終了後、宿泊ホテルに戻り、15時頃ホストファミリーに迎えられ、それぞれの家庭に出発した。夕食を挟んでのホームビジットでは、短い時間ながら、日本人や日本文化に直接触れることができる、あたたかい時間を過ごすことができた。

B グループ：千葉県

龍江（ヨンガン）中学校の校長、李景錫（イ・ギョンソク）氏をグループ長とする B グループは、1月21日（水）から24日（土）までの4日間、千葉県を訪問した。同県教育委員会の協力により、小学校1校、高等学校1校、特別支援学校1校に加え、千葉県立現代産業科学館を訪問した。

◆ 千葉県知事・教育長表敬訪問

1月21日（水）午後、中庁舎10階大會議室にて千葉県知事の森田健作氏および教育長の瀧本寛氏を表敬訪問した。まず、森田氏があいさつをし、教育とは子供たちの未来を創るものであり、私たちの子、孫たちがより一層仲良くできるよう頑張っている、と述べた。続いて、グループ長の李景錫氏が今回の受入れに感謝の意を表すとともに、千葉県の学校、教育施設訪問を通して多くのことを学びたい、と意気込みを語った。続いて記念品交換、記念撮影が行われ、終始友好的な雰囲気の中、表敬訪問を終えた。

休憩を挟み、同会場でオリエンテーションが行われた。千葉県教育庁企画管理部教育政策課長の川島幸雄氏によって、千葉県の基本的な情報や教育施策などについて詳細な説明がなされた。説明終了後、質疑応答の時間が設けられたが、この時間をより有意義なものとするため、専門知識を有する職員30余名が出席した。特別支援学校における無償教育の有無、学習サポーターの役割と具体的な活動内容、道德教育の内容や家庭教育との連携、各学校のホームページ運営や対外広報、外国語に特化した高等

学校の有無、ICT教育の導入についてなど、さまざまな質問があがり、対応する課の職員から質問事項に対する丁寧な説明がなされ、訪問団員は日本および千葉県の教育について理解を深めた。



森田知事（前列右から7番目）、瀧本教育長（前列右から6番目）を囲んで（千葉県庁）

◆ 歓迎交流会

同日午後6時半より、ホテルプラザ菜の花1階レストラン「フロール」にて千葉県主催の歓迎交流会が行われた。千葉県側からは、千葉県教育庁企画管理部長の山口喜弘氏、教育政策課長の川島幸雄氏をはじめとし、企画管理部および教育振興部の職員、各訪問校の校長や教員などが出席した。交流会が始まると、山口氏のあいさつに続き、グループ長の李景錫氏、ACCUの米島百合子人物交流部部長からあいさつがあった。そして、川島課長の乾杯の音頭で歓談が始まった。各テーブルには神田外語大学の学生が通訳ボランティアとして配置され、日韓教職員の交流がより円滑になされた。交流会の途中では、訪問団員が伝統楽器演奏および珍島アリランの合唱を披露した。日韓の友好を願う気持ちを表現するために歌詞の一部変え、曲の終盤では両国の国旗を両手に持ち、左右に振りかざしながら歌う訪問団に出席者から熱い拍手が送られた。最後に、教育政策課教育立県推進室長の込

山一之氏の閉会のあいさつで、歓迎交流会が締めくくられた。



珍島アリランを歌う訪問団（歓迎交流会）

◆ 千葉県立桜が丘特別支援学校

1月22日（木）午前、Bグループ一行は、千葉県立桜が丘特別支援学校を訪問した。今年で創立54周年を迎えた同校は、これまで一貫して全教職員で一人ひとりの児童生徒の成長・発達のための指導・支援を実践してきた。現在、国際理解教育の推進を重点目標のひとつに掲げ、持続可能な開発のための教育システムの構築を目指している。

はじめに、校長の中川奥治氏からあいさつがあり、流暢な韓国語で自己紹介をし、歓迎の意を表した。Bグループからは、真乾（チンゴン）中学校の校長、姜明姫（カン・ミョンヒ）氏があいさつをし、記念品の交換が行われた。また、歓迎行事として児童生徒が合奏、合唱を披露した。学校概要について説明を受けたのち、3グループに分かれて授業参観が行われた。同校には、小学部、中学部、高等部にそれぞれ児童生徒の状態に応じて3つの課程があるが、全課程の授業を見学した。授業見学終了後、韓国で特別支援学校に勤務する安寿真（アン・スジン）氏が自校の概要やESDの取組

を紹介した。続いて、3グループに分かれ意見交換会が行われた。グループIでは、勤務体制、研修制度、児童生徒の食事指導、教職員の異動などについて質問や意見が飛び交った。グループIIでは、訪問団員が勤務校の特別支援学級の様子を紹介したり、韓国の制度について説明する一方、進級制度やクラス編成などについて韓国側から質問があがり、同校の教職員によって丁寧な説明がなされた。グループIIIでは、英語の授業の有無、正職員数、嘱託介助員の役割、作業学習の内容などについて質問があがった。また、特別支援学級や統合教育について盛んに意見が交わされた。給食体験では、千葉県産の食材で作られたメニューが提供され、ESDの観点から見ても意義深い時間となった。また、食堂での給食指導を見学する時間も設けられた。同校の給食では、「普通食」のほかに、子ども達の食べる力（飲み込む力、噛む力など）に合わせて、ミキサーをかけて柔らかくした「つぶ食」、ペースト状にした「ペースト食」があり、児童生徒一人ひとりへの思いやり、真心が感じられる指導体制をみて涙を流す訪問団員もいた。最後に中川校長、姜明姫氏が互いに謝辞を述べ、一行は同校をあとにした。



盛んに意見を交換する日韓の教職員（千葉県立桜が丘特別支援学校）

◆ 千葉県立市川昂高等学校

1月22日(木)午後、Bグループ一行は、千葉県立市川昂高等学校を訪問した。平成23年度に旧市川西高等学校、旧市川北高等学校が統合してできた同校は、旧市川西高等学校時代の平成22年にユネスコスクールの認定を受け、国際理解、高大連携、人権教育、環境教育などを中心にESDを推進している。到着後、視聴覚室で歓迎セレモニーが行われた。まず同校校長の柴田淳氏からあいさつがあり、続いてBグループから大邱西部(テグソプ)高等学校の校長、朴南喆(パク・ナムチョル)氏があいさつをした。また、セレモニーでは記念品交換や教頭の川崎浩一氏による学校概要説明が行われた。セレモニーが終わると、交換授業および授業参観が行われた。交換授業が行われた2クラスではそれぞれ、韓国文化、伝統行事などを紹介する授業、韓国の伝統音楽および伝統衣装を紹介する授業が行われ、実際に伝統衣装を着る体験学習の時間も設けられた。授業参観では、これらの交換授業の様子を見たほか、同校の地理、書道、音楽、社会、情報の授業を見学した。続いて、麗澤大学国際交流センター主任の韓基煥(ハン・ギファン)氏をコーディネーターとして迎え、視聴覚室にて日韓教育交流会が開かれた。まず、市川昂高等学校教諭の高橋一勝氏が国際交流、環境保護、地域交流を中心とする同校のESDの取組について説明した。また、高橋氏は、同校の4つのメソッド(交流、実践、体験、研究)を紹介した。続いて、大田(テジョン)外国語高等学校の教頭、崔相玟(チェ・サンヒョン)氏が勤務校の概要、ESDの取組、国際交流の実績などを紹介した。それぞれ

の発表が終わると、両国の教育、ESDをテーマとする意見交換および質疑応答が行われた。市川昂高等学校側からは、韓国の大学進学状況、高大連携の実績について質問があがり、訪問団員が詳細に説明を行った。教育交流会が終わると、柴田校長、Bグループの朴南喆氏がそれぞれ謝辞を述べ、一行は同校をあとにした。



柴田校長(左)と朴南喆氏(右)
(千葉県立市川昂高等学校)

◆ 市川市立中山小学校

1月23日(金)午前、Bグループ一行は、市川市立中山小学校を訪問した。創立132周年を迎えた同校は、2009年にユネスコスクールに加盟した。伝統ある小学校として、理科教育を中心とした教育活動を半世紀以上継続している。学校到着後、校長の藤間博之氏からあいさつがあり、Bグループからは月山(ウォルサン)小学校の校長、金龍雲(キム・ヨンウン)氏が代表であいさつをした。記念品交換、学校概要説明、日程説明に続き、校内見学の時間が設けられた。同校は、展望台、水族館、ゆとりぎルーム、なぜなゼルームなど特色のある施設、教室が多く、また、児童が優しい行いをするたびに折り紙でつくった花を張り付ける「花咲き山」や、身近なところでの疑問や発見を書き留めた「発見カード」などが廊下に掲示されており、韓国でESD

に取り組む訪問団員にとって有意義な時間となった。続いて、2グループに分かれ、授業参観を行い、それぞれ家庭科、理科の授業を見学した。家庭科の授業では、調理実習として「祭り寿司づくり」が行われ、その後の意見交換会では、祭り寿司づくりを行うに至った経緯や目的の説明があった。また、韓国では栄養士が自ら授業を行うことがないため、栄養教諭の制度や役割についても多くの質問があがった。理科の授業では振り子を用いた実験が行われ、意見交換会では、教育理念、指導方法について多くの意見が交わされ、特に授業へのICT機器の導入をめぐる有意義な意見交換がなされた。意見交換会終了後の給食体験では、家庭科の授業で扱った「祭り寿司」試食の機会も用意されており、訪問団員の日本の食文化への理解が一層深まった。最後に記念撮影を行い学校をあとにしたが、教頭の太田秀人氏が当日中にその写真を訪問団のもとへ届け、訪問団員を感動させた。



調理実習を見学する訪問団員（市川市立中山小学校）

◆ 千葉県立現代産業科学館

同日午後、Bグループ一行は、千葉縣市川市にある千葉県立現代産業科学館を訪問した。現代産業の歴史に関する展示を見学し、千葉県の産業史や電力、石油、鉄鋼など各産業への理解を深めた。また、「創造の広場」に用意された参加型の展示や、放電

実験など各種実験の見学を通して、科学現象や科学技術への理解を深めた。また当日、企画展示室では五市中学校合同技術家庭科作品展が開かれており、特に韓国で技術家庭科教育に携わっている訪問団員は、興味深そうに見学していた。



T型フォードについての説明を受ける訪問団員（千葉県立現代産業科学館）

◆ 情報共有会・ホームビジット

1月24日（土）午前、複合施設きぼーる内の千葉市ビジネス支援センターで情報共有会が行われた。これまでのプログラムの成果を振り返ると共に、翌日大阪で行われる報告会のための準備を行った。情報共有会終了後、昼食を挟み、15時からホームビジットが行われた。訪問団員が日本の一般家庭を訪問するこのプログラムでは、日本料理や音楽、着物体験など各受入れ家庭がそれぞれ工夫をこらし、真心をこめて訪問団員をもてなしてくれた。終了後、ホテルに戻った訪問団員からは、「一生忘れられない思い出になった」、「日本文化への理解がさらに深まった」などの感想があり、また受入れ家庭からも、「これをきっかけに今後も交流を深めていきたい」との声が多く寄せられるなど、たいへん有意義な時間となった。

Cグループ：和歌山県

上党（サンダン）高等学校校長の金丙珪（キム・ビョンギユ）氏をグループ長とするCグループ33名は1月21日（水）から24日（土）までの4日間、和歌山県を訪問した。和歌山県教育委員会協力のもと、中学校1校、高等学校1校、特別支援学校1校のほか、稲村の火の館、和歌山県立博物館を訪問した。

◆ 教育長表敬訪問・オリエンテーション

プログラム第4日の1月21日（水）午後、訪問団一行は和歌山県庁南別館に赴き、和歌山県教育委員会の表敬訪問を行った。公務で急遽欠席となった教育長の西下博通氏に代わり、同教育委員会学校教育局長田村光穂氏から「短い日程ではあるが、和歌山県への理解を深めていただき、今後の教育交流の理解の促進につなげていただきたい」と歓迎の言葉が述べられた。訪問団を代表して金丙珪グループ長からもお礼の言葉が述べられた後、同教育委員会学校教育局長池田尚弘氏より、和歌山県の概要および和歌山県の学校教育についての説明がなされ、同県の韓国との歴史的なつながりや姉妹校交流などが紹介された。また、9つの教育目標を設定し、そのうち3つの重点目標である「学力の向上」「体力の向上」「国際人の育成」が具体的な実践を例に挙げて紹介され、それらに関連する動画も上映された。その後の質疑応答の時間には、「気候や地域による学期制の違い」「統廃合の基準」「大学進学率」などについて韓国教職員から多数の質問が寄せられた。最後に記念品の交換と記念撮影が行われた。



質問をする韓国教職員（オリエンテーション）

◆ 歓迎夕食会

同日午後6時30分より、アバローム紀の国にて歓迎交流会が開催された。同教育委員会学校指導課児童生徒支援班・班長の前田成穂氏が司会を務め、田村局長と金丙珪グループ長によるあいさつの後、和歌山県立星林高等学校校長の有本欽治氏の乾杯の音頭で歓談が始まった。和歌山県側からは各訪問校の校長や、昨年夏に韓国政府による日本教職員韓国訪問プログラムに参加した教員が出席し、日韓の教員間の会話も弾んだ。また、歓談の途中で、各訪問校の校長による学校紹介や紀州太鼓の地元奏者による演奏が披露され、会場を盛り上げた。最後に、韓国側より伝統楽器の演奏と伝統芸能「パンソリ」が披露され、会を締めくくった。



全員で記念撮影（歓迎交流会）

◆ 田辺市立明洋中学校

プログラム第5日の1月22日(木)、一行は田辺市立明洋中学校を訪問した。田辺市では学社融合の取り組みを市内全小中学校で行っている。同校でも家庭科の授業で地域から講師を招へいしたり、地域の行事や活動に生徒が積極的に参加するなど、地域に密着した学社融合の取り組みを進めている。

到着すると、田辺市教育委員会教育長の中村久仁生氏の出迎えを受け、歓迎の言葉が述べられた。訪問団を代表して、鄭玉南(ジョン・オクナム)氏が受け入れに対するお礼のあいさつをし、訪問団から中村教育長と校長の佐武正章氏へ記念品が贈呈された。続いて、佐武校長より学校概要説明がなされ、生徒の学校生活や年間行事などについて紹介がされた。また、榎澤満芳教務主任からは「学ぶ意欲を高める指導のあり方」をテーマとする同校の研究授業についての説明がなされた。

休憩を挟み、1年生との交流会が開催され、生徒による校歌斉唱とボディパーカッションが披露された。続いて、韓国教職員を代表して金旻恩(キム・ギョンウン)氏が韓国の中学校について紹介を行い、生徒たちも韓国の生徒たちの様子について知る機会となった。給食を取った後、2グループに分かれて、基礎教科をはじめ、美術、体育、家庭科などさまざまな授業を参観し、校内の施設見学を行った。その後、3年生を中心とする熊野古道語り部ジュニアが英語で熊野古道の紹介を行い、一行は温かい拍手を送った。また、ブラスバンド部や体操部など部活動見学も行い、授業とは違う生徒たちの活発な姿を見ることもできた。

最後に、質疑応答の時間が設けられ、韓国教職員からは、「人間性を育てる教育について」「部活動の担当について」「卒業後の進路について」「地域との連携について」など、質問があがった。



生徒による熊野古道の紹介(明洋中学校)

◆ 和歌山県立星林高等学校

プログラム第6日の1月23日(金)午前、一行は和歌山県立星林高等学校を訪問した。同校は「自主自律を尊び、高い志を持つ生徒」を育てるため、学力向上・進路保障に重点を置いた教育を展開するとともに、礼儀やマナーなどを身に付ける教育にも力を入れている。また、国際交流活動も盛んであり、オーストラリア、中国、韓国の姉妹校との研修や国際理解セミナーなど、国際理解を深めるためのさまざまな取り組みを展開しており、普通科と国際交流科を併設している。

一行が到着すると、教頭の江原秀哲氏による司会進行のもと、校長の有本欽治氏より歓迎の言葉が述べられ、訪問団からは金應照(キム・ウンジョ)氏がお礼のあいさつを行い、記念品が贈呈された。続いて、同校国際教育部教諭の鈴木裕子氏より、学校概要説明がなされた。

その後、2グループに分かれて授業参観を行い、国際交流科1年生の英語の授業では、授業の進め方や使用している教科書に

について関心を寄せていた。最後に設けられた質疑応答の時間には、「英語教育について」「生活指導について」「進路・職業教育について」など様々な質問が出て、同校だけではなく、日本の公立高校のシステム全般についても理解が深まった。出発前には、学食を体験し、生徒に一番人気のあるメニューである「からまヨ井」を堪能した。



英語の授業を見学（星林高等学校）

◆ 和歌山県立たちばな支援学校

午後は、有田郡広川町にある和歌山県立たちばな支援学校を訪問した。同校は1991年に設立され、知的障害と肢体不自由の児童生徒152名が学んでいる。小・中・高等部から成り、障害の種類や程度は幅広い。学校教育目標である「確かな学力の定着」「健康な心とからだをつくる」「豊かな人間関係の構築」「主体的に生きる力の育成」という4つの柱を中心に、個々の教育的ニーズに応じた教育活動を展開し、生涯学習の基礎となる力を育てている。

はじめに、校長の東中啓吉氏から歓迎のあいさつがあり、教頭の神崎良子氏から訪問スケジュールの説明がなされた。その後、2グループに分かれて、木工、窯業、縫飾、園芸などの作業学習を見学し、それぞれの教室では生徒が制作した作品を見せてもら

ったり、生徒自身から説明を受けたりした。休憩を挟み、体育館にて小学部と中学部の児童生徒による歓迎会が開催された。中学部代表生徒によるあいさつと、訪問団代表の李相鉄（イ・サン Chol）氏のあいさつに続き、児童生徒による校歌を、韓国教職員は日本の歌「いつも何度でも」を披露し、交流を楽しんだ。

歓迎交流会終了後は、児童生徒たちがスクールバスで下校するのを見送り、2グループに分かれて校内施設見学を行った。続いて、会議室にて東中校長より学校概要説明がなされた。韓国教職員からは、「学校評価について」「予算について」「入学基準について」「進路について」などの質問があがっていた。



歌を披露する韓国教職員（たちばな支援学校）

◆ 広村堤防・稲村の火の館

たちばな支援学校を後にした一行は、広村堤防と稲村の火の館を見学した。同堤防は、1854年の安政南海地震発生後、濱口梧陵の指揮のもと建設された。また、稲村の火の館は、梧陵の社会的偉業や防災精神を学ぶことのできる施設である。当日は同館館長である崎山光一氏が、梧陵が稲村に火を放ち、この火を目印に村人を誘導して多くの命を救った「稲村の火」の物語を交え、

訪問団を案内した。訪問団員からは、津波や安全教育について考えるきっかけとなり、大変参考になった、知識よりも行動が大事だと思った、などの感想があがった。



防災に関する展示を見学（稲村の火の館）

◆ 湯浅の街並み散策、角長（醤油資料館）

広川町から隣の湯浅町へ移動し、角長（醤油資料館）を見学した。湯浅は醤油発祥の地として知られ、角長（醤油資料館）の周辺一帯は重要伝統的建造物群保存地区として国の指定を受けている。同資料館では、醤油の製造工程についてのビデオ上映や、醤油の歴史や道具の展示を見学した。

◆ 和歌山県立博物館

プログラム第7日の1月24日（土）午前、一行は和歌山県立博物館を訪問した。同館は、和歌山県ゆかりの文化財の保存と活用をはかり、和歌山県の歴史と文化についての認識を深める機会を、和歌山県民に提供するために設置された歴史系総合博物館である。同館副館長の鈴木晴久氏と学芸課長の竹中康彦氏の出迎えを受け、竹中学芸課長より同館の歩みや展示物、学校との連携について説明がなされた。その後、竹中学芸課長の案内のもと、常設展と企画展「描かれた紀州」を見学した。



竹中学芸課長による展示説明（和歌山県立博物館）

◆ 情報共有会・ホームビジット

昼食を挟み、一行はプラザホープ会議室にて情報共有会を行い、翌日の報告のための発表資料の準備をした。

情報共有会が終了する頃には、ホームビジット受け入れ家庭が別の会議室に集合していた。対面式が行われ、受け入れ家庭の家族と面会した後、それぞれの家庭に出発した。短い時間ではあったが、各家庭で食事をごちそうになったり、着物を着せてもらったり、和歌山城周辺を散策したりなど温かいもてなしを受け、日本の文化に触れることができた。受け入れ家庭の多くが訪問校の教職員や教育委員会の職員で構成されており、教員同士の会話は共通点も多く、盛り上がった様子であった。

3.全体プログラム（大阪）

1. 報告会（第8日）

プログラム第8日の1月25日（日）、A、B、C、各グループは各地方から大阪に集まった。昼食を挟み、リーガロイヤル NCB の3F 会議室「花の間」にて、報告会が行われた。式には、訪問団の他、文部科学省大臣官房付の秋葉正嗣氏、国際連合大学大学院事務局長の岩佐敬昭氏、および2013年8月と2014年8月の韓国政府日本教職員招へいプログラムで訪韓した日本教職員数名が日本側の来賓として出席した。

報告会では、C、B、Aグループの順番で、各グループ代表より逐次通訳を含み20分ずつプログラムの感想、成果等についての発表が行われた。各グループの報告は以下の通りである。

—Cグループ—

まずCグループを代表し、全羅南道教育庁の河順龍（ハ・スニョン）指導主任より発表があった。横浜市立永田台小学校と和歌山県を訪問したCグループは、日本の学校教育における「命の教育について」、またそれがESDとどのように連携されているのかについて発表した。

- 横浜市立永田台小学校：命の教育
住田昌治校長が106のESD実践事例の「サステイナブルマップ」を作製。同校の教員が昨年の韓国派遣プログラムに参加した際、白血病で亡くなった新潟の生徒が育てた朝顔の種を学校で育て、

その種を韓国の学校に渡した。今回の訪問団の先生の学校（新龍山小学校）がその種を育て、育った種を住田校長に渡した、という感動的な話があった。

永田台小学校では、ESDの精神がまるでもみじの紅葉のように自然に地域社会に広がっていった。

- 田辺市立明洋中学校：学社融合教育を通じたクラブ活動
学社融合の様々な部活動があった。ブラスバンドの演奏、地域と連携した郷土料理クラブ、運動部や芸術活動もレベルが高いことが印象的だった。
 - 和歌山県立星林高等学校：スターチャレンジ
「知」「徳」「体」の調和のとれた人材を育てるスターチャレンジが実践されていた。スターチャレンジは、基礎学力の定着、家庭での学習、職業のためのキャリア教育の3段階で構成されていた。
 - 和歌山県立たちばな支援学校：生きる力の教育
園芸、木工、窯業、布工芸、加工作品作りの5つの活動を通して、生きるための力を身につけさせる教育が行われていた。そのために全職員が努力していた。
 - 稲村の火の館
地震や津波などの自然災害に対する防災教育が、日本では生存と直結していることを実感した。
 - ホームビジット
日本とのパートナーシップの絆を固くし、思い出に残った。
- 今回の来日を通して、国際理解教育の重要

性と世界平和維持のために努力がより一層必要であることを切実に感じた。また ESD を考えるよい機会となった。児童生徒の変化が地域の変化をもたらし、世界の変化をもたらす。今回感じたものを生かして、信念をもって韓国の児童生徒に指導していきたい、と発表を終えた。



報告会 C グループ

—B グループ—

次に B グループを代表し、大邱西部（テグソプ）高等学校の朴南喆（パク・ナムチヨル）校長が発表を行った。大田区立大森第六中学校と千葉県を訪問した B グループは、次のように発表した。

- 大田区立大森第六中学校
歓迎行事や授業参観、交流授業があった。同校では、地域社会と連携した環境保全活動・ボランティア活動・防災教育、新聞記事を利用した異文化教育の 2 つの面で素晴らしい授業を行っていた。
- 千葉県立桜が丘特別支援学校
学校紹介と歓迎会では、小中高校に分かれて歌を歌ってくれた。身体に障害のある児童が渾身の力を込めて歌う姿に大きな感動をもらった。同校では以下の 3 点

がポイントであった。

1. A、B、C と障害の程度に応じた教育プログラムがあり、個々に合わせたプログラムを実施
2. 障害に合った給食を提供
3. 173 人の児童のために、148 名の教職員が指導にあたっている

- 千葉県立市川昂高等学校
児童生徒の活動の様子や、政策について大変有意義な意見交換を行った。同校では以下の 3 点がポイントであった。
 1. 異文化理解を深めるために、中国語や韓国語の授業を実施している。
 2. 生物の多様性を知る環境教育・防災教育を行っている。
 3. 地域交流を活性化させるために一貫教育を実施している。
- 市川市立中山小学校
全校児童が廊下に出て、出迎えてくれた。授業討論では、活発な意見交換が行われた。ポイントは以下 2 点である。
 1. 理科を中心とする教育課程。
 2. 自然を活用した総合的な学習、環境学習を保護者と連携して推進している。

最後に訪問の成果について以下のようにまとめた。

韓国ではパソコンやスマートフォンを活用した ICT 教育を行っているのに対し、日本では書くことを中心として、考える力を育てるための教育を行っていた。書道、漢字を使った教育、体育、部活動が活発であった。また、日本では基本的な生活習慣

を身に着けることに重点が置かれている。これは、家庭教育と学校教育がうまく連携されているからこそ実現できる。

最後に、教員には自己啓発することが必要である。教育の課題は山積みだが、一つひとつ解決しなければいけない、と発表を締めくくった。



報告会 B グループ

—A グループ—

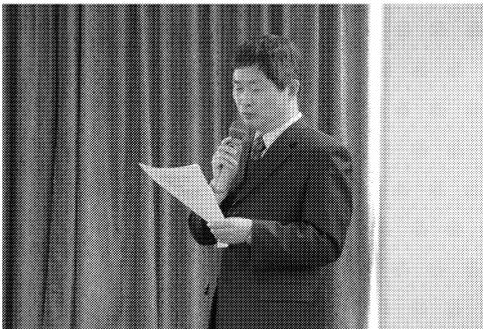
A グループを代表し、大徳（テドク）高校の金元中（キム・ウォンジュン）校長より、神奈川県立有馬高等学校および八千代市についての発表がなされた。

- 神奈川県立有馬高等学校では、両国の授業について有意義な意見交換ができた。部活動見学にて体験した茶道や ESS 部の生徒と一緒に体験した折り紙では、創造的な日本の伝統を現代に生かす生徒の姿から、希望の明日を見出すことができた。日本では、高校においても様々な活動に取り組んでいることがわかった。
- 八千代台東小学校では、児童とともに活動できるよう先生がジャージだった。冬の寒い時期にもかかわらず、休み時間になると児童が校庭に飛び出し、縄跳びなどを元気よく行う業間体操が印象的だった。
- 大和田南小学校では授業の内容次第で席の配置を変えており、先生がいかに関心を持って良い授業をしようとしているか、先生の情熱を感じた。エコキャップを 8 万 5 千個集めて、アフリカの子どもにワクチンを送ったという話を聞いて、韓国でもやってみようと思った。
- 阿蘇小学校では、校長の梅津友彦氏の韓国に対する関心の高さを感じた。校長がギターを演奏し、児童がリコーダーを吹いて歌った「故郷の春」では、心が通じ合ったように感じた。お互いの心の垣根を取り払い、気持ちの通い合う大事な時間を持つことができた。
- 睦中学校では、生徒が日中ジャージで過ごしていたが、画期的な取り組みだと思った。また、不登校の生徒のために、学年を超えて縦割りの授業を行っていたが、生徒一人ひとりにかかる教員の温かさを感じた。
- 秀明大学学校教師学部では朝から夜まで勉強すると聞き、自分が教員になったころの初心や情熱を思い出した。採用試験に合格し、卒業を控えた学生との意見交換では、4 月の着任を前に、胸を高鳴らせている様子に刺激を受けた。
- 国立歴史民俗博物館では、細かいところまで歴史を記録し、未来に伝えたいという気持ちが印象的だった。八千代市立郷土博物館では、八千代市の発展の様子を丁寧に保存しており、資料を教育の現場に活用していることがわかり、私たちに有益な示唆を与えてくれ

た。

- ホームビジットでは、細やかに準備しもてなして下さった姿に感動した。ご家族だけでなく、友人も集まってくれたので、一層意味のある家庭訪問となった。

最後に、日本は基本に忠実で、儉約、清潔、思いやりに富み、マナー教育が充実し、協働を重視していることが良く分かり、韓国での教育活動の参考にしたい、と述べた。最後に、清州新興高等学校の韓正勳（ハン・ジョンフン）教諭が日本語で「釜山港へ帰れ」を歌い、Aグループの発表を終えた。



報告会 Aグループ

2. 閉会式

報告会に続き同じ会場にて、閉会式が行われた。最初に文部科学省大臣官房付の秋葉正嗣氏が、日韓はたいへん重要な隣国であり、草の根で交流することが重要である。今回の訪日の経験を活かし、日韓交流を進めていける子どもの育成に努めていただきたい、次の世代の担い手となる子供たちの教育を担う先生方の役割は重いものである、と述べた。

続いて、国際連合大学大学院事務局長の岩佐敬昭氏が、歌を通して交流できたという報告を聞いて大変嬉しい。また、帰国後

も継続的な交流に力を入れてくだされば幸いだ。次は韓国でお会いしましょう、と述べた。

その後、駐大阪大韓民国総領事館領事の朴慶洙（パク・キョンス）氏よりあいさつがあり、今回先生方がご覧になったのは、日本の全体であったり、部分であったりもするが、韓国の教育現場で今回学んだことの実践をしていただきたい。教育の力こそが人を大きくする力。そしてそれは、今この場にいらっしゃる先生方の役割だ、と述べた。

その後、大阪韓国教育院院長の白承桓（ペク・スンファン）氏が、今回の訪日も終わりに近づき、様々な思いを抱いていると思う。日韓関係は「近くて遠い国」と表現されるが、活発な交流が行われ、近くて近い国となりつつある。今回来日できたことに感謝し、外見だけの比較ではなく、異国の教育を体験し理解することを願っている、と述べた。

最後に、韓国教職員訪日団代表を代表して、Cグループ長の金丙珪（キム・ビョンギョ）氏よりあいさつがあり、今回の訪問は、日韓両国の教育について考える機会となった。教育は未来の人材育成を目的としており、両国の人材が地球の平和と幸福、そして発展に貢献できるように、互いに心を合わせて努力していけばきっと良い結果となるだろう、と述べた。

閉会のあいさつの後、岩佐大学院事務局長から、グループ長3名に記念品の贈呈が行われ、閉会式は幕を閉じた。

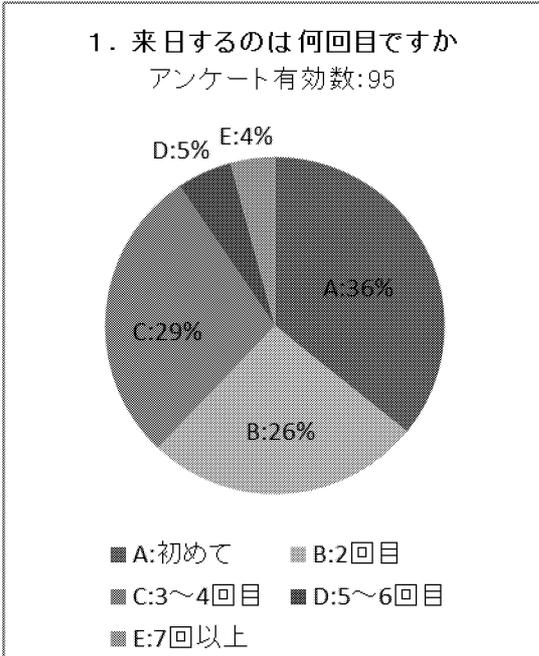
第II章

コメントと提案

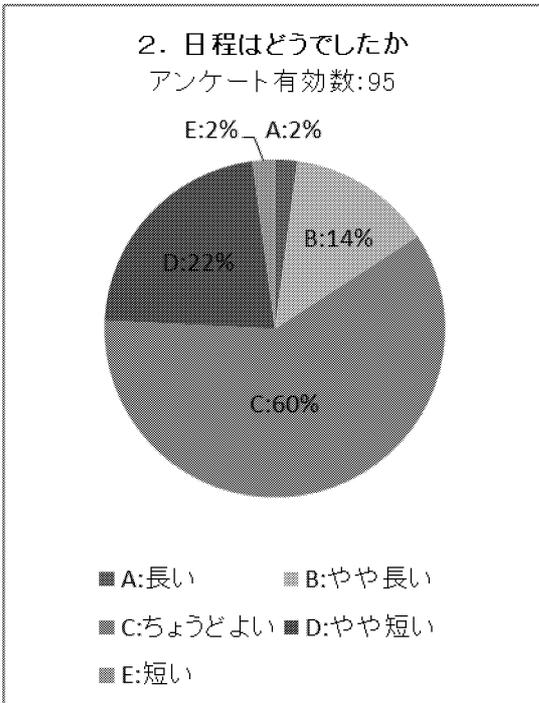
1. 韓国教職員
2. 受入れ教育委員会
3. 主な受入れ学校および機関

1. 韓国教職員

質問1.来日するのは何回目か



質問2.今回の日程はどうだったか



【主な意見】*原文は韓国語

A-04 キム・ウォンジュン (ちょうどよい)
適切だった。体力的にも無理がなく、ストレスを感じずに日程を消化できた。さまざまな学校を訪問できるように構成されていた。

A-15 オ・ヘソン (ちょうどよい)
3 都市を訪問し、また小中高・大学とすべての校種を訪問するスケジュールだったため、そこで児童生徒・教職員と交流するには時間が必要だと思う。日程は適切だったと思う。

A-30 ハン・ジョンフン (やや短い)
日本の先生との意見交換、質疑応答の時間が短かった。1日に1つの学校を訪問したほうが、内容が濃くなり良いと思う。

B-20 ソ・ミジン (やや短い)
ほとんど毎日学校や教育施設を訪問し、開会式や閉会式、歓迎交流会などのスケジュールがあったので日本の町中の文化や伝統文化などを感じる機会がなかった。これまでこのプログラムに参加したことのある先生の話によると自由時間もあったそうなので、その部分は非常に残念。

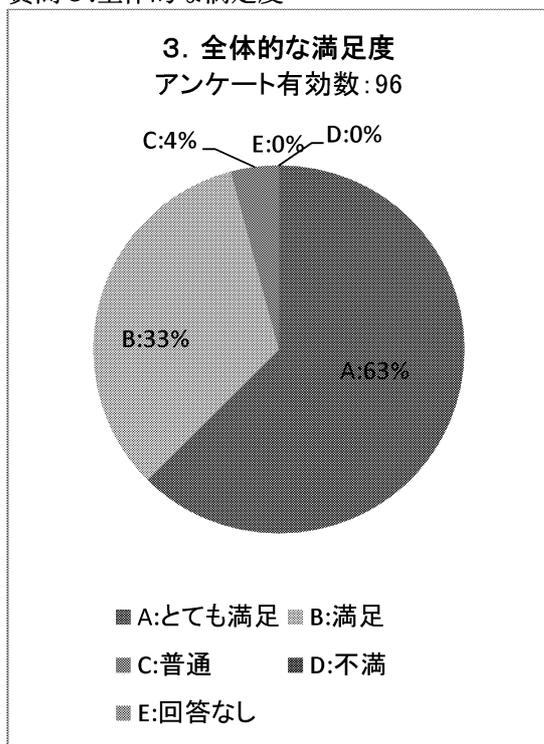
B-32 チェ・サンヒョン (ちょうどよい)
文部科学省のESD講義や千葉県の教育現況の紹介が素晴らしかった。各学校訪問を通して交流が図れたことも良かった。文化を体験する機会をより多く設けてほしい。(家庭訪問以外にも、文化・歴史を体感できる場所の訪問が必要)。

C-02 キム・ギョンウン (ちょうどよい)
さまざまな校種の学校が訪問でき、現在の教育政策をみることができた。スケジュールは適切だった。

C-05 キム・ビョンギョ (やや短い)
訪韓団を受け入れた経験から、1つの学校に1日すべてを費やすと、見学する側も受け入れる学校側もどちらも疲れるので、半日の訪問は適切だと思った。

C-20 イ・ギョンモク (やや短い)
小・中・高校及び特別支援学校など4つの校種を訪問し、さまざまな教育視察、また講義を受けるには時間が短いと感じた。あと2日くらいあればよかった。

質問3.全体的な満足度



【主な意見】*原文は韓国語

A-02 コ・ヨンナム (とても満足)

さまざまな体験型プログラムがあり、よく練られたスケジュールだと思った。心優しい日本の児童生徒と交流することができた。

A-04 キム・ウォンジュン (満足)

礼儀、規律正しさ、親切さ、協調性、教師の情熱など見習いたいことが多くあり、韓国の教育を反省するきっかけになった。

A-06 キム・ジョンヘ (とても満足)

阿蘇小学校の地域と連携した ESD 実践が印象的だった。

A-14 ヤン・オクギョン (とても満足)

主催者側の開会式・閉会式運営がスムーズで、各機関・団体から代表の方々が出席してくれたのが印象的だった。

A-15 オ・ヘソン (とても満足)

日本側がしっかりと準備がしてくれ、親切なアナウンスなどのおかげもあり、プログラムの進行が非常にスムーズだった。

A-21 イ・ホナム (とても満足)

日本の小中高、大学を訪問し、学校説明、授業参観、給食交流、意見交換などを通して、たくさんを経験、体験できた。非常に有意義だった。

B-04 コ・チュヨン (満足)

学校訪問を通して教育現場に対する理解を深めることができた。①大森第六中学校。野菜を栽培したり、虫を育てるなど地域社会と一緒に進むプログラム。②桜が丘特別支援学校。生徒たちの合唱や演奏、そして保護者の協力姿勢が印象的だった。

B-10 キム・ミヨン (とても満足)

スケジュールがよく練られており、通訳担当者の配慮もよく行き届いていた。短いながらも夕方の自由時間を活用して、観光名所を見学できたこともよかった。

B-15 パク・ナム Chol (満足)

小・中・高校及び特別支援学校訪問を通して、児童生徒の学習活動や教員の指導方法をみることで、両国の教育問題の解決方法を模索することができた。

B-20 ソ・ミジン (満足)

学校や日本人の家庭を訪問できたことが1番良かった。通常の旅行ではできないことだと思うので記憶に残り、有意義だったと思う。

C-02 キム・ギョンウン (満足)

ESD の進行状況、日本の学校の様子、運営陣のアイデアなど多くのことを学んだ。

C-20 イ・ギョンモク (とても満足)

さまざまな日本の学校を訪問し、たくさんを感じることができた。

C-26 ジョン・ミギョン (満足)

小・中・高等学校及び特別支援学校など日本の教育を全体的に見ることができてよかった。

C-32 ハ・スニョン (満足)

日本の小・中・高校の教育内容や教職員および生徒の学校生活を直接感じることでできる機会となった。スケジュールをこなすのが少し大変ではあったが、得るものが多いスタープログラムだったと思う。

質問4.参加目的は何か

【主な意見】*原文は韓国語

A-02 コ・ヨンナム

充実した日本のESDプログラムをみること。また、理屈ではなく、日本の文化などを直接体験すること。

A-04 キム・ウォンジュン

国際交流。また、日韓両国の教育の発展の可能性を探ること。

A-14 ヤン・オクギョン

ユネスコスクールの活動現況を調べること。ESDの実践現場を見ること。自由学期制に必要な共同授業、体験学習資料などの収集。

A-16 ユ・ホンヨル

日本の教育から学ぶこと。特にESD関連のプログラム内容が知れたかった。

A-19 イ・ジミョン

ユネスコの国際教育交流事業に関する理解を中心としてESDプログラムの進行状況や事例を通して(世界市民教育含む)、教育、平和教育についての事業企画及び構想を練ること。

A-21 イ・ホナム

日本の小、中、高、大学の様子や授業方法をみること。また、教職員の教育への思いなどを直接聞いてみたかった。ESDが教育現場でどのように実践されているか把握したかった。

A-30 ハン・ジョンフン

1.ESDの現況、またどのように適用しているかを知りたかった。2.日本の教育の全体的な状況と特徴を知りたかった。

B-01 カン・ミョンヒ

日本の教育を理解して日本と持続可能な発展を推進。

B-04 コ・チュヨン

ユネスコスクールとして、ESDにおける日韓両国の課題をみつけ、教育現場での実践方法を模索すること。ユネスコの精神に基づいてESDを実践する日韓両国の教育環境とプログラム内容を比べることで、発展させていくための方法を模索すること。

B-10 キム・ミヨン

ESDプログラムのアイデアを得ること。日本文化の理解および韓国文化の紹介。

B-15 パク・ナムチョル

日韓両国の教職員の交流を通して、今後の教育交流や文化交流の在り方を考え、日韓両国の青少年の交流の在り方を模索する。

B-20 ソ・ミジン

日本の教育制度と教育現場の様子を自分の目で見てみたかった。その部分においては、目的がほとんど達成されたと思う。しかし、日本の美しい景色や文化を体験することも目的の1つだったので残念だった。

B-26 イ・ギョンソク

ESDの事例をみて、自校でも実践すること。

B-30 ジョン・インスク

日本の教育の現状を理解する。ESDの好事例を探る。

B-32 チュ・サンヒョン

日本の教育の現状及び教育現場の理解。

C-02 キム・ギョンウン

環境教育、防災教育、平和教育の事例をみたかった。

C-05 キム・ビョンギョ

日本における学歴偏重の有無や学校生活に対する満足度を確認する。

C-20 イ・ギョンモク

隣国であるのにこれまであまりよく知らなかった日本の教育現場をみてみたかった。分かち合いや思いやりの教育について知りたかった。

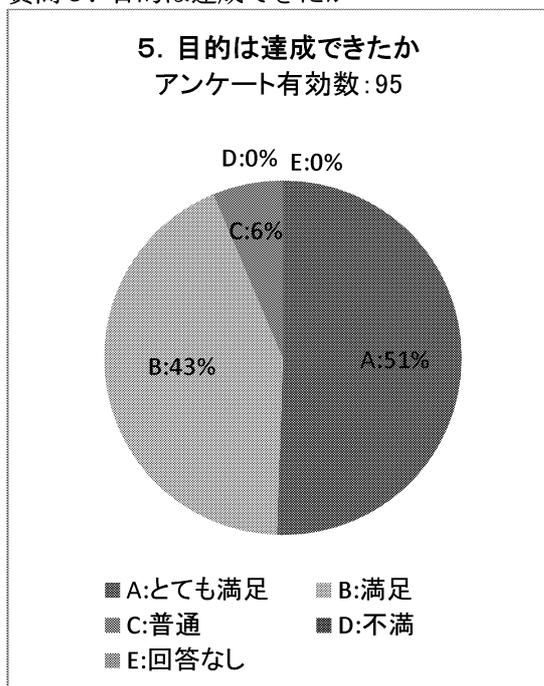
C-26 ジョン・ミギョン

日本の教育の潮流とユネスコの理念をカリキュラムに活かす方法を知りたかった。

C-32 ハ・スニョン

ユネスコの理念とESDに関する理解を深め、韓国のユネスコスクールへの支援方法を模索するため。

質問 5. 目的は達成できたか



【主な意見】*原文は韓国語

A-02 コ・ヨンナム (とても満足)

達成できた。今回、出会った日本人は韓国人にとっても親切だった。正直言って私は少し保守的だが、日本に対して好感を抱き始めた。このことは本当に素晴らしいことであり、満足している。

A-06 キム・ジョンヘ (満足)

各学校がそれぞれの目的を達成するために努力する姿勢をみて多くのことを学んだ。

A-14 ヤン・オクギョン (とても満足)

有馬高校の“Rice Project”はESD実践の好事例を見せてくれた。米作りが盛んな地域に位置する県立高校として、地域社会と連携して、農家と交流しながら稲作を行う生徒たちの活動が印象的だった。さらに外国からの留学生を招き、収穫したお米と一緒に料理をし、共に味わうというのは国際的な交流につながる。このような教育こそ真のESDの在り方だと感じた。

A-21 イ・ホナム (とても満足)

学校(教育)への情熱、生徒に対する配慮、また、あらゆる面で我慢し、思いやる精神が素晴らしかった。

A-30 ハン・ジョンフン (満足)

日本のESDについて理解できた。日本の教育現場で、ESDだけに集中する時間があればもっと良いと思う。(ESD実践のための行事、ESD実践のためのカリキュラムなど)

B-01 カン・ミョンヒ (満足)

日本の教育現場を見て、肌で感じ、多くのことを学んだ。このプログラムが、新たな交流の場となった。

B-10 キム・ミョン (とても満足)

大森第六中学校と桜が丘特別支援学校の訪問を通してESDのアイディアを得た。特別支援学校の現状を理解し、また教育現場を見ることで日本の教職員の献身的な姿勢に感動した。家庭訪問で日常生活について話したところ、日韓両国で通じ合う部分が多いと思った。

B-15 パク・ナムチョル (満足)

さまざまな教育活動を視察できた。また、日韓の教職員間での情報交流を通して、両国の教育問題を共有し、共に解決していく方法を探るきっかけとなった。

B-32 チュ・サンヒョン (満足)

特別支援学校、小・中・高校を満遍なく回る事ができた。文部科学省、千葉県担当者の講義を通じて日本の国政レベル、県レベルでの教育政策や現況をバランスよく知ることができた。

C-05 キム・ビョンギョ (満足)

受入れ校であるからには模範的な学校を選んでいることを踏まえても、明洋中学校の教職員の教育への情熱に感銘を受けた。

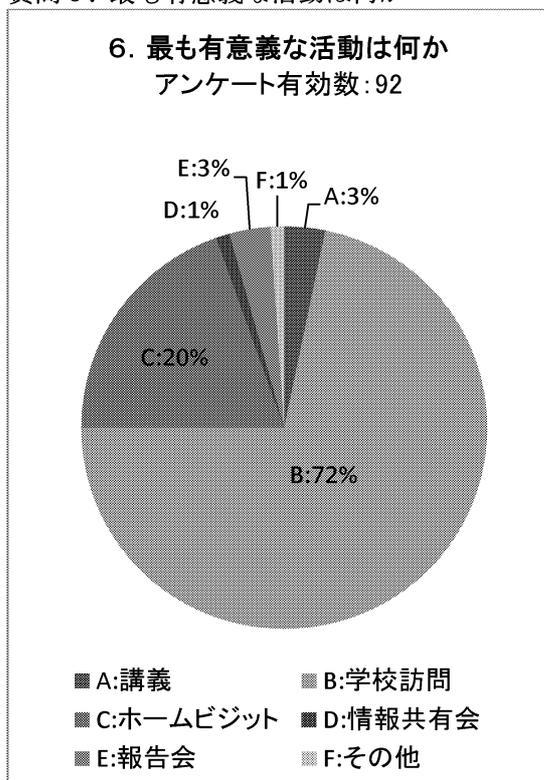
C-20 イ・ギョンモク (満足)

学校教育を通して道徳観を形成するのではなく、「人に迷惑かけないように」という精神教育が、すでに家庭教育の中で行われていることがわかった。

C-32 ハ・スニョン (満足)

ESDは未来の社会を美しく飾るための手段であり、児童生徒→学校→地域→世界へと広がっていくことのできるグローバル教育であると思った。

質問 6. 最も有意義な活動は何か



【主な意見】 *原文は韓国語

A-15 オ・ヘソン (ホームビジット)
日本の家庭を訪問し、ホストファミリーと幸せな時間を過ごした。ホストファミリーの日常生活に触れることができ、用意してくれた夕飯をいただきながら日韓の家庭の違いについて話し合った。(なかなかできない経験だと思う)。

A-16 ユ・ホンヨル (学校訪問)
質疑応答により、日本の教育の現状を理解できた。また、両国の教育問題を共有し解決策を学ぶことができた。

A-19 イ・ジミョン (学校訪問)
日本の小・中・高校の学校運営の現状を知り、‘日本社会を動かすエンジンの実体’を目にすることができた。

A-21 イ・ホナム (学校訪問)
日本の教育の現状を、肌で感じて学ぶことができた。韓国の生徒に忍耐、節度、思いやりなど道徳教育に重点をおいた学校生活ができるように指導する。食事後のリサイクルも素晴らしい取組だと思う。韓国の情報通信技術

の発達と現代化された最先端の教室に感謝する。

B-01 カン・ミョンヒ (学校訪問)
教育現場の訪問。韓国の教育を客観的に見るきっかけになった。

B-04 コ・チェヨン (学校訪問)
学校訪問の際に文化授業を行い、日韓の文化を紹介し、生徒たちと一緒に活動することで未来指向的な教育の方向性を見いだせた。

B-10 キム・ミョン (学校訪問)
ESD の模範事例を見ることができた。また、小・中・高校及び特別支援学校の事情が分かった。特に特別支援学校の教職員の懸命な指導とその中で育つ生徒が努力している姿勢からも多くを学んだ。また、生徒らの合唱、演奏は心温まるものだった。一人ひとりに合わせてケアしている様子も感動的だった。

B-20 ソ・ミジン (学校訪問)
教師という職業上、学校訪問は有意義なプログラムとなった。小・中・高校及び特別支援学校などすべての校種を訪問できたことも良かった。

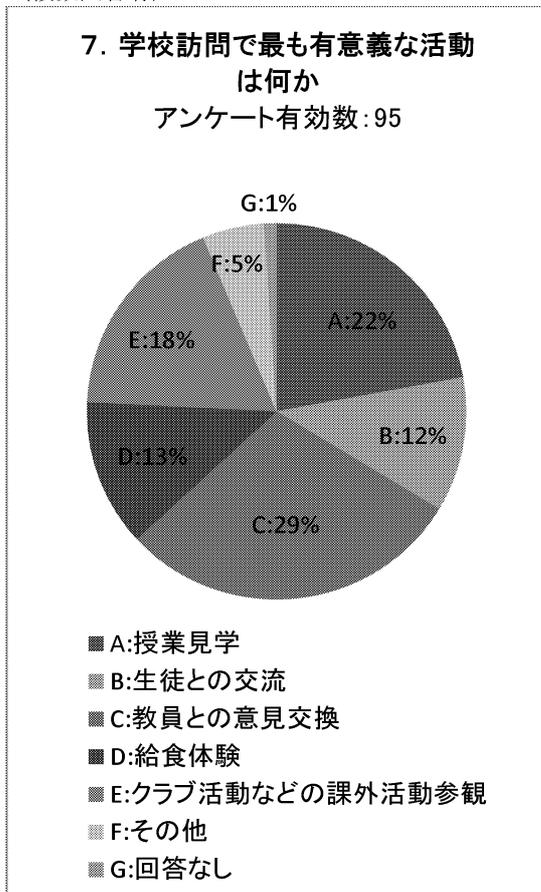
B-32 チェ・サンヒョン (ホームビジット)
ホストファミリーがしっかりと準備をしてくれ、最高のおもてなしをしてくれた。たくさんのお話を話し合い、日本人の家庭生活や庶民文化について知ることができた。

C-02 キム・ギョンウン (学校訪問)
地域社会と連携した進路指導、生態教育(永田台小学校)。明洋中学校の校長の教育精神、部活動。韓国では重視されていない、硬筆、書道など自分の内面と向き合う過程がまだ残っている。

C-20 イ・ギョンモク (その他)
防災教育—教員も運動靴を履いていた。また、約束を決め、災害発生時に集合する訓練。⇒このような防災教育が一つの単元ではなく、日常生活と密接にかかわる生活の中で行われているのが印象深かった。

C-26 ジョン・ミギョン (学校訪問)
個人の日本旅行では知ることのできない学校や教育施設を訪問し、生き生きとした教育現場を見ることが出来た。

質問7. 学校訪問で最も有意義な活動は何か
(複数回答有)



【主な意見】*原文は韓国語

A-04 キム・ウォンジュン (授業見学)
基本教育、協調教育、国際理解教育などが活発に行われている。節約のための実践教育がよく出来ている。

A-06 キム・ジョンヘ (教員との意見交換)
教職員との意見交換を通して、日本の教育、日本の教職員の考えが最もよく理解できた。

A-15 オ・ヘソン (教員との意見交換)
日本の地方の学校統廃合について、意見を取りまとめる過程で、教育支援課の努力、学校の努力、保護者対象の説明会の開催など、説得するには時間がかかるが最後まで可能な限り努力する共同体を構築しようという姿勢が窺える。韓国の小規模な学校の場合も同様の悩みを抱えているが、現実問題として統廃合の話も出てくる可能性があるだけに、知恵を集める努力が必要であり、日本の事例を参考にするのは良い方法になると思う。

A-21 イ・ホナム (教員との意見交換)
意見交換では、実際に教育現場で実践している教授法、学習方法、生活指導、教育への使命感などが話題にあがり交流できた。韓国の教育の長所(レベル別授業、教科教室制、ICT活用など)をあらためて感じ、自国の教育にも誇りを持つことができた

B-04 コ・チュヨン (給食体験)
桜が丘特別支援学校での給食体験では、メニューとその説明が書かれたプリントが配布され、自分の地域でつくられた食材を使用して給食を作っていることがわかった。訪問客へのおもてなしの気持ちを感じると共に、日本の学校給食がどのようなものであるか理解できた。

B-10 キム・ミヨン (生徒との交流)
韓国文化を紹介するため、しっかりと準備して交流授業に臨んだ。両国の生徒が相互理解を深め、互いへの興味を深めたことを確信した。

B-20 ソ・ミジン (授業見学)
参加型授業を行っているという点、また生徒からのリクエストを取り入れる場合もあるということが印象深い。そして、韓国ではなくなった書道の授業をまだ行っていることも興味深く受け止めた。

B-32 チュ・サンヒョン (生徒との交流)
交換授業を通じて、日本の児童生徒と直接交流することができた。

C-05 キム・ビョンギョ (クラブ活動等の課外活動参観)
部活動は水準が全体的に高く、自主的に参加していた。雨が降る寒い日にも半ズボンで走っている姿を見て、自国の児童と比べて反省する部分があった。

C-20 イ・ギョンモク (クラブ活動等の課外活動参観)
勉強だけのために学校に行くのではなく、“楽しい場所”として生徒たちがやってくるのを見て深く感銘を受けた。

C-26 ジョン・ミギョン (生徒との交流)
生徒のための教育について、あらためて考えるきっかけになった。

質問 8.他にどのようなプログラムがあったらよいか

【主な意見】*原文は韓国語

A-02 コ・ヨンナム

年齢、立場を問わず気持ちを1つにできるプログラム、たとえば一緒に歌ったり、演奏したりする機会があれば良い。

A-04 キム・ウォンジュン

日本の原子力に関する教育や地震についての教育の現状などをプログラムに入れたらいいと思う。

A-06 キム・ジョンヘ

授業見学では、すべての教室をまわって見学するよりESD関連の授業をする教室で1つの授業全体を見学し、その後、意見交換したら良いのではないだろうか。

A-16 ユ・ホンヨル

紹介された学校のESDプログラムの活動に実際に参加してみて成果や意見を共有したい。

A-19 イ・ジミョン

教育委員会（教育庁）の組織体系と機能、学校支援プログラム、単位学校との関係など都道府県教育委員会について理解できるプログラムの補完が必要。

A-21 イ・ホナム

一般的な教育活動に関する学校説明よりはESDの実践に焦点を当てたプログラムを入れてほしい。

A-30 ハン・ジョンフン

生徒たちと交流する時間があればいいと思う。

B-01 カン・ミョンヒ

その地域の文化を知ることができるプログラムが必要。

B-04 コ・チュヨン

一日あるいは半日くらいは該当地域の文化を見てまわる時間をつくってほしい。

B-10 キム・ミヨン

日本の名所旧跡などの紹介の時間も必要だと思う。

B-20 ソ・ミジン

自由行動の時間があれば日本を理解するのに大いに役立つと思う。

B-26 イ・ギョンソク

地方プログラムでは、その地方で有名な観光地などを見る時間。例えば、大阪では大阪城などの観光。

B-30 ジョン・インスク

文化に触れる時間。（冬なので午後5時ごろには暗くなる。午前のプログラムまたは昼食後を目安に、文化に触れる時間を設けるのがいいと思う）

C-05 キム・ビョンギョ

日本の文化を体験する時間が足りない。実際に足を運ぶことや、なにかをつくることは、印象深い経験になると思うので、ユネスコ遺産の熊野古道を半日歩きながら、景色について感じたことを発表する機会などがあれば良い。

C-20 イ・ギョンモク

世界文化遺産、遺跡の見学時間。

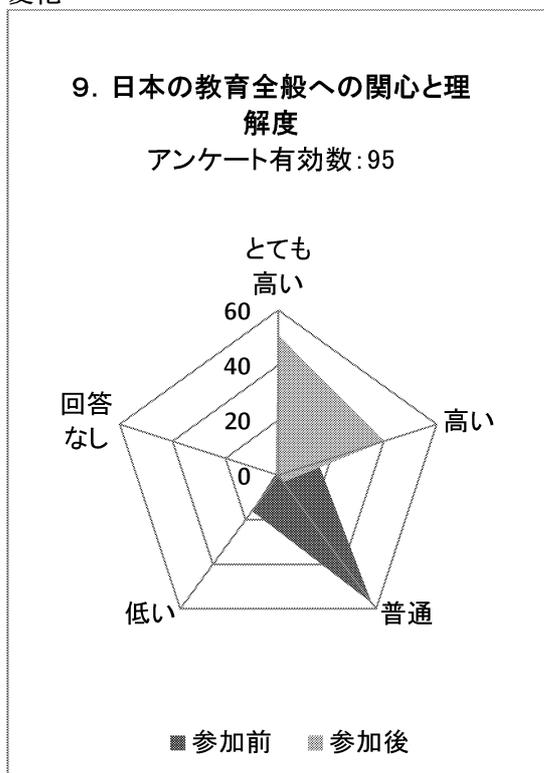
C-26 ジョン・ミギョン

日本の風習が分かるプログラムがあればと思った。

C-32 ハ・スニョン

日本文化をより深く体験できるプログラム。例えば、公演や文化プログラムのようなものがあればいいと思う。

質問 9. 日本の教育全般への関心と理解度の変化



【主な意見】 *原文は韓国語

A-04 キム・ウォンジュン (高い→とても高い)

韓国は、自由な教育をもう少し抑制し、生活指導をもっと重視し、メリハリをつけるべきだ。日本は個人のための教育というより国家、社会のための教育を徹底的に行っており、韓国はそのようなところを見習うべきだ。

A-14 ヤン・オクギョン (普通→とても高い)

親戚が日本で教育を受けたため、ある程度知っていたこともあったが、今回のプログラムを通じて多くのことを学び、関心を持つようになった。親戚から聞いた話では、日本の児童は非常に体力があるとのことだったが、実際にさまざまな授業を見てそれを実感した。

A-15 オ・ヘソン (高い→とても高い)

先進国である日本の教育現場を見てみると、基本に忠実であり、各学校は教育目標として抽象的ではなく具体的かつ実践可能な目標を設定して徹底的に指導していることがわかった。生徒たちは学んだことが身についており、

学校教育の効果が実生活にそのまま反映されていると感じた。特に初等教育における生き生きとした教育には胸を打たれた。

A-19 イ・ジミョン (普通→とても高い)

歴史的、環境的な理由で関心があまり無かったが、今回のプログラムを通して日本の実際の様子（もちろん、一部に過ぎないが）を見ることができ、特にここで出会った個人個人の姿勢や、個人個人の関わり方を見て、日本や日本の教育について興味を持つようになった。

B-10 キム・ミョン (低い→高い)

日本の教育：小学校訪問、授業参観を通じて ICT 教育、スマート教育について、正しく実践していることがわかった。利便性や実用性などの面で、学校施設の在り方についても考えさせられた。暖房、運動施設、砂の状態、トイレ(特別支援学校)などは改善の余地があると思った。

B-15 パク・ナムチョル (普通→とても高い)

学校訪問時の授業参観、交換授業を通して、小・中・高及び特別支援学校の教育活動、生徒への活動支援について教員間で情報交流が盛んになされ、多くの情報を得ることができた。

B-20 ソ・ミジン (普通→とても高い)

ただ単に知識として一般的に日本を理解しているに過ぎなかったが、実際に見たり、聞いたり、交換授業などを行うことで日本に対する言葉では表せない複雑な感情が消えた。また、見習う部分が多いことが分かった。

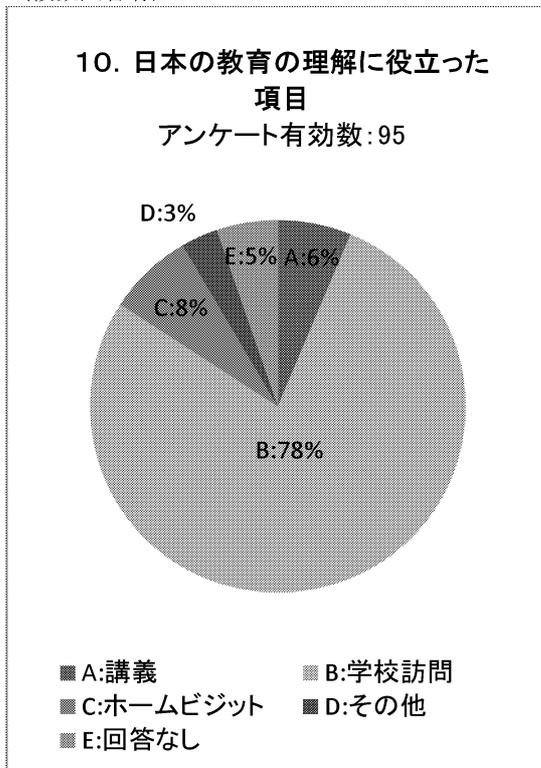
C-02 キム・ギョンウン (低い→高い)

反日感情が強く、興味がなかったが、勤務校がユネスコスクールになってから興味を持ち始めた。学校生活の中で、少しずつ一定のペースで教育が行われていることがわかった。

C-05 キム・ビョンギョ (普通→高い)

以前、日本の文部科学省の招へいプログラムで 15 日間来日したときと比較すると、校長の悩み事は多くなったようだが、教師は以前より自信を持っているように見え、生徒たちはより温和でまじめになったように思う。日本の教育者と保護者の相互理解ができており、支援がよく行き届いているように思えた。

質問 10. 日本の教育の理解に役立った項目
(複数回答有)



【主な意見】*原文は韓国語

A-04 キム・ウォンジュン (学校訪問)
生活指導の強調。礼儀、規律、清潔感を徹底的に教育している。強靱な精神力を養う教育、勤勉さ、節約についての教育が行われている。協調して、ほかの人のことを考える思いやりがある。

A-15 オ・ヘソン (学校訪問)
小・中・高・大学を訪問し、授業参観や給食体験などを通して、日本でのESDが持続的に発展していることがわかった。石鹸を無駄のないように使うために網に入れて使い、給食後は徹底したリサイクルを行っていることがわかった。また、廊下の掲示物(生徒の作品)を通して日本の生徒たちの学習のようすがわかった。

A-16 ユ・ホンヨル (学校訪問)
小学校は興味深かったが、中学校は雰囲気はかなり異なった。児童生徒の表情も小学校と中学校では対照的だった。これは両国の社会、教育課程の共通してみられることであり、日韓の共通課題だと感じた。

A-30 ハン・ジョンフン (ホームビジット)
知りたかったことについて聞くことができた。満足できる回答が得られた。

B-04 コ・チュヨン (学校訪問)
日本の教員の授業を観察して(中山小学校)、生徒たちの観察力、問題解決能力を向上させるために努力しているのがわかった。

B-05 クォン・ギョンヒ (講義)
学校訪問も良かったが、講義を通して日本の教育制度の大枠を理解することができたのが有意義だった。

B-10 キム・ミヨン (学校訪問)
大森第六中学校では、生徒たちが体育館で遊ぶ際もきっちりとしていることに驚いた。交換授業の際、こちらから先に日本の歌を歌いながら距離を縮めようとする、生徒が心を開いてくれた。オープンマインドで両国が互いに思いやり、理解をしないといけないと思った。

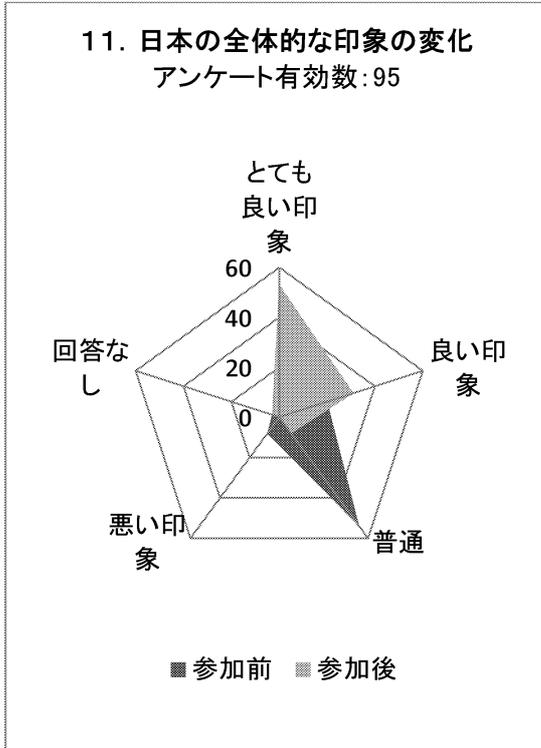
B-20 ソ・ミジン (学校訪問)
学校訪問を通じて児童生徒の自律活動に比重をおき、創造力を養う教育に力を入れていることがわかった。特に小学生が調理実習の際に包丁を使うことが危機管理能力を養うためだという話は印象深い。書道の授業が、道徳教育の役割を併せ持つということも印象深かった。

B-30 ジョン・インスク (学校訪問)
講義型授業は、個性を伸ばすのにあまり向いていないと思った。生徒の自発的な授業参加度が高いように思った。

C-05 キム・ビョンギョ (学校訪問)
実際に見聞きすることはもっとも大切だと思う。教育者として抱える問題は似ているが、対処にあたる学校の構成員の姿勢は異なるため、日韓の教育を対照することができた。学校訪問のグループ、訪問校を決める際には、小学校教員は小学校を訪問し、中学校教員は中学校を訪問するなど適切に割り振ってほしい。

C-32 ハ・スニョン (学校訪問)
教育課程、部活動、地域社会と連携したプログラム、基本的な生活指導など多くのものを見ることができた。

質問 11. 日本の全体的な印象の変化



【主な意見】*原文は韓国語

A-02 コ・ヨンナム (悪い→とても良い印象)
日本の右翼化(保守化)を心配しており、反日感情や偏見を持っていたことを反省した。日本を理解するための新たな視点が持てた。

A-15 オ・ヘソン (良い→とても良い印象)
日本人は親切で整理整頓ができ、人を思いやる気持ちがあり、先進国であることを感じさせられた。どこに行っても、些細なことも大切に、伝統を継承、発展させていくために努力する姿が見られた。

A-16 ユ・ホンヨル (普通→良い印象)
両国は、歴史問題、政治問題で多少の不和があったが、教育や教育への理解を通して未来の世代に希望を与えられることがわかり、両国の交流、友情を深めることができた。すべての面で競争するのではなく、真の“隣国”の在り方を追求できれば、未来の世代は友情を育むことができ、より明るく過ごせると思う。現在の様子も、博物館で見た過去の様子も、似た部分が非常に多く“隣国”であることを感じさせられた。国境を越え、一個人として出会いがあったことは非常に良かった。

A-21 イ・ホナム (普通→とても良い印象)
日本人の忍耐、我慢強さ、清潔さを感じると共に、両国の文化の違いがわかった。思いやり、ちょっとしたことにも関心を持つこと、(嬉しいとき、楽しいときの)素直な感情表現、あたたかいおもてなしができる心、挨拶や礼儀など良い点を学んだ。

B-01 カン・ミョンヒ (普通→とても良い印象)
家庭訪問を通して日本文化を実際に体験したこと、交流ができたことは有意義だった。学校訪問の際にも、心を尽くす教職員を見て、私たちも生徒や保護者にもっと心を尽くす姿勢を持つと思った。

B-10 キム・ミヨン (悪い→良い印象)
日本人の親切さ、韓国への関心、ホームビジットの際に見られた庶民の生活風景、観光地訪問、質素な食文化、さまざまな人々の様子を通して、日本に対する漠然とした不信感を拭うことができ、日本を理解するための鍵をたくさん見つけた。

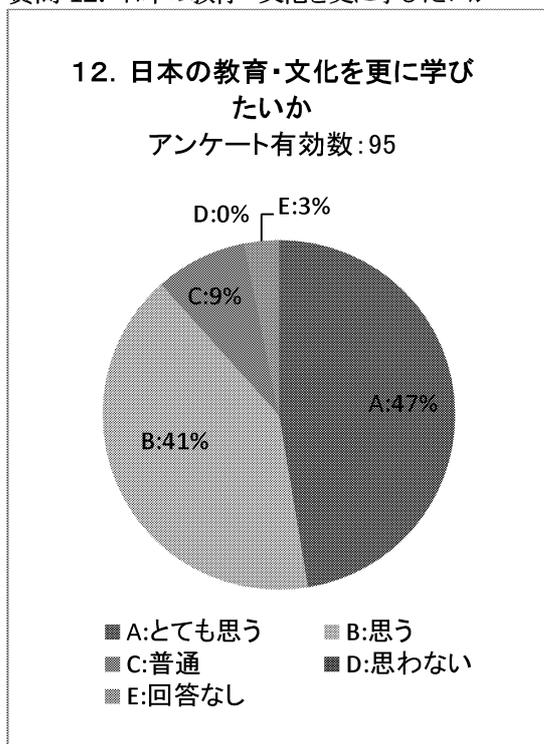
B-15 パク・ナムチョル (普通→良い印象)
基本的な生活習慣の形成がよくなされている。家庭教育と学校教育の連携がよくできているからだと思う。

B-20 ソ・ミジン (普通→とても良い印象)
客人に対し礼儀正しく、親切で、伝統文化について強い誇りを持っており、また、それを守るために多くの努力をしていることがわかった。そして、韓国への印象が良くないかもしれないと心配していたが、韓流のおかげか出会った(すべての)方々が韓国を肯定的に捉えていることを知り、逆に偏見を持っていたのは自分ではないかと思い恥ずかしく思った。

C-02 キム・ギョンウン (悪い印象→普通)
日本人は生活面で勤勉かつ誠実だが、人に迷惑をかける行動は絶対にしてはいけないと教育を通じて教わっていることがわかった。時間厳守、責任感についての指導も内面の形成に影響している。

C-20 イ・ギョンモク (良い→良い印象)
世界的にみて、日本人が問題を起こさない国民だということがわかった。8泊9日間、一緒にプログラムで行動を共にしたが、約束を重んじ、礼儀正しくするという日本の文化を直に見ることができた。

質問 12. 日本の教育・文化を更に学びたいか



【主な意見】*原文は韓国語

A-02 コ・ヨンナム (とても思う)

心を1つにできるよう、日本の歌、韓国の歌などを一緒に歌いたい。

A-04 キム・ウォンジュン (とても思う)

日本社会や日本の国家観について学びたい。いつでも人を思いやるように教育しているのが印象的だ。協調する精神、節約する精神を見習いたい。

A-14 ヤン・オクギョン (とても思う)

特別な設備がなくても、融合教育、ESDのために努力する姿勢を見習いたい。

A-15 オ・ヘソン (とても思う)

日本の教育、文化を学ぶためには言語が問題となるので、日本語学習を続け、ある程度自由にコミュニケーションがとれるようになれば、教育交流や文化交流が円滑にいくと思う。(通訳なしで大丈夫なレベル)。

A-19 イ・ジミョン (とても思う)

「それだ」と思ったものをすぐにほかのことにつなげて考えさせる日本の手法を学びたい。

B-01 カン・ミョンヒ (とても思う)

決められたルールをよく守り、親切で、ものを大切に使い、慎ましいたたずまいをみて、韓国の生徒もそのように教育しようと思った。

B-05 クォン・ギョンヒ (とても思う)

日韓関係は重要であるため、民間交流を通して両国間の問題を乗り越えて行ってほしい。児童生徒に日本についてもっと勉強するよう促し、次の世代では友好的な関係に発展することを願う。韓国文化(大衆文化)を好む日本の子どもがいることがわかったが、韓国の子どもも、同様に日本に好感を抱き、互いに交流してほしい。

B-10 キム・ミョン (思う)

日本の文化、食文化など非常に多くのことが韓国に入ってきていると思った。日本の文化、観光地、ショッピング事情などについてもっと知りたい。アニメなどの日本文化は韓国ですでに幅広く広まっている。

B-20 ソ・ミジン (とても思う)

出生率の低下により少子化となり、韓国では多くの保護者が子どもに行き過ぎた期待、投資をする傾向があるが、日本ではそのようなケースが少ないようだ。冬にも半ズボンにハイソックスという格好の児童が多かったが、韓国では見られない光景だ。暖房をきかせすぎているので、寒さに耐えられなくなっているという面もある。我慢強さ、省エネを幼いうちからどのように教えていくのか、もっと知りたい。また、道徳教育についてももっと知りたい。

C-02 キム・ギョンウン (思う)

韓国文化を理解し発展させるためには、他国の文化を理解しなくてはならないので、日本文化についてもっと知りたい。

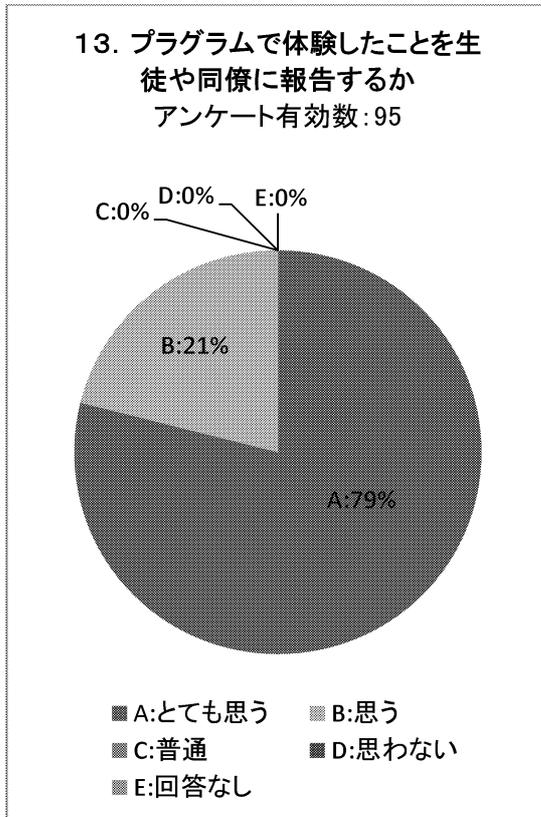
C-05 キム・ビョンギョ (とても思う)

「近くて遠い国」と言われる日本だが、あたたかい気持ちであらためて視線を向けてみると、私たちが見習うべきことがかなり多い。教育、文化をじっくり知る機会が必要だと思う。

C-32 ハ・スニョン (思う)

隣国であるにも関わらず、友好関係が築きたい歴史問題があるために距離を置いてきたが、日本に対する正しい理解と判断が国際社会で韓国の位置を決定する際に役立つと思う。

質問 13. プログラム体験を生徒や同僚に報告しよう
と考えているか



【主な意見】 *原文は韓国語

A-14 ヤン・オクギョン (とても思う)
韓国は日本に比べても施設が充実しており現代化されているが、それに見合った効果が得られていない。韓国の学校で、教師、生徒らに日本での経験したことを伝える。

A-16 ユ・ホンヨル (とても思う)
教育課程は似ている部分が多く、また同様の問題を抱いている。多少異なるところもあるが、日本の教職員は豊かではない教育財政の中で、教育に専念しており、情熱を感じた。また、地域社会と協力してグローバル人材を育てているところが印象的だった。

A-19 イ・ジミョン (とても思う)
自分1人だけでとどめておくにはもったいないので、共有し、教育の発展、国家の発展に貢献したい。

A-30 ハン・ジョンフン (とても思う)
部活動を活性化するために日本の部活動について説明したい。

B-01 カン・ミョンヒ (とても思う)
日本の良いところを見習うとともに、韓国の長所が何かを伝え、足りない部分を補うような教育をする予定で、資料も準備した。

B-04 コ・チェヨン (とても思う)
131年、70年の歴史を持つ学校を訪問したことで、伝統を現代につなぐ日本の教育の力を知らせたい。防災対策を実践する日本の学校の様子についても知らせたい。

B-20 ソ・ミジン (とても思う)
韓国では書道や家庭科の調理実習、体育の授業などを軽視する傾向がある。受験を中心においた教育では、入試と関係ない科目は軽視されがちだが、日本ではこの科目を重要な科目として採択し、健康のため、また道徳教育のために力を入れているのが印象的だった。各自の願いを書いて鶴を折って壁に展示しているのも、道徳的な面で大いに役立つと思う。

B-30 ジョン・インスク (とても思う)
生徒たちの積極的な授業参加、ESD 関連のプログラム内容、リテラシー教育、書道、漢字教育の強調、基本的な生活習慣形成のための教育などについて伝えたい。

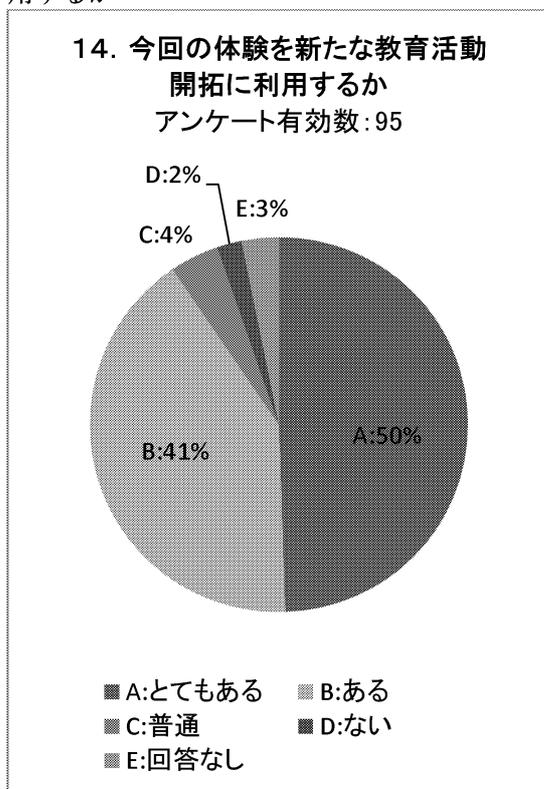
C-02 キム・ギョンウン (とても思う)
生活指導(時間厳守、責任感、人に迷惑かけない行動、掃除)などについて徹底的に教えたい。多くのことを教えるより1つのことをきちんと教えたい。

C-20 イ・ギョンモク (とても思う)
国際理解教育の面で、情報資料として役立つとも思うが、自分自身が感じた経験を生徒に話して、生徒が日本を理解し興味を持たせることが重要だと思う。

C-26 ジョン・ミギョン (思う)
韓国ではかなり前から軽視されてきた基本的なルール、道徳についてあらためて教育するべきだと強調したい。

C-32 ハ・スニョン (思う)
日本の理解、国際理解のため、正しい判断をするために情報共有が必要だと思う。

質問 14. 今回の体験を新たな教育活動開拓に利用するか



【主な意見】*原文は韓国語

A-02 コ・ヨンナム (とてもある)
給食を通してマナー、礼儀を養う。

A-04 キム・ウォンジュン (とてもある)
校長として日本の規律、清潔、思いやり、協調、節約する姿勢についての教育を強調し、日本の国民性を見習いたい。

A-16 ユ・ホンヨル (ある)
地域社会と連携した道徳教育。業間体育活動。

A-19 イ・ジミョン (とてもある)
“学びの共同体” (佐藤学教授)《授業が変わると、学校が変わる》は、京畿道の革新的な学校で一般的に実践されている。この部分について今回、睦中学校が見せてくれたものをさらに研究し、関係 (教室-教師、教師-生徒、生徒-生徒) 回復により、民主的な学校を実現させたい。

A-21 イ・ホナム (とてもある)
学力向上のために、持続的に指導、確認を行う活動。生徒の気持ち、礼儀、感情などにつ

いての教育内容。“わくわくさせる授業”の具体的な内容は分からないが、モチベーションを高め、興味を持たせるため、教授、学習モデルをつくり具体化させたい。

B-01 カン・ミョンヒ (とてもある)
トイレの清潔さ、生徒たちの授業に対する姿勢、グループ活動での規律正しさ、また道を聞いたときにスマートフォンで検索してくれたり、直接案内してくれる親切さ。
⇒市民の資質向上。

B-04 コ・チェヨン (普通)
廊下の掲示板に生徒の作品を掲示するところ。

B-05 クォン・ギョンヒ (とてもある)
ユネスコスクールの生徒のために、日本を理解するための時間を設けたい。(環境、防災教育、生命尊重教育、給食文化など)

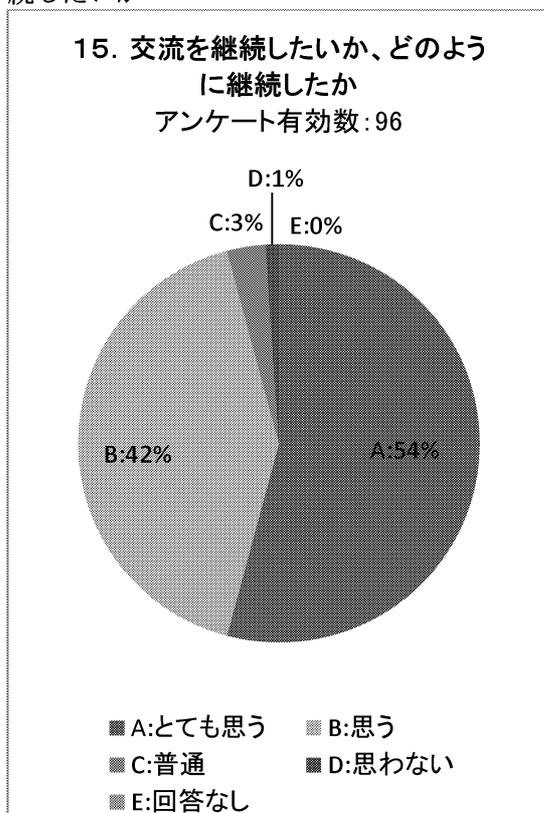
B-10 キム・ミヨン (とてもある)
ESD に基づいた考え方の中で、「地域は学校の屋根」というスローガンで生徒指導にあっている大森第六中学校を見本にしたい。

C-05 キム・ビョンギョ (ある)
近隣の中学校に明洋中学校の校長がくれた資料に補足を入れたものを配布し、高校では1学期末頃に学習指導、生活指導、進路指導で力を入れている点を「紹介資料」として1ページにまとめ配布してみようと思っている。教員の責任感が高まり、生徒にとっても参考になると思う。

C-20 イ・ギョンモク (とてもある)
永田台小学校のESD。特にサステイナブルマップ作成。

C-32 ハ・スニョン (ある)
部活動における地域社会と連携した指導をベンチマーキングしたい。教育は学校内だけではなく、地域、国家、地球へと広がっていかないといけないみんなの課題であるとあらためて認識した。郷土意識を高めるための地元の歴史、名士、文化の解説など応用できるような活動が多かった。

質問 15. 交流を継続したいか、どのように継続したいか



【主な意見】*原文は韓国語

A-02 コ・ヨンナム (とても思う)
文化コンテンツを用いた交流。校歌や地域情報など一番簡単なところから。

A-06 キム・ジョンヘ (とても思う)
韓国の ESD と日本の ESD 事例の共有。

A-14 ヤン・オクギョン (思う)
韓流ブームの影響を受け、訪韓する教職員、生徒たちを招待し、1 日ガイド及び家庭訪問の受け入れをしてみたい。

A-15 オ・ヘソン (とても思う)
勤務校が外国語高校であるため、日本語科の生徒がおり、現在も姉妹校と交流をしている。日本の姉妹校もユネスコスクールであるため、合同授業、遠距離授業と共に直接交流を行っている。姉妹校との関係をさらに深める。相互セミナーを開催する予定。まずテーマを決め、交流時に共同発表を行う計画だ。

A-16 ユ・ホンヨル (とても思う)
学校間で協定を結び、互いに学校訪問し、生徒の交流を行いたい。(ESD を中心として)

A-21 イ・ホナム (とても思う)
交流を通して長所や優れた部分をベンチマーキングし、教育活動を展開したい。特に、日本を訪問した教職員が韓国を訪問する日本人を迎えて会話の場を設ければ、より深い交流ができ、より深い共感ができると思う。

A-30 ハン・ジョンフン (とても思う)
1.日本の学校と交流協定を結び、日韓の生徒の交流プログラムを実施。2.E-mail による協力の活性化(Facebook など)

B-01 カン・ミョンヒ (思う)
ホームビジット受入れ家庭の先生と連絡を取り合うと約束した。ESD の実践方法などを互いに共有する。

B-20 ソ・ミジン (とても思う)
各国の料理を実際に作ってみる(食文化交流)。名所旧跡を訪問し、その意味を探る。

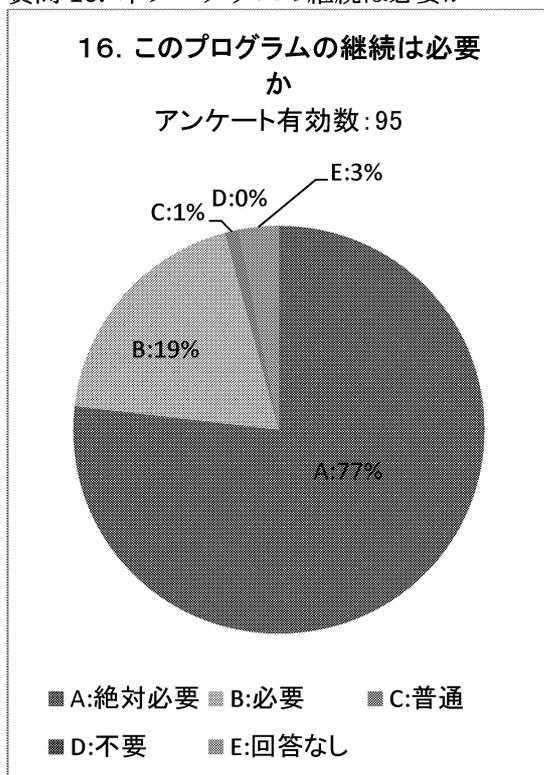
B-26 イ・ギョンソク (思う)
交換学習。

B-32 チェ・サンヒョン (とても思う)
教職員の研修。生徒の修学旅行。生徒同士の小規模な交流。交換留学制度の運営 (寮又はホームステイ)。

C-02 キム・ギョンウン (思う)
ユネスコ部同士の交流。ユネスコキャンプに参加。

C-05 キム・ビョンギョ (とても思う)
グローバル市民として、たくさんの人と出会うことを生徒自身が願っていると思うので、ユネスコプログラムに積極的に参加して民間交流を広げたい。

質問 16. 本プログラムの継続は必要か



【主な意見】*原文は韓国語

A-04 キム・ウォンジュン (絶対必要)

より広い視点で日韓が共に成長していけると
思う。若い生徒たちの世界を見る視野が広
くなり、文化交流を通して歴史観を正すこと
ができると思う。

A-14 ヤン・オクギョン (絶対必要)

ESDをもっと学ばなくてはならないと思う。

A-15 オ・ヘソン (絶対必要)

隣国との交流を通して相互理解を深め、共通
の問題を賢く解決するのに大いに役立つと思
う。未来の主人公である生徒たちを指導する
教職員の情報交流は、世界市民としての共同
体を形成するのに役立つと思う。

A-21 イ・ホナム (絶対必要)

“敵を知り己を知れば、百戦危うからず”と
いう言葉があるが、このような交流はお互い
を知る良い機会だ。同じ教育活動に従事する
者が集まり、学校訪問で授業を見学し、話し
合いを行うことはとても有意義で、有益な活
動である。積極的に推進して行ってほしい。

B-01 カン・ミョンヒ (絶対必要)

日本文化、教育を現場で感じられる良い機会
になった。今後も教職員の招へいプログラム
を通して隣国の教育を理解し、韓国の教育を
改善していくことで、Win×Win 関係になる
ことが必要である。

B-04 コ・チュヨン (必要)

日本全体の教育現状および課題を総括的に理
解し、学校訪問ではさらに具体的な実践例、
適用例を見る機会があり、相互文化の理解に
役立つ。

B-05 クォン・ギョンヒ (絶対必要)

次の世代が日韓交流を通して協力していく必
要があると思う。大人になると歴史問題に対
する感情を変えるというのは難しいが、多く
の子どもであれば互いに好感を持つことがで
きると思うので、アジアの平和的な未来のため、
教師や児童生徒の交流プログラムが必要
だと思う。

B-10 キム・ミョン (絶対必要)

まずは教師が相互理解をすることで、児童
生徒の成長にプラスの影響を与え、両国の子
どもの未来や両国関係改善関係改善に貢献で
きると確信している。反日感情があり、また
無関心だった私だが、今回のプログラムを通
して日本のイメージが改善された。このよう
なプログラムは、日本人、日本文化を理解し、
日本と未来指向的な関係を築いていく方法の
中でも、非常に効果的なやり方だと思う。

B-15 パク・ナムチョル (絶対必要)

ESDについて学び、広め、発展させていくた
め。日韓の相互理解のため、また互いの長所
を取り入れるため。

B-20 ソ・ミジン (絶対必要)

両国が相互理解するためには、実際に訪問し
て交流するのが一番効果的な方法だと思うた
め。韓国の最先端の技術を取り入れた教育環
境も見せたい。

C-02 キム・ギョンウン (必要)

日本も韓国も右傾化しつつある状況ではある
が、さらなる民間レベルでの交流が必要であ
る。民間団体との連携を広げ、強化していく
ことで、両国が相互発展のために足りない部
分を補い合い、平和的に発展していくべきで
ある。

質問 17. その他気付いた点

【主な意見】*原文は韓国語

A-02 コ・ヨンナム

韓国人より勤勉で慎ましいとホームビジットで感じた。

A-04 キム・ウォンジュン

聞き手のことを考えて、具体的に説明してくれる。

A-06 キム・ジョンヘ

正しい教育のためには充実した施設が必須なのではないと思った。正しい相互理解のためには実際に面と向かって交流することが必要だと思う。日本の食べ物は少ししょっぱい。みそ汁はしょっぱすぎて口に合わなかった。

A-14 ヤン・オクギョン

日本人が韓国に対してとても友好的なことが分かった。

A-15 オ・ヘソン

日本の小学校では児童の体力向上のために、休み時間を利用して1日20分、全校児童が縄跳びなどをするというのが非常に印象深かった。我慢強さを養うために寒い日でも半ズボンを履いているのも印象的だった。児童生徒の作品を廊下に掲示しているところも学習を振り返り、意欲を高めるという意味で良いところだと思う(書道、ペン字、絵など)。

A-21 イ・ホナム

文化の違いー①日本食がしょっぱい。②思いやりーホチキスの針の端が重なっていて、指をけがする恐れがない。③トイレの水が自動的に流れる(デパートで)。④生徒のコート、制服をかけるハンガーがあって良かった。⑤教師の靴が上履き。歩くとき足音がしなくて良かった。

韓国の情報通信技術が優れていること、学校施設の最先端化、教育政策のグローバル化が素晴らしいこともわかった。

A-30 ハン・ジョンフン

1.街にごみが少ない。2.全体的に静かな文化。3.人に迷惑をかけない思いやり。4.整理整頓がしっかりできている(睦中学校)。5.日本の児童の元気さ(寒い日でも半ズボンを着用)

B-01 カン・ミョンヒ

学校訪問の際、校長や先生が丁寧に説明(ブリーフィング)してくれたのが感動的だった。特別支援学校の生徒に対するサポートや、教育活動もとても感動的だった。韓国側の教職員が中学生を対象として行った授業では日韓交流がなされ、非常に有意義な授業だった。

B-05 クォン・ギョンヒ

特別支援学校への政府の関心とサポート、特別支援学校の数が多いところ、献身的な教師の態度などに深く感銘を受けた。韓国は特別支援学校の数が少なく、一般学校の中に特別支援学級を設けている学校も多くはない。韓国の特別支援学校を理解するのも良いきっかけになった。

B-10 キム・ミョン

両国には政治問題、歴史問題があるものの、本当に似ている部分が多いと思った。民間交流をもっと拡大し、相互理解を広げていくことが必要だと思う。どちらの国でも、教育者はみんな大変だと思う。空路で大阪へ向かう際、雪が積もった富士山が見えて感動した。

B-30 ジョン・インスク

すれ違う人々に礼儀正しく挨拶するのが印象的で、自転車を利用する勤勉な市民を見て、どうして国力が伸びたのかその秘訣がわかった。

B-32 チェ・サンヒョン

家庭訪問の際、教員であるホストファミリーが市川昂高校の吹奏楽部の生徒たちの演奏を見せてくれた。生徒が教師を信頼し、教師に従い、教師は生徒たちに愛情を持って指導していることが見てとれた。その先生やその生徒に深い感銘を受けた。

C-32 ハ・スニョン

校長の教育精神、教師・生徒が心一つに合わせて情熱的な教育活動をしている様子に感銘を受けた。生徒の環境保護活動、まじめに掃除する姿、最後まで手を振りながら見送ってくれる姿、積極的に部活に参加する姿など。特に芸術関連科目、体育教育の面で見習うべきところが多かった。

2. 受入れ教育委員会

きなど、韓国の先生方が感激している様子が印象に残りました。

Aグループ

八千代市教育委員会

主査 山本 正義

プログラムの全体的印象

- 韓国教員と八千代市教員が授業参観を通じて意見交換や交流ができたことは有意義であった。本市教職員の資質向上につながった。
- 歓迎夕食会は打ち解けた雰囲気ができ、プログラムを円滑に進める助けになった。

プログラム成果

- 八千代市教職員の意識の向上や意見交換を通じて教職員としての視野が広がった。

苦勞した点

- 韓国語通訳者（ボランティア）を探すこと。歓迎夕食会の予算が足りず、持出しが出てしまったこと。
- 課の職員構成上、担当者が一人のため、全ての業務を一人で行った。そのため期間中（準備含めて）は他の業務が全くできず、他の職員に迷惑をかけてしまった。

Bグループ

千葉県教育庁企画管理部教育政策課

副主査 坂本 和則

プログラムの全体的印象

- オリエンテーションでの質疑応答や訪問校での意見交換では質問、意見等が尽きることなく、韓国の先生方の熱意や教育に対する意欲・関心の高さを強く感じました。
- また、訪問校で歓迎を受けたときやホームビジットから戻ってきたと

プログラム成果

- 歓迎式で知事が「互いに協力し、子どもや孫の世代がより一層仲良くなれるようがんばりましょう。」と述べたように、千葉県全体で韓国との連携や友好関係を促進しようという機運が高まりました。
- 交流会では、県内大学（神田外語大学）の学生10名に通訳ボランティアを依頼したところ、韓国教職員との交流が大変スムーズに進み、また、学生にとっても貴重な経験となったようで、双方にとって有意義な機会となりました。

苦勞した点

- 今回で3回目の受け入れになりますが、毎回、ホストファミリー、ボランティア通訳の確保には苦勞しており、受入体制を整備する必要性を感じました。

加えるとよいと思われる活動

- 学校、教育施設の訪問、交流だけでなく、受け入れ自治体（千葉県）の魅力を帰国後に、韓国国内に広めていただけるよう、県内の観光地等を訪問したり、千葉のおいしい食材、郷土料理などを楽しんでもらう機会があればと思いました。

Cグループ

和歌山県教育委員会

指導主事 宮田 里枝

プログラムの全体的印象

- 県教育庁表敬訪問における、「和歌山県の教育」に関する意見交流について、非常に熱心かつ積極的に御質問いただき、本県の教育を見つめ直

- す契機となった。
- 韓国の多くの先生方が、教科専門に関わらず流暢な英語でコミュニケーションをはかられている場面を多々拝見し、韓国の英語教育の充実ぶりを肌で感じる事ができた。

の文化理解の一層の促進につながると思われる。

プログラム成果

- 和歌山の文化や教育について十分に堪能していただくことができたと感じる。
- 学校訪問において、心の教育に関する質問が多くなされていたことから、児童生徒の心を育む教育の充実が日本と同様、喫緊の課題の1つとなっていることが伺えた。両国の取組の近似と相違の部分を知ることにより、今後の参考にすることができた。

苦勞した点

- ホームビジットにおけるボランティア募集について、県教育委員会ではそのノウハウを持っていないため、他機関と連携する必要がある。本来、募集を開始する2ヶ月前には正式依頼をし、広く周知を図らなければならないことから、日程的に厳しかった。

加えるとよいと思われる活動

- もう少し日程に余裕があれば、学校だけでなく当県の歴史的遺産や名勝を視察していただくことが可能である。

プログラムの改善に向けた助言

- 体調不良や事故等が起こった際の対応について、当該教職員と事務局、現地担当職員が円滑に連携できるよう、早めの連絡体制や対応マニュアルづくり等が必要である。
- 自国の文化についても発表してもらえ、場を設けることにより、互い

3. 主な受入れ学校および機関

Aグループ

- 神奈川県立有馬高等学校
総括教諭 望月 浩明

プログラムの全体的印象

- 予定していた時間よりかなりスケジュールがおしてしまい、十分に討議する時間がなかったことが残念だった。
- 討議する場合のことばの問題があった。通訳3人体制をとったが、全体の意見交換、フリーディスカッションの際に話し合うのに苦労した。
- 今回は全体的に年齢層が高かった。若い先生同士での話ができれば良かった。
- 在県外国籍生徒たちと活発な話し合いができた。

プログラム成果

- お互いの教育現場でみられる課題（文系、理系の選択人数のアンバランスなど）について話し合うことができた。
- それぞれの国で行われている「歴史」の授業について率直に意見交換を行うことができ、理解を深めることができた。

苦労した点

- 学校が通常授業中であるため、訪問団に対応する先生方の確保が難しかった。
- 30名の団体だと授業見学や懇談が大人数のグループになってしまい、細かな話し合いや見学の際の解説などが難しかった。

加えるとよいと思われる活動

- 難しい問題かもしれないが、こうした機会に率直にお互いの歴史学習について話し合いをしてみたらどうか。このプログラムに参加している先生方は広い視野で教育について考えられる方たちなので、ここから日韓共通の歴史教育プログラムをつくる事ができるかもしれないと思います。

プログラムの改善に向けた助言

- 例えば、日韓のそれぞれの学校が普段、どのようなESD活動、国際教育活動を行っているか英文の簡単なパンフレット（A4一枚くらい）を用意した上で話し合いを行えると良いのでは。

- 八千代市立八千代台東小学校
教頭 石橋 義秀

プログラムの全体的印象

- 学校訪問、ホームビジット、歓迎レセプション等全てのプログラムが、八千代の教職員にとって価値のある研修機会となった。
- 意見交換の時間が有効であった。
- お互いに子どもの教育に携わる仕事をしているので、子どもの純粋な成長の姿を見ると自然に笑顔になるものだと感じた。

プログラム成果

- 子どもにとって韓国の方々と触れ合うことは貴重な体験となった。
- 今回の取り組みで、「世界につながる、豊かな心を育む」活動となった。
- 校長の学校経営説明や質疑の中で、日本と韓国の課題は共通であると実感した。

苦勞した点

- 授業参観の時間を工夫して、韓国の先生方と子ども達が交流できるような活動の工夫ができればよかったと思う。

加えるとよいと思われる活動

- 本校の先生方と韓国の先生方の交流の機会（意見交換等）があればよかったと思います。

プログラムの改善に向けた助言

- できるだけ多くの学校を参観するという趣旨もよいが、1日で1校という形にして、職員や児童との交流が多く取れるようにすればよいと思います。

●八千代市立大和田南小学校

教頭 島川 英昭

プログラムの全体的印象

- 子どもたちの歓迎や授業の様子を高く評価いただき、職員のモラルアップにつながった。

プログラム成果

- 韓国教職員の皆さんと意見交換することにより、国状の違いにより教育環境が異なることがよくわかり、本校の長所を伸ばすとともに、校舎環境整備などについてさらに努力が必要なことがわかった。

苦勞した点

- 当日の到着が遅れ、休憩時間が少なくなり、余裕を持って授業参観をしていただくことができず、申し訳なかった。

●八千代市立阿蘇小学校

教頭 田中 一成

プログラムの全体的印象

- 歓迎集会で本校児童が練習した韓国の歌を披露した。韓国の先生方も一緒に歌っていただいた。国や文化は違っても、歌を通して心を通わせることができた。
- 給食を各教室で児童たちと食べていただいた。ジェスチャーを交えながら積極的に子どもたちに話しかけていただいた。言葉は通じなくても何とかコミュニケーションをとろうとしていたことが印象に残った。
- ホテルで開かれた歓迎交流会を通して、コミュニケーションを図ることができた。事前にホームビジットに来る方と直接話すことができたのが大変ありがたかった。

プログラム成果

- 今回の訪問を通して、コミュニケーションを図るためには、言葉が通じないといけないと思った。そのためには、「外国語活動（英語教育）」をより一層推進していかなければならないと思う。
- 「習うより 慣れる。」ということわざがあるが、今回の訪問を通して、このような体験を多くさせていくことが、国際社会に生きるこれからの子どもたちに必要なことなのだと改めて感じた。

苦勞した点

- 訪問団を迎え入れるノウハウがなかったため、他校から情報を収集した。過去の取り組みなどをデータベース化していくと、計画を立てるときに参考になると思う。
- 大まかな概要は伝わってきたが、細かな情報が不足していた。直前になって受け入れ態勢を変更したとこ

ろもあった。担当者との打ち合わせが計画の中にあるとよい。

加えるとよいと思われる活動

- 児童への指導もあるので時間の確保は難しいと思うが、授業を持たれている担任の先生方同士の意見交流会があるとよいと思った。

●八千代市立睦中学校 教頭 和田 浩治

プログラムの全体的印象

- 日韓両国の教職員の交流において、両国の現状及び課題についての意見交換が行えたことにより、相互理解の促進及び双方の利点を取り入れあった教育活動の発展につながる好機となった。(具体的な事例) 両国共通の課題として「いじめ問題」があり、双方ともに積極的に対応していることを確認できた。

プログラム成果

- 学習カリキュラムの工夫、生徒指導体制の充実等、日本にある本校でも取り入れることが可能と思われる内容を、韓国教職員の方々からうかがうことができた。

苦勞した点

- 大きな問題はないが、本校の構造上、会議室・応接室等施設面で不十分なところがあり、訪問された韓国教職員の方々に不愉快な思いをさせてしまったかどうか心配である。

プログラムの改善に向けた助言

- 今後も引き続き交流を深め、両国の教育の発展に貢献できるとよいと思います。

●秀明大学学校教師学部 学部長 近藤 公一

プログラムの全体的印象

- 訪問団の方々が大変礼儀正しく、熱心だった。
- 授業見学では、学生による模擬授業と、解剖のクラスに興味関心が集中していて、他の講義型授業は簡単に見学している感じがした。

プログラム成果

- 韓国の先生方の質問が鋭く、質量ともに圧倒され、教育に対する熱意を感じ、大いに刺激を受けた。
- 学生も、同様な感想を持っており、教育に対する真剣な姿勢を教わった。

苦勞した点

- 苦勞した点等はないが、普段の授業をそのまま見ていただいたので、興味関心を持っていただける授業があるのかどうか不安であった。
- お茶やお茶菓子の準備をどの程度すればよかったのか、不安が残る。
- 通訳による説明でご理解いただけるのか不安に思っていたが、お二人の巧みな通訳によって、極めてスムーズに話し合いが進められた。また、パンフレットを韓国語に訳していただいたことがよかったと思う。
- IT教育に強い興味を持っていたと思うので、この点での取り組みを見せられたらよかったと思う。

加えるとよいと思われる活動

- 本学の教育システムを知っていたくためには、DVDによる紹介があった方がよいとおもうのだが、これは翻訳の問題が残る。

Bグループ

●大田区立大森第六中学校

●教諭 菅原 和義

プログラムの全体的印象

- 「近くて遠い国」という発言を聞いたとき本当にその通りだと思った。しかしその後、きちんとフォローしていて安心した。

プログラム成果

- 生徒に韓国についてよく理解してもらった。きっかりとつながりとなった。

加えるとよいと思われる活動

- 教員同士の交流の時間がほしい。

●教諭 佐方紀和子

プログラムの全体的印象

- たいへん礼儀正しい方々で授業も真剣に見ていただきました。廊下の掲示物などにも関心を示し、よく質問をなさっていました。「校歌」に敬意を示し、立ち上がろうとした姿が印象に残りました。

プログラム成果

- 授業で「韓国のお正月／お正月の遊び」について話して下さったことで日本との共通点が多くあり、「近い国」であるということをお子供たちが強く感じていたようです。

加えるとよいと思われる活動

- 教員同士の懇談。

●主任教諭 増元 成子

プログラム成果

- 外交関係のイメージであまり良くない印象があったようだが実際に先生方と交流し、プラスの印象を受けたようだった。

苦勞した点

- 各クラスへの授業はとてもよかったが前もって何をやるのか簡単な内容を知らせていただくと、もっとサポートできたと思われる。

加えるとよいと思われる活動

- 座学だけでなく動きを伴う活動があると生徒は喜んでいる。

●主幹教諭 小林 一彦

プログラムの全体的印象

- 出張授業…よく準備してくださり通訳の方もスムーズに進めてくれました。

プログラム成果

- 生徒の感想→暗いニュースが多い日韓関係でしたが、実際にお会いすると、とてもやさしく身近な存在になりそうです。これが最大の成果。

苦勞した点

- 特にありませんが担当は通訳のボランティアの手配がたいへんだったようです。

加えるとよいと思われる活動

- 教員間の交流を持つ時間がほしいです。特に勤務時間外で。

プログラムの改善に向けた助言

- 本校は昨年からは中国、インドネシア、モ

ンゴル、ベルラーシなどと多くの国々の方と交流の機会を持つことができました。

● 教諭 齋藤 郁

プログラムの全体的印象

- 「すみません」と「ありがとう」が知られていること。韓国のおもちゃ。

プログラム成果

- 生徒が日韓の交流について大切だと考えられるようになった。

加えるとよいと思われる活動

- 学校訪問時以外でもコミュニケーションをとれる機会があると良い。

● 主任教諭 殿塚 利江

プログラムの全体的印象

- 友好的な交流ができて良かった。クラスに入っていたいただいた先生の「2020年の東京オリンピックでは北と南同一チームで出場できたらと願っている」との言葉が印象に残った。

プログラム成果

- 近くて遠い国などと言われている隣国に対し生徒たちも関心をもって一生懸命おもてなししようとしたこと。身をもって友好的に接した体験そのものが大きな成果だと思う。

苦勞した点

- 生徒のパフォーマンス練習時間の確保。

加えるとよいと思われる活動

- 教員同士の交流がほとんどないので、放課後の時間帯までいただき、ぜひ意見交換をする時間を設けてほしい。

プログラムの改善に向けた助言

- 上記の通り、教員同士の交流ができる時間設定を望みます。

● 主幹教諭 柴崎 裕子

プログラムの全体的印象

- とても勉強熱心だと感じました。ESDについての関心も高いように思いました。

プログラム成果

- 生徒にとって、とても有意義な時間でした。生徒の多くが「身近な国」を感じたようでした。

苦勞した点

- 大変でしたが、通訳の方を各クラスに配置できてよかったです。

加えるとよいと思われる活動

- 教員全員と研修会の時間がとれるとよかったです。

● 千葉県立桜が丘特別支援学校 教諭 林 留美子

プログラムの全体的印象

- 意見交換会では普通学校に勤務の先生が、学校にある特別支援学級についての情報や障がい者とのかわりを身近な経験からお話をして下さり、障がいのある子どもたちや

特別支援学校そのものを理解しようとするお気持ちを感じました。

- 前日のパーティでは神田外語大の学生を通訳としてたくさん招へいされていて、韓国の先生方と十分に意思疎通ができ、良かったと思います。

プログラム成果

- 韓国の先生方が来校されることを本校の子どもたちは意識し、「アンニャンハセヨ」などの挨拶が子どもたちの方から発せられてきたことは、清雅であると思います。
- 子どもたちの歌の発表を聴いて、団長の校長先生をはじめ、多くの先生方が感激して下さり、韓国の国民性に触れることができました。

苦勞した点

- 歓迎会や訪問のおもてなしは各学校の裁量に任されていたが、もう少し具体的な指示が事務局側からあると、すすめやすかった。今回、初めてのことで、すべてを最初から考えていくことが大変でした。
- 韓国の特別支援学校の先生が、学校紹介をして下さったが、事前に案内があると、より理解が深まったと思います。

加えるとよいと思われる活動

- 韓国の先生方から情報交換したい内容を事前に募っておき、その質問に答えるようにしてから当日を迎えると、お互いの聞きたいことや話題にしたいことなどスムーズにできると思います。

プログラムの改善に向けた助言

- 意見交換会中に携帯電話を見ている先生がいました。通訳の方がいるので、個人的な携帯電話で日本語変換などせず、通訳の方に任せるよ

うにすると悪い印象を受けないと思います。

●千葉県立市川昂高等学校

教頭 川崎 浩一

プログラムの全体的印象

- 学校訪問は、交換授業や意見交換会など、短時間ではあったが、韓国教職員の熱意が伝わるとともに、本校教職員及び生徒にもよい刺激になった。
- 交換授業では、韓国の民族楽器の実演や、韓国の遊びを体験させる等、本校生徒にもわかりやすく印象に残る授業体験となった。
- また、意見交換会では、韓国の教育事情等も直接説明されることで、よく理解できた。今回短時間の学校訪問ということもあり、限られたプログラムでの受入であったが、今後の受入に際しては、さらに内容の濃い充実したプログラムで迎えたい。

プログラム成果

- 韓国語を選択科目として、カリキュラムに組み入れている本校では、これまで学校単体で韓国の高校との交流を図ってきたが、未だ相互交流ができていない状態にない。その中で、今回の訪問は、韓国教職員の教育観や韓国教育事情を直接聴き取り、今後の相互交流に活かす機会として捉え、学校全体で積極的な受入のための準備を行った。受入後の教職員及び生徒の感想も肯定的なものが多く、今後の本校と韓国の高校との交流に資する経験となったことが最大の成果である。

苦勞した点

- 学校訪問については、企画当初から実施まで、特に困難な点はなかったと思われる。連携大学や連携専門校

の支援を得られ、本校の裁量で運営できたことが大きいと考えている。

- ホームビジットについては、受入家庭数の調整や実施直前の変更など、コーディネートに苦労した面もあったが、関係諸機関の速やかな対応もあり無事終了できた。

プログラムの改善に向けた助言

- 現プログラムを特に見直す必要はないが、企画段階での受入訪問校同士の連絡調整会議の設定など、横の繋がりを意識した体制作りをお願いしたい。

●市川市立中山小学校 校長 藤間 博之

プログラムの全体的印象

- 韓国教職員の皆様に来校いただいたことは、大変光栄に思います。日韓両国の相互理解と友好に、微力ながらも貢献できたのであれば幸いに存じます。
- 子どもたちの姿を見ていただき、「元気で素直そうな笑顔をしている。日々の学校生活に満足しているからにじみ出ている。うらやましい限りだ。」との言葉をいただきました。目指す児童像は、共通であることを確認することができました。

プログラム成果

- 国際教育交流に参加させていただき、直接、韓国教職員の方々のご意見ご感想をいただいたことです。
- 共に、児童生徒の育成を目指し取り組んでいることを共通理解することができました。
- ICT の積極的な活用に取り組んでいることや、科学的能力の育成を深めている等、韓国の教育現場の様子を教えていただきました。

苦労した点

- プログラムの企画においては、児童にとっても教職員にとっても無理のない日常の姿を見ていただきました。また、理科研修センター校及び食育指導推進拠点校であることから、理科と家庭科（食育）の授業展開を中心に、参観していただきました。運営では、給食等の飲食について、文化の違いに苦労しました。

プログラムの改善に向けた助言

- とても有意義な事業ですので、たくさんさんの学校で取り組んでいただきたいと思います。

Cグループ

●横浜市立永田台小学校 主幹教諭 広木 敬子

プログラムの全体的印象

- ▶ 大変良かったです。子どもたちが覚えた韓国語が伝わったとき、練習した歌やダンスが終わったとき、笑顔で「おおーっ」と歓声をあげていただきました。それがとてもうれしかったです。教職員との交流会では、本校の学びについて、ESDが自然にしみこんでいるという感想をいただき、国をこえて、よい姿（子どもや学びの）は伝わっていくのだと実感できました。
- ▶ 本校の韓国籍の保護者の方に、通訳ボランティアをお願いしました。みなさんこの交流をととても喜んでくださいました。その中の特にお二人からは「こういう会があることが、韓国人としてうれしい」「子どもたちの韓国語が上手で驚きました」「またぜひ手伝いたい」とのお言葉をいただきました。

プログラム成果

- ▶ 韓国語や韓国の文化に触れることはもちろん、あたたかく接していただくことが嬉しいことを、子どもたちが実感できたことです。本校は交流が4回目となり、毎年歓迎会や交流を行っていますので、子どもたちも「またお迎えできるのだ」と楽しみにしています。この交流を通して韓国が身近な場所に感じられることが最も大きな成果だと思います。

苦労した点

- ▶ 授業をしてくださる方がもう少し多いと、(本校でしたら17学級ですので17名) 交流の機会も増え、体験もしやすくなるのでありがたいです。
- ▶ 通訳の方が少ないので、難しさもあ

るかと思いますが、体験やジェスチャーでカバーしながらなんとか意思疎通できるよう頑張るのもよい体験になるかと思っています。

加えるとよいと思われる活動

- ▶ 特にはありませんが、強いていうなら、歓迎会での韓国の先生方からの歌等（簡単で構いません）出し物があるとやはり嬉しいです。

プログラムの改善に向けた助言

- ▶ 来年もぜひお越しください。中国のプログラムも歓迎いたします。ぜひ、これからも本校にいらしていただけると子どもたちの学びも深まります。

●田辺市立明洋中学校 教頭 林 義久

プログラムの全体的印象

- ▶ 外国の先生方の学校訪問ということで、準備に大変な面もありましたが、訪問を引き受けて大変良かったと思います。本校の生徒たちや先生方にとって大変刺激になりました。特に印象に残っていることは、協議の中で生徒指導的な質問が多かったので、日本と同じように、インターネット上のいじめ問題など、日本での教育問題と同じようなことで困っているのだということが分かりました。

プログラム成果

- ▶ 学校全体が一つになり韓国の先生方を迎える気持ちになれたことが良かったと思います。特に、3年生の英語発表では、本年度行った「熊野古道の語り部」を外国の方々に発表する機会を持つことができ、生徒たちにとって大きな自信につなが

りました。

ていただき誠にありがとうございました。

苦勞した点

- 今までに受け入れをした学校がどのようなプログラムで行っていたのか、もう少し情報があれば準備がスムーズだったのでは、と感じました。間際になり大変慌あわてました。具体的には、歓迎の言葉を書いた幕であるとか、友好の国旗など、もう少し事前に用意できていれば、と感じました。そのためには、以前受け入れた学校での様子について、写真などの資料を見せて頂けていればと思いました。

加えるとよいと思われる活動

- 韓国の生徒たちとの交流も面白いのではないかと思います。例えば日本に来ることができなくてもスカイプを利用しての交流なんかも考えられると思います。先生方は訪問をして交流、生徒はスカイプで交流する。このような交流ができれば、良いのではないかと思います。
- 韓国の先生方との懇談の時間を多く取り入れた方がよかったですと感じています。事前に韓国の学校の様子について教えて頂ければ、韓国との違いについて説明できたのではないかと思います。加えて、韓国の教育事情についても知識があれば、もっと話し合いも深まるのではないかと思います。そのためにも、もう少し韓国（教育）についての情報を頂ければよかったですと感じました。また、日本では研究授業などを行い、授業の進め方について研究を行います。教授方法・授業の進め方についての交流も面白いのではないかと思います。

プログラムの改善に向けた助言

- 大変貴重な経験になり、大変勉強になりました。このような機会を作っ

●和歌山県立星林高等学校 教頭 鈴木 裕子

プログラムの全体的印象

- 参加者みなさんが大変積極的で、質問がとぎれなかったことが印象的でした。品性教育（心の教育）についてかなり関心をもたれていたことに興味が覚えました。

プログラム成果

- 両国の教育環境や制度について意見交換が出来たことは、相互理解に大いに役立つものと考えております。違いばかりではなく、悩みを共有できたことも良いことでした。

苦勞した点

- 意見交換の時間をもう少し取ることができればと思います。

プログラムの改善に向けた助言

- 体調を崩された方もいらっしやっただようなので、参加者にスケジュールなどで大きな負担になっているところがあるのならば、スケジュールを検討してもよいのではないかと思います。

●和歌山県立たちばな支援学校 教頭 神埼 良子

プログラムの全体的印象

- 授業参観では、高等部の作業学習の様子を熱心に参観していただき、生徒たちも、韓国語であいさつをしたり、作業製品を紹介したりと、短い時間でしたが交流をもつことがで

きました。また、小学部・中学部の児童生徒との交流会では、本校の生徒のあいさつを温かく見守っていただき、記念品交換では抱き合っあいさつしたりするなど、友好的に交流でき、韓国の先生方に親近感をもつことができたと思います。

- 懇談においては、障害児に関わる国の支援についてや就学に関わる制度について質問が及ぶなど、障害児教育への関心の高さを感じました。

プログラム成果

- 本校の児童生徒にとって韓国の先生方と交流できたことは国際理解を深める貴重な体験となりました。

苦勞した点

- 午後からの訪問であったため、下校時間の関係で授業参観の時間が短くなってしまったことは残念でした。

付録

1. 実施要項
2. プログラム日程
3. 参加者リスト
4. 関係機関リスト
5. 文部科学省講義資料
6. 過去のプログラム実績

◆付録 1. 実施要項

韓国教職員招へいプログラム

(2015年1月18日－26日：東京、大阪、千葉、和歌山)

実 施 要 項

1. 背景

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)では、我が国と韓国の教職員間の交流を深め、両国民の相互理解と友好の促進に資するため、国際連合大学の委託を受け、国際教育交流事業として韓国から初等中等教育教職員を招へいするプログラムを実施しております。

また、2003年からは同プログラムと対をなすものとして、日本の初等中等教育教職員が韓国を訪問するプログラムを実施しております。2014年10月までに韓国から招へいした教職員数は延べ1668名にのぼり、日本から訪韓した469名と合わせ、日韓間の相互理解促進、学校間交流に大きく貢献してきました。

第15回となる今回も、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育部および各教育委員会のご協力のもと、2015年1月18日(日)から1月26日(月)までの9日間にわたり、韓国から初等中等教育教職員約100名を日本に招へいします。

2. 目的

- (1) 日本の教育制度、学校教育の現状や特色ある取り組みを韓国教員に紹介するとともに、国際理解教育(EIU)および持続発展教育(ESD)について地域の好事例を紹介する。
- (2) 学校等での意見交換を通じて、日韓の教育の質を高める。
- (3) 日本の文化および社会全般に対する理解を深める。
- (4) 訪問する学校や施設などでの交流を通じて、日韓教職員の持続的なネットワークの構築、強化に寄与する。
- (5) 日韓両国の相互理解と友好を促進する。

3. 日程

本プログラムは、東京、日本各地の受入れ県・市および大阪において、下記の日程で実施される予定です。

日付	日程	訪問先	活動
1月18日(日)	第1日	東京	日本到着 オリエンテーション
1月19日(月)－ 20日(火)	第2－3日	東京	開会式、文部科学省講義、歓迎交流会 学校訪問(授業見学、教員、児童生徒との交流)
1月21日(水)－ 24日(土)	第4－7日	受入れ自治体へ移動。3グループにわかれ、各グループが指定の自治体を訪問	教育長表敬・訪問地教育事情概要説明、 学校訪問(授業見学、教員、児童生徒との交流) 教育文化施設視察 ホームビジット グループ別情報共有会
1月25日(日)	第8日	受入れ自治体から大阪へ移動	報告会・閉会式
1月26日(月)	第9日		日本出発

* 第4-7日目の間、参加者は3グループに分かれ、指定された自治体を訪問する。

* 3グループは各33名～34名程度とし、以下のグループ分けとする。

Aグループ：八千代市教育委員会(千葉県)

Bグループ：千葉県教育委員会

Cグループ：和歌山県教育委員会

* 各グループの代表者は、各自自治体での活動について、第8日に大阪での報告会で報告する。

4. 参加者数
約 100 名

5. 参加資格

- (1) 大韓民国の国民であること
- (2) 所属する学校等からの推薦を受けた、韓国初等中等教育の教職員であること(教育行政官及び教育専門家を含む)
- (3) 日本の教職員との、主に教育分野における交流に高い関心を持つもの
- (4) プログラムの全日程に参加が可能であること

なお、参加者は、①45歳以下で教員経験3年以上のもの、②日本の教員、児童生徒、学校との交流を希望しているもの、③国際理解教育、持続発展教育(ESD)の分野において積極的な活動を行っているもの、④英語または日本語の会話能力のあるものが望ましい。

6. 評価と報告

日本出発前(第8日)

- (a) 各参加者は ACCU の用意する評価票に記入する。
- (b) 各グループの代表は、報告会において発表を行う。

帰国後

各個人およびグループで、報告書を作成し、韓国ユネスコ国内委員会に提出する。

7. 渡航費等

ACCU は下記の経費を負担する。

- (1) 往復航空運賃
韓国国内の指定された国際空港と、日本国内の指定された国際空港との間のエコノミークラス航空券。
- (2) 宿泊と食事
プログラム期間中のシングルルーム(朝食含)、およびプログラム期間中の食事。
食事が提供されない場合については食費を支給する。
- (3) 日本国内の移動旅費
プログラム期間中の、自由行動日以外の国内移動旅費。

※上記以外の経費については参加者が負担することとする。

8. 海外旅行傷害保険

各参加者は、プログラム期間中に起こりうる傷害、疾病等の緊急時に備えて、各自の責任において、必ず海外旅行傷害保険に加入すること。

9. 通訳

ACCU はプログラム期間中、通訳者(日-韓)を必要に応じて手配する。なお、各県・市への訪問時には、専門の通訳が随行する。

10. このプログラムに関する照会先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 人物交流部 担当:有菌 (部長:佐々木)

〒162-8484 東京都新宿区袋町6番地 日本出版会館

TEL: 03-3269-4498

FAX: 03-3269-4510

E-MAIL: arizono@accu.or.jp, sasaki@accu.or.jp

◆付録 2. 프로그램日程

(1) 全体プログラム (東京)

제1일(第1日)	1월18일 (일)	1月18日 (日)
09:00	서울(인천) 출발(OZ102)	ソウル(仁川空港)発(OZ102)
11:10	도쿄(나리타공항) 도착	東京(成田空港)着
13:45-14:30	점심 식사(일본청년관호텔 6층 사이엔)	昼食(日本青年館ホテル6階「彩苑」)
15:00-16:30	오리엔테이션(국제 연합 대학교 5층 엘리자베스 로즈 홀)	オリエンテーション(国際連合大学5F「エリザベスローズホール」)
17:00	호텔 도착, 저녁 식사(각자)	ホテル着、夕食(各自)
	복장: 캐주얼	当日の服装: カジュアル
	숙박: 메트로폴리탄 에드몬트(도쿄도 치요다구)	当日の宿泊: ホテルメトロポリタンエドモント(東京都千代田区)
제2일(第2日)	1월19일 (월)	1月19日 (月)
09:00-09:30	개회식(메트로폴리탄 에드몬트 1층 크리스탈 홀)	開会式(ホテルメトロポリタンエドモント1F「クリスタルホール」)
09:45-10:55	강의1 - 일본 초중등교육에 대하여(크리스탈 홀)	講義Ⅰ「日本における初等中等教育について」(同「クリスタルホール」)
11:05-12:15	강의2 - 일본에서의 ESD 추진에 대하여(크리스탈 홀)	講義Ⅱ「日本におけるESDの推進について」(同「クリスタルホール」)
12:30-14:00	환영교류회(2층 반리)	歓迎交流会(同2F「万里」)
	저녁 식사(각자)	夕食(各自)
	복장: 정장	当日の服装: ビジネス
	숙박: 메트로폴리탄 에드몬트(도쿄도 치요다구)	当日の宿泊: ホテルメトロポリタンエドモント(東京都千代田区)
제3일(第3日)	1월20일 (화)	1月20日 (火)
	<Group A>	<Group A>
08:50	호텔 출발	ホテル発
10:30-14:30	가나가와현립 아리마고등학교 방문(도시락)	神奈川県立有馬高等学校訪問(弁当)
16:00	호텔 도착, 저녁 식사(각자)	ホテル着、夕食(各自)
	<Group B>	<Group B>
08:45	호텔 출발	ホテル発
09:30-14:45	오타구립 오모리 제6중학교 방문(급식교류)	大田区立大森第六中学校訪問(給食交流)
15:30	호텔 도착, 저녁 식사(각자)	ホテル着、夕食(各自)
	<Group C>	<Group C>
08:00	호텔 출발	ホテル発
09:30-15:00	요코하마시립 나가타다이초등학교 방문(급식교류)	横浜市立永田台小学校訪問(給食交流)
16:30	호텔 도착, 저녁 식사(각자)	ホテル着、夕食(各自)
	복장: 비즈니스 캐주얼	当日の服装: ビジネスカジュアル
	숙박: 메트로폴리탄 에드몬트 (도쿄도 치요다구)	当日の宿泊: ホテルメトロポリタンエドモント(東京都千代田区)

◆付録 2. 프로그램日程

(2) 그룹프로그램

【A 그룹 : 千葉県八千代市】

제4일(第4日)	1월21일(수)	1月21日(水)
11:00	호텔 출발(체크아웃), 버스로 이동	ホテル発(チェックアウト)、バスにて移動
12:30-13:30	점심식사(토미 가든 야치요)	昼食(トミーガーデン八千代)
14:00	위쉬튼 호텔 도착(체크인)	ウイシュトンホテル到着(チェックイン)
14:45	호텔 출발	ホテル発
15:15	야치요시 종합생애학습플라자 도착	八千代市総合生涯学習プラザ到着
15:30-16:00	시장 및 교육장 예방(야치요시 종합생애학습플라자)	市長・教育長表敬訪問(八千代市総合生涯学習プラザ)
16:00-16:30	오리엔테이션(야치요시 종합생애학습플라자)	オリエンテーション(八千代市総合生涯学習プラザ)
17:00	호텔 도착	ホテル着
18:00-20:00	환영교류회(위쉬튼 호텔 유카리 4층 포레스트)	歓迎交流会(ウイシュトンホテル・ユカリ 4階「フォレスト」)
	복장 : 정장	当日の服装: ビジネス
	숙박 : 위쉬튼 호텔 유카리	当日の宿泊: ウイシュトンホテル・ユカリ
제5일(第5日)	1월22일(목)	1月22日(木)
08:40	호텔 출발	ホテル発
09:30-13:00	야치요다이 히가시초등학교 방문(급식교류)	八千代台東小学校訪問(給食交流)
13:30-16:00	오와다 미나미초등학교 방문	大和田南小学校訪問
16:30	호텔 도착, 저녁 식사(각자)	ホテル着、夕食(各自)
	복장 : 비즈니스 캐주얼	当日の服装: ビジネスカジュアル
	숙박 : 위쉬튼 호텔 유카리	当日の宿泊: ウイシュトンホテル・ユカリ
제6일(第6日)	1월23일(금)	1月23日(金)
08:50	호텔 출발	ホテル発
09:20-12:20	그룹1: 아소초등학교 방문	グループ1: 阿蘇小学校訪問
09:50-12:20	그룹2: 무쓰미중학교 방문	グループ2: 睦中学校訪問
12:30-13:20	2개 그룹이 합류한 뒤 아소초등학교에서 급식교류	グループ1・2合流後、阿蘇小学校にて給食交流
13:50-16:00	슈메 대학교 방문	秀明大学訪問
16:30	호텔 도착, 저녁 식사(각자)	ホテル着、夕食(各自)
	복장 : 비즈니스 캐주얼	当日の服装: ビジネスカジュアル
	숙박 : 위쉬튼 호텔 유카리	当日の宿泊: ウイシュトンホテル・ユカリ
제7일(第7日)	1월24일(토)	1月24日(土)
09:00	호텔 출발	ホテル発
09:30-10:45	국립 역사민족박물관 견학	国立歴史民俗博物館見学
11:30-12:30	야치요시립 향토박물관 견학	八千代市立郷土博物館見学
12:30-13:00	점심(야치요시립 향토박물관에서 도시락)	昼食(八千代市立郷土博物館にて弁当)
13:00-14:00	정보공유회(평가회) (야치요시립 향토박물관 회의실)	情報共有会(八千代市立郷土博物館会議室)
14:10-14:40	버스로 이동	バスにて移動
15:00-19:30	가정방문(위쉬튼 호텔에서 대면)	ホームビジット(ウイシュトンホテルに迎え)
20:00	호텔 도착	ホテル着
	복장 : 캐주얼	当日の服装: カジュアル
	숙박 : 위쉬튼 호텔 유카리	当日の宿泊: ウイシュトンホテル・ユカリ

◆付録 2. 프로그램日程

(2) 그룹프로그램

【B 그룹 : 千葉県】

제4일(第4日)	1월 21일 (수)	1月21日(水)
11:30	호텔 출발(체크아웃)	호텔발(チェックアウト)
12:45-13:45	점심 식사(게이세 호텔 미라마레 2층 DISCALO)	昼食(京成ホテルミラマーレ2階「ディスカーロ」)
14:30-14:50	지바현 교육장 예방	千葉県教育長表敬訪問
15:00-16:30	오리엔테이션	オリエンテーション
16:45	호텔 선루트 지바 도착(체크인)	ホテルサンルート千葉到着(チェックイン)
18:00	호텔 출발	ホテル発
18:30-20:00	환영교류회(호텔 플라자 나노하나)	歓迎交流会(ホテルプラザ菜の花)
20:30	호텔 도착	ホテル着
	복장 : 정장	当日の服装 : ビジネス
	숙박 : 호텔 선루트 지바	当日の宿泊 : ホテルサンルート千葉
제5일(第5日)	1월 22일 (목)	1月22日(木)
08:15	호텔 출발	ホテル発
08:50-12:30	지바현립 사쿠라가오카특수학교 방문(급식체험)	千葉県立桜が丘特別支援学校(給食体験)
13:30-16:40	지바현립 이치카와 스바루고등학교 방문	千葉県立市川昂高等学校
17:45	호텔 도착, 저녁 식사(각자)	ホテル着、夕食(各自)
	복장 : 비즈니스 캐주얼	当日の服装 : ビジネスカジュアル
	숙박 : 호텔 선루트 지바	当日の宿泊 : ホテルサンルート千葉
제6일(第6日)	1월 23일 (금)	1月23日(金)
08:15	호텔 출발	ホテル発
09:20-12:20	이치카와시립 나카야마 초등학교 방문(급식체험)	市川市立中山小学校(給食体験)
13:30-15:30	지바현립 현대산업과학관 견학	千葉県立現代産業科学館見学
16:30	호텔 도착, 저녁 식사(각자)	ホテル着、夕食(各自)
	복장 : 비즈니스 캐주얼	当日の服装 : ビジネスカジュアル
	숙박 : 호텔 선루트 지바	当日の宿泊 : ホテルサンルート千葉
제7일(第7日)	1월 24일 (금)	1月24日(金)
09:20	호텔 출발	ホテル発
10:00-12:00	정보공유회(평가회)(지마시 비즈니스 지원 센터)	情報共有会(千葉県ビジネス支援センター)
12:20-13:15	점심 식사(도후로 지바점)	昼食(土風炉千葉店)
13:30	호텔 도착	ホテル着
	<Group I >	<Group I >
15:50	가정방문 대면식(호텔 로비)	ホームビジット対面式(ホテルロビー)
16:00-19:30	가정방문	ホームビジット
20:00	호텔 도착	ホテル着
	<Group II >	<Group II >
16:20	가정방문 대면식(호텔 로비)	ホームビジット対面式(ホテルロビー)
16:30-20:00	가정방문	ホームビジット
20:30	호텔 도착	ホテル着
	복장 : 캐주얼	当日の服装 : カジュアル
	숙박 : 호텔 선루트 지바	当日の宿泊 : ホテルサンルート千葉

◆付録 2. 프로그램日程

(2) 그룹프로그램

【C 그룹 : 和歌山県】

제4일(第4日)	1월21일(수)	1월21日(水)
08:00	호텔 출발	호텔발
10:00	하네다공항 출발(NH019)	羽田空港発(NH019)
11:10	이타미공항 도착, 버스로 이동	伊丹空港到着, バスで移動
12:30	점심 식사(기시와다SA)	昼食(岸和田SA)
14:15	호텔 도착(체크인)	ホテル着(チェックイン)
14:40	호텔 출발	ホテル発
15:00-16:00	교육장 예방 오리엔테이션(와카야마현 개요, 교육현황 설명)	教育長表敬訪問 オリエンテーション(県の概要、教育事情概要)
16:30	호텔 도착	ホテル着
18:00	호텔 출발	ホテル発
18:30-20:30	환영만찬회(회장: 호텔아발롬 3층 구자쿠)	歓迎夕食会(ホテルアバローム3階「孔雀」)
	복장: 정장	当日の服装: ビジネス
	숙박: 다이와 로이넷 호텔 와카야마	当日の宿泊: ダイワロイネットホテル和歌山
제5일(第5日)	1월22일(목)	1월22日(木)
08:15	호텔 출발, 다나베시로 이동	ホテル発、田辺市へ移動
10:00-10:20	다나베시 교육위원회 예방	田辺市教育委員会表敬訪問
10:30-16:00	다나베시립 메이요중학교 방문(급식 체험)	田辺市立明洋中学校訪問(給食体験)
17:30	호텔 도착, 저녁 식사(각자)	ホテル着、夕食(各自)
	복장: 정장	当日の服装: ビジネス
	숙박: 다이와 로이넷 호텔 와카야마	当日の宿泊: ダイワロイネットホテル和歌山
제6일(第6日)	1월23일(금)	1월23日(金)
08:00	호텔 출발	ホテル発
09:00-12:00	와카야마현립 세이린고등학교 방문(학식 체험)	和歌山県立星林高等学校訪問(学食体験)
13:15-16:00	와카야마현립 다치마나특수학교 방문 히로부라 제방, 이나무라노히노야카타(해일방재교육센터) 견학	和歌山県立たちばな支援学校訪問 広村堤防・稲村の火の館見学
16:30-17:30	유아사거리 구경, 가도초(간장자료관) 견학	湯浅の街並み散策、角長(醤油資料館)見学
18:30	호텔 도착, 저녁 식사(각자)	ホテル着、夕食(各自)
	복장: 비즈니스 캐주얼	当日の服装: ビジネスカジュアル
	숙박: 다이와 로이넷 호텔 와카야마	当日の宿泊: ダイワロイネットホテル和歌山
제7일(第7日)	1월24일(토)	1월24日(土)
09:00	호텔 출발	ホテル発
09:30-11:00	와카야마현립 박물관 견학	和歌山県立博物館見学
11:30-13:00	점심 식사(호텔 그란비아 와카야마)	昼食(ホテルグランヴィア和歌山)
13:00-14:30	정보공유회(평가회)(플라자 호프)	情報共有会(プラザホープ)
14:30-15:00	가정방문 대면식(플라자 호프)	ホームビジット対面式(プラザホープ)
15:00-19:00	가정방문	ホームビジット
19:30	호텔 도착	ホテル着
	복장: 캐주얼	当日の服装: カジュアル
	숙박: 다이와 로이넷 호텔 와카야마	当日の宿泊: ダイワロイネットホテル和歌山

◆付録 2. 프로그램日程

(3) 全体プログラム (大阪)

제8일 (第8日)	1월 25일 (일)	1月 25日 (日)
	<Group A>	<Group A>
08:00	호텔 출발(체크아웃)	ホテル発(チェックアウト)
10:30-11:40	하네다공항 출발(JL113)	羽田空港発(JL113)
12:00-12:30	이타미공항 도착, 공항에서 버스로 이동	伊丹空港到着、空港からバス移動
12:30	리가 로얄 호텔도착(짐 맡김)	リーガロイヤルホテル着(荷物のみ置く)
	<Group B>	<Group B>
08:15	호텔 출발(체크아웃)	ホテル発(チェックアウト)
10:30-11:40	하네다공항 출발(JL113)	羽田空港発(JL113)
12:00-12:30	이타미공항 도착, 공항에서 버스로 이동	伊丹空港到着、空港からバス移動
12:30	리가 로얄 호텔도착(짐 맡김)	リーガロイヤルホテル着(荷物のみ置く)
	<Group C>	<Group C>
10:45	호텔 출발(체크아웃),버스로 이동	ホテル発(チェックアウト)、バスで移動
12:15	리가 로얄 호텔 도(짐 맡김)	リーガロイヤルホテル着(荷物のみ置く)
	<전체>	<全体>
12:45-13:45	점심 식사(리가 로얄 NCB 2층 요도노마)	昼食(リーガロイヤルNCB2階「淀の間」)
14:00-15:50	보고회(리가 로얄 NCB 3층 하나노마)	報告会(リーガロイヤルNCB3階「花の間」)
16:00-16:45	폐회식(리가 로얄 NCB 3층 하나노마)	閉会式(リーガロイヤルNCB3階「花の間」)
17:00	호텔 도착 (체크인), 저녁 식사 (각자)	ホテル着(チェックイン)、夕食(各自)
	복장: 정장	当日の服装: ビジネス
	숙박: 리가 로얄 호텔 오사카(오사카부 오사카시)	当日の宿泊: 리가 로얄 호텔(大阪府大阪市)
제9일 (第9日)	1월 26일 (월)	1月 26日 (月)
	<부산>	<Busan>
08:00	호텔 출발(체크아웃), 칸사이공항으로 이동	ホテル発(チェックアウト)、関西空港へ移動
11:00	(부산행) 부산(김해)로 출발(OZ9723/BX123)	(釜山行) 空路で釜山(金海)へ(OZ9723/BX123)
12:30	부산(김해) 도착	釜山(金海空港)着
	<서울>	<Seoul>
9:30	호텔 출발(체크아웃), 칸사이공항으로 이동	ホテル発(チェックアウト)、関西空港へ移動
12:50	(서울행)서울(인천)으로 출발(OZ111)	(ソウル行) 空路でソウル(仁川)へ(OZ111)
14:50	서울(인천) 도착	ソウル(仁川空港)着
	복장: 캐주얼	当日の服装: カジュアル

◆付録 3. 参加者リスト

【Aグループ：千葉県八千代市】32名

Group Leader: A-4 Mr. KIM WON JUNG

No	Name(Kor)	Name(ケイ)	Name(メイ)	Name(Last)	Name(First)	Sex (M/F)	School/Org name(Kor)	Title	Subjects	City / Province
A-1	고기식	コ	ギシク	KO	GISIK	M	영선중학교 Yeongseon Middle school	Teacher	Computer science	全羅北道
A-2	고영남	コ	ヨンナム	KOH	YOUNGNAM	M	원통고등학교 Wontong High School	Teacher	English	江原
A-3	김우찬	キム	ウチャン	KIM	WOOCHAN	M	익산교육지원청 Jeollabukdo Iksan Office of Education	Supervisor		全羅北道
A-4	김원중	キム	ウォンジュン	KIM	WON JUNG	M	대덕고등학교 Daedeok high school	Principal		大田
A-5	김임석	キム	임시크	KIM	IMSIK	M	경기자동차과학고등학교 Gyeonggi Automotive Science High School	Teacher	Mechanical Engineering (Automotive)	京畿
A-6	김정혜	キム	ジョンヘ	KIM	JEONGHYE	F	공주교육대학교부설초등학교 Gongju Education University Attached Elementary School	Teacher	Education of Elementary School	忠清南道
A-7	김정환	キム	ジョンファン	KIM	JONGHWAN	M	영동초등학교 YeongDong elementary school	Principal		忠清北道
A-8	마숙자	マ	숙자	MA	SOOKJA	F	경상북도교육청 Gyeongsangbuk-do Office of Education	Chief Supervisor	Elementary Education	慶尙北道
A-9	박미경	박	미경	PARK	MIJEONG	F	광주교육대학교광주부설초등학교 The Attached Elementary School of Gwangju National University of Education	Teacher	English	光州
A-10	방경진	방	경진	BANG	KYOUNGJIN	M	황지초등학교 Hwangji elementary school	Teacher	Science	江原
A-11	변도열	변	도열	BYUN	DOYUL	M	상명고등학교 Sangmyung High School	Teacher	Mathematics	서울
A-12	송해선	송	해선	SONG	HAE SON	M	흥덕고등학교 Heungdeok High School	Teacher	Chemistry	忠清北道
A-13	안수진	안	수진	AHN	SUJIN	F	서울고등학교 Seoul High School	Teacher	Korean language	서울
A-14	양옥경	양	옥경	YANG	OK KYOUNG	F	선일여자중학교 Snil Girls' Middle School	Teacher	Science	서울
A-15	오혜성	오	혜성	OH	HYE SEONG	F	미추홀외국어고등학교 Michulol Foreign Language High School	Principal		仁川
A-16	유충열	유	충열	YOU	HONGYEOL	M	거창고등학교 Geochang High School	Head of Department	Physics	慶尙南道
A-17	이성기	이	성기	LEE	SUNGKI	M	원화중학교 Wonhwa middle school	Principal	Ethics	大邱
A-18	이은경	이	은경	LEE	EUNJEONG	F	영광고등학교 Yeonggwang High school	Teacher	English	全羅南道
A-19	이지명	이	지명	LEE	JIMYOUNG	M	경기도교육청 Gyeonggi Provincial Office of Education	Supervisor	Moral Education	京畿
A-20	이창근	이	창근	LEE	CHANG GEUN	M	서귀중앙여자중학교 Seogwi Jungang Girls' Middle School	Teacher	Science	濟州
A-21	이호남	이	호남	LEE	HONAM	F	충청남도교육청 Chungcheongnamdo Office of Education	Supervisor	Pedagogy	忠清南道
A-22	임미리	임	미리	LIM	MI RI	F	순천왕지초등학교 Suncheon Wangji Elementary school	Vice Principal		全羅南道
A-23	임정순	임	정순	LIM	JEONG SOON	F	성포고등학교 Seongpo high school	Teacher	History	京畿
A-25	전영금	전	영금	JEON	MYOENGGEUM	F	시흥은행중학교 Sheung Eunhaeng Middle School	Head Teacher	Korean	京畿
A-26	최윤환	최	윤환	CHOI	YOON HWAN	F	석봉초등학교 Seokbong Elementary School	Vice Principal		慶尙南道
A-27	경상숙	경	상숙	CHONG	SANG SUK	F	구서여자중학교 Guseo Girls Middle School	Vice Principal	English	釜山
A-28	최관영	최	관영	CHOI	KWAN YOUNG	M	민족사관고등학교 Korean Minjok Leadership Academy	Deputy Headmaster	Korean	江原
A-29	최기용	최	기용	CHOI	GI YONG	M	강원도교육청 Gangwondo Office of Education	Senior Supervisor	English	江原
A-30	한정훈	한	정훈	HAN	JUNGHOO	M	청주신흥고등학교 Cheongju shinheung high school	Teacher	Social Studies	忠清北道
A-31	허재형	허	재형	HEO	JAE HYUNG	M	안현초등학교 Anhyun Elementary School	Vice Principal		京畿
A-32	홍보강	홍	보강	HONG	BOGANG	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	Senior Programme Officer		서울
A-33	황혜경	황	혜경	HWANG	HYE GYEONG	F	제주중앙고등학교 Jeju Jungang High School	Teacher	Korean Language and Literature	濟州

通訳：権 惠京、杉山 直美

ACCU 随員：有蘭 佳子

A グループ参加者（八千代市長・教育長表敬訪問）



金グループ長によるあいさつ（神奈川県立有馬高等学校）



授業参観の様子（八千代市立八千代台東小学校）

◆付録 3. 参加者リスト
【B グループ：千葉県】 33 名

Group Leader: B-26 Mr. LEE KYUNG SEK

No	Name(Kor)	Name(英)	Name(日)	Name(Last)	Name(First)	Sex (M/F)	School/Org name(Kor)	Title	Subjects	City / Province
B-1	강명희	カン	ミョンヒ	KANG	MYOUNGHEE	F	진건중학교 Jingeon Middle School	Principal	Music	慶尚北道
B-2	강성훈	カン	ソンチュン	KANG	SEONG CHUN	M	강원외국어고등학교 Gangwon Foreign Language High School	Teacher	Korean Language	江原道
B-3	고흥민	コ	ヨン민	KOH	YONGMIN	M	제주특별자치도교육청 Jeju Special Self-Governing Provincial Office of Education	Team manager		济州道
B-4	고재영	コ	チェヨン	KO	CHAEYEONG	F	수원외국어고등학교 Suwon Academy of World Languages	Principal		京畿道
B-5	권경희	クオン	ギョンヒ	KWON	KYEONGHI	F	한국외대학교부설고등학교 Affiliated High School With Korea National University of Education	Teacher	German	忠清北道
B-6	김남선	キム	ナムソン	KIM	NAM SUN	M	공천진초등학교 Gonghyeonjin Elementary School	Principal		江原道
B-7	김대수	キム	데스	KIM	DAE SU	M	가곡초등학교 Gagok middle school	Principal	Physical Education	忠清北道
B-8	김대영	キム	데ヨン	KIM	DAEYOUNG	F	숙명여자고등학교 Sook Myung Girl's High School	Teacher	Chemistry	서울
B-9	김명심	キム	미ョン심	KIM	MYUNG SHIM	F	전남외국어고등학교 Jeonnam Foreign Language High School	Department Head	English	全羅南道
B-10	김미연	キム	미연	KIM	MI YUN	F	어방초등학교 Obang Elementary school.	Teacher	Elementary school subjects	慶尚南道
B-11	김용운	キム	용운	KIM	YONG WOON	M	월산초등학교 Weolsan Elementary school	Principal		慶尚南道
B-12	남윤미	ナム	윤미	NAM	YUN MI	F	충청북도교육청 Chungcheongbuk-do Office of Education	Administrator		忠清北道
B-13	남호영	ナム	호미ョン	NAM	HO MYUNG	M	금강초등학교 Guenjang elementary school	Principal		慶尚北道
B-14	류재용	リュ	제용	LYU	JAE YONG	M	경주교육지원청 Gyeongsanbukdo Gyeongju Office of Education	Supervisor	Ethics	慶尚北道
B-15	박남철	박	남철	PARK	NAM CHEOL	M	대구서부고등학교 Daegu Seobu High School	Principal	Mathematics	大邱
B-16	박석동	박	석동	PARK	SEOK DONG	M	양성초등학교 Yangseong Elementary School	Vice Principal		京畿道
B-17	박종관	박	종관	PARK	JONG KWAN	M	조천중학교 Jocheon Middle school	Vice Principal		济州道
B-18	박지현	박	지현	PARK	JIHYUN	F	한양대학교사범대학부속고등학교 Hanyang University High School	Teacher	English	서울
B-19	백상목	백	상목	PAIK	SANGMOK	M	청주고등학교 Cheongju High School	Teacher	English	忠清北道
B-20	서미진	ソ	미진	SEO	MIJIN	F	부산보건고등학교 Busan Healthcare High School	Teacher	Home management	釜山
B-21	서혜선	ソ	혜선	SEO	HEA SUN	F	교육부 Ministry of Education	Assistant Deputy Director		世宗
B-22	안수진	안	수진	AN	SOO JIN	F	안동영명학교 Andong young myung Mental retardation school.	Teacher	Elementary curriculum	慶尚北道
B-23	안형균	안	형균	AHN	HYEONGGYUN	M	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	Chief		서울
B-24	엄준성	엄	준성	UM	JUNSEUNG	M	신남중학교 Shin Nam Middle School	Teacher	Technology	서울
B-25	윤경식	윤	경식	YOON	KYUNG SIK	M	서울특별시교육청 Seoul Metropolitan Office of Education	Manager		서울
B-26	이경석	이	경석	LEE	KYUNG SEK	M	용강중학교 Yonggang Middle School	Principal	Social Studies	서울
B-27	이강원	이	강원	LEE	JANGWON	M	논산고등학교 Nonsan High School	Teacher	Music	忠清南道
B-28	이혜영	이	혜영	LEE	HYEYOUNG	F	용연초등학교 Yong-Yeon Elementary School	Vice principal		蔚山
B-29	정수교	정	수교	JEONG	SLGYO	M	안동중앙고등학교 Andong Jungang High School	Vice Principal	Ethics	慶尚北道
B-30	정인숙	정	인숙	CHUNG	IN SOOK	F	전북외국어고등학교 Jeonbuk Forean Language High School	Teacher	German	全羅北道
B-31	최미연	최	미연	CHOI	MIYEOUN	F	세종특별자치시교육청 Sejong city office of education	Supervisor	elementary education	世宗
B-32	최상현	최	상현	CHOI	SANG HYUN	M	대전외국어고등학교 Daejeon Foreign Language High School	Vice Principal	English	大田
B-33	피봉호	피	봉호	PI	BONGHO	M	봉림초등학교 Bonglicheon High school	Head of Academic Affairs	Biology	京畿道

通訳：柴田 郁夫、徐 清香
ACCU 随員：齋藤 盛午

B グループ参加者（大田区立大森第六中学校）



李グループ長によるあいさつ（歓迎交流会）



情報共有会（千葉市ビジネス支援センター）

◆付録 3. 参加者リスト

【Cグループ：和歌山県】33名

★Head of Delegation : C-11 Mr. MIN DONGSEOK

Group Leader: C-5 Mr. KIM BYUNG GYU

No	Name(Kor)	Name(セイ)	Name(メイ)	Name(Last)	Name(First)	Sex (M/F)	School/Org name(Kor)	Title	Subjects	City / Province
C-1	권오진	クオン	オジン	KWON	O GIN	M	안동교육지원청 Andong office of Education Support	Supervisor	English	慶尚北道
C-2	김경은	キム	ギョンウン	KIM	KYEONGEUN	F	대룡중학교 Daeryong Middle School	Teacher	English	江原道
C-3	김경희	キム	ギョン희	KIM	KYOUNGHUI	F	제주동초등학교 Jejudong Elementary School	Teacher	Every subject	济州道
C-4	김동성	キム	ドンソン	KIM	DONGSUNG	M	효양고등학교 Hyoyang High School	Vice Principal		京畿道
C-5	김병규	キム	비ョン규	KIM	BYUNG GYU	M	상당고등학교 Sangdang High School	Principal		忠清北道
C-6	김영미	キム	ヨン미	KIM	YEONGMI	F	강원명진학교 Gangwon Myeongjin School for the blind	Teacher	Korean, English	江原道
C-7	김용조	キム	ウン조	KIM	EUNGIO	M	대전복수고등학교 DaeJeon Boksu High school	Principal	Mathematics	大田
C-8	김훈영	キム	フニン	KIM	HOON YOUNG	M	문산여자고등학교 Munsan girls' High School	Teacher	Computer graphic	京畿道
C-9	문성혜	문	ソンヘ	MOON	SUNGHAE	F	봉곡중학교 Bonggok middle school	Vice Principal	Music	慶尚北道
C-10	문종훈	문	ジョンフン	MOON	JONGHOON	M	흥덕고등학교 Heungdeok High School	Vice Principal	History	忠清北道
C-11	민동석	민	ドンソク	MIN	DONGSEOK	M	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	Secretary-General		ソウル
C-12	박대종	박	데종	PARK	DAE JONG	M	부산국제고등학교 Busan International High School	Teacher	English	釜山
C-13	박수진	박	스진	PARK	SOOJIN	F	병점고등학교 Byeongjeom High School	Teacher	English	京畿道
C-14	소경선	소	경선	SO	JEONGSEON	F	서울덕의초등학교 Dukeu Elementary School	Teacher	Elementary music	ソウル
C-15	오선자	오	선자	OH	SUNJA	F	부산시교육청 Busan Metropolitan City Office of Education	Supervisor	English	釜山
C-17	윤건선	윤	건선	YOUN	KERN SERN	M	인천국제고등학교 Incheon International High School	Vice Principal		仁川
C-18	윤여총	윤	여총	YUN	YEOHEUNG	M	수촌초등학교 Suchon Elementary School	Vice Principal		忠清南道
C-19	윤현아	윤	현아	YUN	HYUNA	F	서울신용산초등학교 Seoul Shinyongsan Elementary School	Head of Department	Elementary education	ソウル
C-20	이경묵	이	경묵	LEE	KYOUNG MOK	M	공천진초등학교 Gonghyeonjin Elementary School	Teacher		江原道
C-21	이상철	이	상철	LEE	SANGCHEOL	M	광영고등학교 Gwangyeong High School	Principal	Social studies	全羅南道
C-22	이석종	이	석종	YI	SUK JONG	M	강원외국어고등학교 Gangwon Foreign Language High School	Principal		江原道
C-23	이주호	이	주호	LEE	JOHO	M	원화여자고등학교 Wonhwa Girls' high school	Head Teacher	Korean History	大邱
C-24	임훈	임	훈	IM	HUN	M	가곡초등학교 Gagok middle school	Teacher	History, Social study	忠清北道
C-25	장형진	장	형진	CHANG	HYUNGJIN	M	전주신흥고등학교 Jeonju ShinHeung High School	Teacher	Chinese	全羅北道
C-26	정미경	정	미경	JEONG	MIKYUNG	F	대룡중학교 Daeryong Middle School	Teacher	Special Education	江原道
C-27	정옥남	정	옥남	JEONG	OK NAM	F	광산중학교 Gwangsan Middle School	Principal		光州
C-28	정유선	정	유선	JUNG	YOO SUN	F	서울대학교사범대학부설고등학교 Seoul National University High School	Teacher	English	ソウル
C-29	조우진	조	우진	CHO	WOOJIN	M	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	Director		ソウル
C-30	주자혜	주	자혜	JU	JAHE	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	Programme Assistant		ソウル
C-31	최수환	최	수환	CHOI	SU HWAN	M	대구외국어고등학교 Taegu Foreign Language High School	Principal		大邱
C-32	하순용	하	순용	HA	SOONYONG	F	전라남도교육청 Jeollanamdo Office of Education	Supervisor	English	全羅南道
C-33	한혁	한	혁	HAN	HYUCK	M	대전광역시교육청 Daejeon Metropolitan Office of Education	Supervisor	Electronics	大田
C-34	황경미	황	경미	HWANG	KEONGMI	F	창원과학고등학교 Changwon Science High School	Teacher	Environmental Education	慶尚南道

通訳：小嶋 寿美子、裴 聖淑

ACCU 随員：富本 ひろみ

Cグループ参加者(和歌山県教育委員会)



金グループ長による演奏(歓迎交流会)



崎山館長の説明に耳を傾ける(広村堤防)

関係連絡先

◆付録 4. 関係機関リスト

(1) 전체 프로그램 / 全体プログラム

United Nations University (UNU) / 国際連合大学
5-53-70 Jingumae Shibuya-ku, Tokyo 150-8925
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70
Tel:+81-3-5467-1212 Fax:+81-3-3499-2828 URL: <http://unu.edu/>

Mr. TAKEMOTO Kazuhiko
Director, UNU-Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)
竹本 和彦
国際連合大学 サステイナビリティ高等研究所 所長

Mr. IWASA Takaaki
Administrative Director
Senior Academic Programme Officer (UNU-IAS)
岩佐 敬昭
国際連合大学 大学院事務局長

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) / 文部科学省
3-2-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8959
〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関 3 丁目 2 番 2 号
TEL: +81-3-5253-4111 URL: <http://www.mext.go.jp>

Mr. YAMAWAKI Yoshio
Director-General for International Affairs
山脇 良雄
文部科学省 国際統括官

Lecture : Mr. KURIYAMA Kazuhiro
Elementary and Secondary Education Planning and Coordination Unit
Lecture : Ms. EBATA Shinobu
Office of the Director-General for International Affairs
Japanese National Commission for UNESCO

講義 : 栗山 和大
初等中等教育局初等中等教育企画課
講義 : 江幡 忍
国際統括官付
日本ユネスコ国内委員会事務局

Embassy of the Republic of Korea / 駐日本国大韓民国大使館
1-2-5 Minami-Azabu, Minato-ku, Tokyo 106-8577
〒106-8577 東京都港区南麻布 1 丁目 2 番 5 号
TEL: +81-3-3452-7611/9 Fax: +81-3-5476-3299
URL: <http://www.japanem.or.kr>

Mr. CHOI Seongyu
Counsellor, Embassy of the Republic of Korea to Japan
崔 成有
駐日本国大韓民国大使館 参事官

(2) 그룹 프로그램 / グループプログラム

Board of Education (Group Programme)

受入れ教育委員会でご協力いただいた方々

Group A. Yachiyo City Board of Education / 八千代市教育委員会

Superintendent: Mr. KAGAYA Takashi

Programme Coordinator: Mr. NAITO Toshio

教育長：加賀谷 孝

担当者：内藤 俊夫

138-2 Owada, Yachiyo City, Chiba 276-0045

〒276-0045 千葉県八千代市大和田 138-2

TEL: +81-47-481-0302

URL: <http://www.yachiyo.ed.jp/>

Group B. Chiba Prefecture Board of Education / 千葉県教育委員会

Superintendent: Mr. TAKIMOTO Hiroshi

Programme Coordinator: Mr. SAKAMOTO Kazunori

教育長：瀧本 寛

担当者：坂本 和則

1-1 Ichibacho, Chuo-ku, Chiba-city, Chiba 260-8662

〒260-8662 千葉県千葉市中央区市場町 1-1

TEL: +81- 43-223-4176

URL: <https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/>

Group C. Wakayama Prefecture Board of Education / 和歌山県教育委員会

Superintendent: Mr. NISHISHITA Hiromichi

Programme Coordinator: Ms. MIYATA Satoe

教育長：西下 博通

担当者：宮田 里枝

1-1 Komatsubara-dori, Wakayama-City, Wakayama 640-8585

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通 1-1

TEL: +81-73-441-3661

URL: <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500100/>

関係連絡先

School Visit Hosts (Alumini of Invitation Programme for Japanese Teachers to Korea)

学校訪問でご協力いただいた方々（主に過去の派遣プログラム参加者）

Group A Mr. NAGAYAMA Yuki, Aso Elementary School (2014 Chungcheongbuk-do Group)

永山 裕基 八千代市立阿蘇小学校

Mr. MUNAKATA Hiroshi, Owada Minami Elementary School (2014 Gangwon-do Group)

宗像 洋 八千代市立大和田南小学校

Ms. ITABASHI Nao, Yachiyo-city Broad of Education (2014 Chungcheongbuk-do Group)

板橋 奈緒 八千代市教育委員会

Ms. NAGAISHI Toshie, Yachiyo-city Broad of Education (2013 Chungcheongbuk-do Group)

永石 利恵 八千代市教育委員会

Ms. ISHII Asami, Yachiyodai Higashi Elementary School (2013 Gangwon-do Group)

石井 亜佐美 八千代市立八千代台東小学校

Mr. HIRAIISHI Tatsuhiko, Arima High School (2013 Gangwon-do Group)

平石 達彦 神奈川県立有馬高等学校

Group B Ms. HAYASHI Rumiko, Sakuragaoka School for Special Needs Education (2014 Gangwon-do Group)

林 留美子 千葉県立桜が丘特別支援学校

Mr. TAKAHASHI Kazuyoshi, Ichikawa Subaru High School (2014 Chungcheongbuk-do Group)

高橋 一勝 千葉県立市川昂高等学校

Group C Ms. HIROKI Keiko, Nagatadai Elementary School (2014 Gangwon-do Group)

広木 敬子 横浜市立永田台小学校

Ms. SHIMIZU Saori, Nagatadai Elementary School (2013 Gangwon-do Group)

清水 沙織 横浜市立永田台小学校

Mr. HARADA Hiroki, Seirin High School (2014 Chungcheongbuk-do Group)

原田 海希 和歌山県立星林高等学校

Mr. NISHIJIMA Atsushi, Wakayama Prefectural Broad of Education (2014 Gangwon-do Group)

西嶋 淳 和歌山県教育庁

Ms. KIMURA Mayumi, Tanabe city Broad of Education (2014 Chungcheongbuk-do Group)

木村 真由美 田辺市教育委員会

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU) / 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

Japan Publishers Building, 6 Fukuromachi, Shinjuku-ku, Tokyo 162-8484

〒162-8484 東京都新宿区袋町6 日本出版会館

TEL: +81-3-3269-4498

FAX: +81-3-3269-4510

Email: accu-exchange_ml@accu.or.jp URL: <http://www.accu.or.jp>

Mr. TAMURA Tetsuo
Director-General

田村 哲夫
理事長

Mr. KISO Isao
Executive Director

木曾 功
業務執行理事

Ms. SASAKI Mariko
Senior Advisor

佐々木 万里子
シニアアドバイザー

Mr. NINOMIYA Masakazu
Deputy Director-General
Director, General Affairs Department

二ノ宮 正和
事務局長代理 総務部長

Ms. YONESHIMA Yuriko
Director, International Exchange Department

米島 百合子
人物交流部 部長

Ms. ARIZONO Yoshiko (Group A)
International Exchange Department

有菌 佳子
人物交流部 事務専門員

Mr. SAITO Seigo (Group B)
International Exchange Department

齋藤 盛午
人物交流部 事務専門員

Ms. FUMOTO Hiromi (Group C)
International Exchange Department

富本 ひろみ
人物交流部 事務専門員

◆付録 5. 文部科学省講義資料



講演の構成

I. 日本の基本的な初等中等教育制度

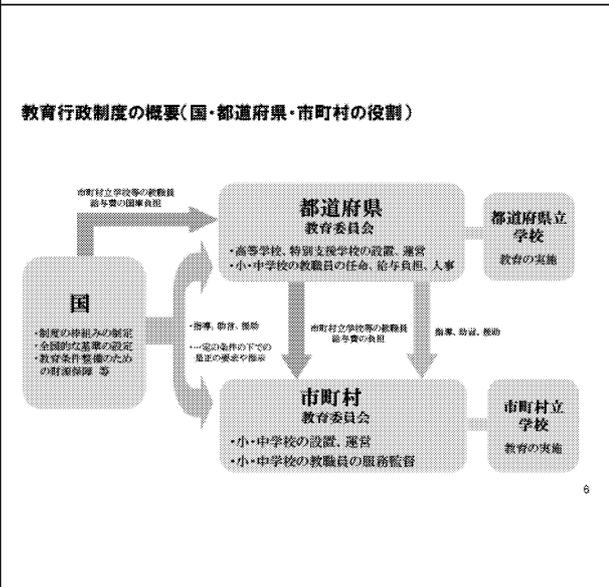
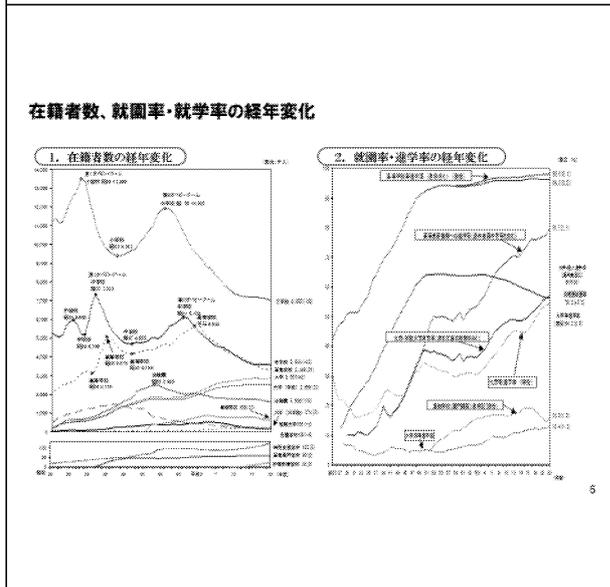
II. 日本の現状認識と教育政策の方向性

I. 日本の基本的な初等中等教育制度

学校数、在籍者数、本務教員数

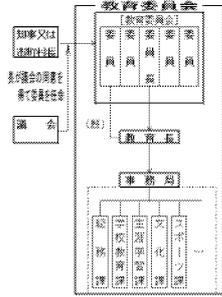
学校種	学校数 (校数)	在籍者数 (人)	本務教員数 (人)
幼稚園	18, 843	1, 353, 810	111, 111
小学校	21, 131	6, 476, 830	417, 333
中学校	10, 628	3, 336, 182	254, 235
高等学校	4, 981	3, 319, 640	235, 062
中等教育学校	59	39, 230	2, 369
特別支援学校	1, 056	132, 570	77, 663
合計	56, 819	15, 278, 148	1, 097, 993

〔出典：文部科学省「平成25年度学校基本調査報告書」より〕



教育委員会制度の概要

《新学習指導要領のイメージ》



- 1. 教育委員会制度の仕組み**
- 教育委員会は、官民から選出した行政委員会としての側面が強く、国政委員に類似する。
 - 教育委員会は、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育長が具体的な事務を執行。
 - 教育委員は、非常勤で、原則5人。任期は4年で、再任可。
 - 教育長は、常勤で、教育委員のうちから教育委員会が任命。
- 2. 教育委員会制度の意義**
- ① 政治的中立性の確保
教育は、その内容が中立公正であることが極めて重要。個人的な価値判断や特定の発達の影響力から中立性を確保することが必要。
 - ② 継続性と安定性の確保
特に義務教育において、学習期間を通して一貫した方針の下、安定計に行われることが必要。
 - ③ 地域住民の意向の反映
教育は、地域住民にとって関心の高い行政分野であり、専門家の力量のみではなく、広く地域住民の参加が前提とされて行われることが必要。

7

学習指導要領①

- 教育基本法の改正等を踏まえ、平成20年に、幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領を、平成21年に、高等学校学習指導要領、特別支援学校学習指導要領を改訂。
- 小学校では20年度、中学校では14年度から全面実施、高校では25年度成人学生から年度進行で実施。

学習指導要領の改訂のポイント

1. 学習指導要領改訂の基本的な考え方

- ① 教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成
- ② 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視
- ③ 道徳教育や体育などの本来より、豊かな心や健やかな体を育成

2. 授業時数の増減(小・中学校)

- 国語、社会、算数・数学、理科、体育・保健体育、外国語の授業時数を18%増加
- 選出科目の科目数を小学校低学年で選出科目、小学校中・高学年、中学校各学年で選出科目増加

3. 必修科目、教育課程編成時の留意事項等(高等学校)

- 学習の基礎となる国語、数学、外国語に共通必修科目を設定するとともに、理科の科目履修の柔軟性を向上
- 義務教育課程の学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けることを促進

8

学習指導要領② 一教育内容の主な改善事項

《新学習指導要領における教育内容の主な改善事項》

- ① 言語活動の充実
言語活動は、知的活動(論理や思考)、コミュニケーション、感性・情緒の基礎、子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育むため、国語をはじめ各教科等において、知識・技能を活用してレポーターの作成や劇演など言語の力を高める学習を実施。
- ② 理科教育の充実
国際的に通用するめやす(単位)などとともに、新しい科学的知見を取り入れるため、学習内容を充実。算数・数学では、大切な内容を繰り返して学習することや、学習の中で学んだことを実生活で生かすような学習、理科では、観察や実験を充実する。
- ③ 伝統や文化に関する教育の充実
国際社会で活躍する人材の育成を図るため、我が国や世界の伝統や文化について理解を深め、そのよさを継承・発展させるための教育を充実する。
- ④ 道徳教育の充実
道徳の時間を確保して、学校の教育活動全体を通じて子どもたちの道徳性を養う。
- ⑤ 体験活動の充実
子どもたちの社会性や豊かな人間性を育むため、小学校で自然の中での観察・宿泊活動、中学校で職場体験活動などを充実。
- ⑥ 外国語教育の充実
小学校の6年生における「外国語活動」の導入、中・高等学校における指導要領の充実や「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく育成することにより、小・中・高等学校を通じて外国語教育を充実する。
- ⑦ 健やかな体の育成
子どもたちの生活習慣がもたらす健康を維持・増進するとともに、豊かさを保つための基礎を築くため、健康で安全な生活を営む実践力を育成し、運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう体育・保健体育を充実する。

9

教員養成・免許制度の概要

【免許主義】

教員は、教育職員免許法により授与される各相当の免許状を有する者でなければならない。

【教員養成・採用・研修等の各段階を通じた教員の資質向上】

養成

- 大学における養成の制限
- 教職課程の認定を受けた学科等において、教科に関する科目、教職に関する科目などを修得することにより、採用当初から学校や教科を担当し、教科指導、生徒指導等を実施するための必要最低限の資質能力を養成

採用

- 新進教員・指定前教育委員会において採用選考試験を実施
- 多面的な人物評価の一環の推進
・直接試験・実技試験の重視
・様々な社会体験等の評価

研修

- 都道府県教育委員会等における研修
・新任者研修・30年経歴者研修等
- 国・教育研修センターにおける研修
・各地域において中心となる役割を担う教職員に対する学校運営研修
・喫緊の重要課題研修等

適切な人事管理

- 指導が不適切な教員に対する人事管理システムの適切な運用
- 教員評価システム
- 優秀教員表彰

免許更新制

- 教員が定期的に最新の知識技能を身につけることで教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることが目的
- 免許状に10年の有効期限を定める

10

II. 日本の現状認識と教育政策の方向性

日本の現状に対する認識

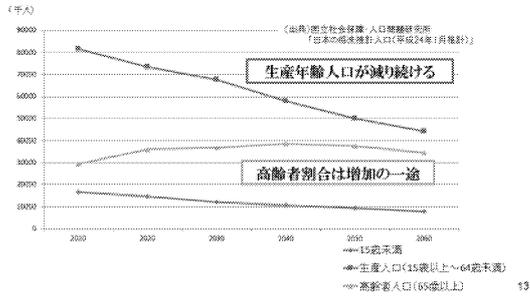


1. 少子化・高齢化の進展
2. 子供の貧困率の上昇
3. 我が国の国際的な存在感の低下

12

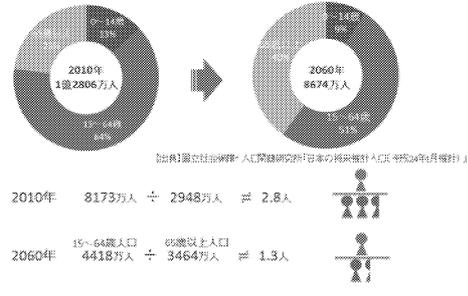
1. 少子化・高齢化の進展

少子化の急激な進行により、生産年齢人口が大きく減少



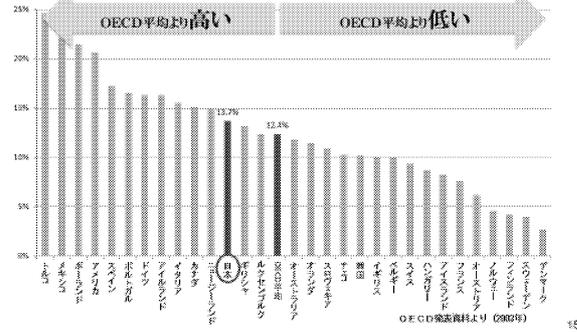
生産年齢人口と非生産年齢人口の比率の変化

2010年には2.8人で1人を支えているが、2060年には1.3人で1人を支えることになる

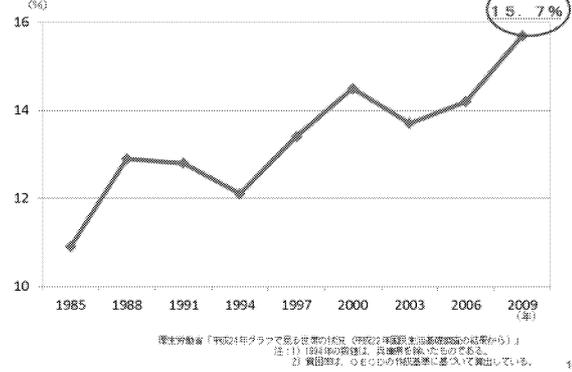


2. 子供の貧困率の上昇

OECD諸国に見る子供の貧困率

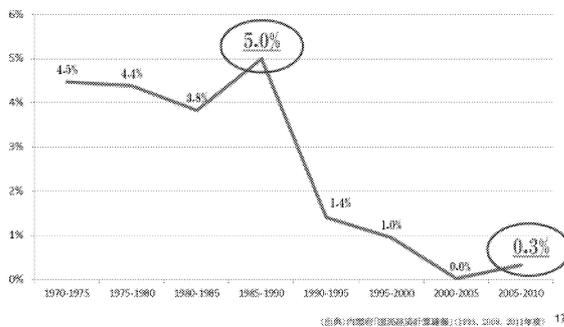


日本の子供の貧困率の推移



3. 我が国の国際的な存在感の低下

実質GDP成長率は20年間で5.0%から大きく低下



新興国が経済成長する一方、日本の存在感が相対的に低下

GDPの伸びと高等教育進学率(1990→2009)

	<GDP伸長>	<進学率>
・韓国	3.1倍	37%→71%
・中国	12.5倍	3%→17%
		(29万人→262万人)
・タイ	3.1倍	16%→46%
・オーストラリア	3.1倍	35%→94%
・日本	1.6倍	36%→56% (短期大学含む)

(出典)文部科学省「人材のイノベーションによる日本再生に向けて」

<p style="text-align: center;">「超高齢社会」と「グローバル社会」が 同時に到来</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">今こそ「教育再生」が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生産年齢人口の減少にあった人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ➡ 個人の付加価値を高める ○海外でチャンスをつかめる人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ➡ グローバルマインド・スキルの育成 <p style="text-align: right;">19</p>	<p style="text-align: center;">「これから求められる力」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ クリエイティブにものを考える力 ○ 自立的に考え、活動する力 ○ 優しさや思いやりなどの感性 <p style="text-align: right;">20</p>
<p style="text-align: center;">現状認識を踏まえた教育政策</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">「これから求められる力」を育むための環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 政策1. グローバル人材育成 政策2. 学習指導要領の改訂 政策3. 教職員指導体制の整備 <p style="text-align: right;">21</p>	<p style="text-align: center;">政策1. グローバル人材育成</p>
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育において、到来しつつあるグローバル社会への対応が十分でない ○小学校から大学・大学院まで視野に入れたパッケージとしての施策が講じられていない ○日本人学生の顕著な内向き志向 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【改革の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小・中・高等学校を通じた英語教育の抜本的強化 ○語学力のみならず、幅広い教養、問題解決力等、国際的素養を身に付けたグローバルリーダーを育成する高校(スーパーグローバルハイスクール)を支援 ○英語教員に対する研修や海外派遣の充実、少人数での英語指導体制の整備 ○企業や個人等との協力による留学費用の支援のための新たな仕組みを創設し、日本人学生・生徒の海外留学に対する支援を抜本的に強化 <p style="text-align: right;">23</p>	<p>スーパーグローバルハイスクールの創設</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高等学校等において、語学力とともに、幅広い教養、問題解決力等の国際的素養を身に付けたグローバルリーダーを育成。 ○国内外の大学や企業、国際機関等と連携、 <ul style="list-style-type: none"> ・外国語を使う機会の飛躍的増加、 ・国内外にわたる課題を発見・解決したり、グローバルなビジネスで活躍したりできる人材の育成 に取り組む高等学校 ○平成26年度に全国56校を指定(平成27年度要求額24億円) <p style="text-align: right;">24</p>

政策2. 学習指導要領の改訂

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問の概要

趣旨

- ◆ 子供たちが成人して社会で活躍する際には、生涯年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会や職業の在り方そのものも大きく変化し得る可能性。
- ◆ そうした厳しい挑戦の時代を乗りこえ、伝統や文化に立脚し、新しい意や意欲を注ぎ自立した人間として、進歩と発展し我が国領土の発展に貢献し、未来を切り開いていく必要がある。

- ◆ そのためには、教育の在り方も一層適応化させる必要がある。
- ◆ 特に、学ぶことと社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の改善に加え、子どもの学ぶ意欲、学習の質を高める必要がある。また、学びの成果としてどのような力が身に付いたかという視点が重要。

諮議事項の柱

1. 教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉え、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方
 - これからの時代を、自立した人間として多様な他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力の育成に向けた教育目標・内容の改訂
 - 課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）の充実と、そうした学習・指導方法を教育内容と関連付けて示すための在り方
 - 育成すべき資質・能力を育む観点からの学習評価の改訂
2. 育成すべき資質・能力を踏まえた、新たな教科・科目等の在り方や、既存の教科・科目等の目標・内容の見直し
3. 学習指導要領等の理念を実現するための、各学校におけるカリキュラム・マネジメントや、学習・指導方法及び評価方法の改善支援の方策
 - 各学校における教育課程の編成、実施、評価、改善の一連の流れ（プロセス）の普及
 - 「アクティブ・ラーニング」などの新たな学習・指導方法や、新しい学びに対応した評価方法等の開発・普及

（諮問）初等中等教育審議会諮問資料（平成26年11月30日）抜粋 26

育成すべき資質・能力をふまえた教育課程の構造化（イメージ）

教育の普遍的な目的・目標

- 社会生活において必要な教育の目標（内容、目標）の策定
- 学びの意欲を高める教育の目標・目標、学力の三要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習態度）等

時代の変化や子供たちの実態、社会の課題等

- 生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会や職業の在り方そのものも大きく変化し得る可能性。
- そうした厳しい挑戦の時代を乗りこえ、伝統や文化に立脚し、新しい意や意欲を注ぎ自立した人間として、進歩と発展し我が国領土の発展に貢献し、未来を切り開いていく必要がある。

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

- ◆ 自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力
- ◆ 我が国の伝統や文化に基づいて今必要とされる、何事にも主体的に取り組む姿勢や、多様な価値観を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、コミュニケーションの能力、豊かな感性や楽しさ、思いやり等

何ができるようになるか

育成すべき資質・能力を育む観点からの学習評価の充実

何を学ぶか **どのように学ぶか**

育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- ◆ グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化（小学校高学年での教科化等や、我が国の伝統文化に関する教育の充実）
- ◆ 国家・社会の責任ある形成者として、自立して生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善等

理念を実現する環境作り

- ◆ 各学校のカリキュラム・マネジメント支援
- ◆ 新たな学習・指導方法や評価方法の更なる開発や普及を図るための支援

（諮問）初等中等教育審議会諮問資料（平成26年11月30日）抜粋 27

主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の必要性

グローバル化・少子化の進展の中で求められる力

○ 新たな価値を創造する力が求められている

○ ルーティン・双方向のスキルが求められている

学力の現状と学習・指導方法の課題

- グループ学習で話し合いなどの目的活動や主体的な学習の時間における授業活動等の取組を行った学校は、教科の学習到達率が高い傾向。また、学習意欲や社会への興味、関心に関して顕著的に改善する割合が高い傾向。
- 我が国の教員は生徒の主体的な学びを重要と考えているが、生徒たちの主体的な学びを促すための必要な資質が個別対応に課題を抱えている。
- また、ICTの活用も含め多様な指導実践の実施割合も、海外各国に比べ全般的に低く、一方に教えられる受け身の授業からの転換が必要。

主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の促進とそのための条件整備が必要

（中略）初等中等教育審議会諮問資料（平成26年11月30日）抜粋 28

育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の在り方や、教育内容の見直し例①

グローバル社会で求められる力の育成

- ◆ グローバル化する社会の中で、言語や文化が異なる人々と主体的に協働していくことができるよう、外国語で躊躇せず意見を述べ他者と交流していくための力や、我が国の伝統文化に関する深い理解、他文化への理解等をどのように育むべきか。特に英語の能力について、例えば以下のような点をどのように考えるべきか。

- (1) 小学校から高等学校までを通じて達成を目指す教育目標を、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、四技能に係る一貫した具体的な指標の形式で示すこと
- (2) 小学校では、中学年から外国語活動を開始し音に慣れさせるとともに、高学年では、学習の継続性を持たせる観点から教科として行い、身近で簡単なことについて良い考えや気持ちを伝え合う能力を養うこと
- (3) 中学校では、授業は英語で行うことを基本とし、身近な話題について良い考えや気持ちを伝え合う能力を高めること
- (4) 高等学校では、幅広い話題について良い「音読・発話」などを行う能力を高めること

高等学校教育

- ◆ 中央教育審議会における高大接続改革に関する議論や、これまでに関連する答申等も踏まえつつ、高校生が、国家・社会の責任ある形成者として、自立して生きる力を身につけることができるよう、例えば以下のような課題についてどのように改善を図るべきか。

- (1) 今後、国民投票年齢が18歳以上となることなども踏まえ、国家・社会の責任ある形成者となるための教養と行動規範や、主体的に社会に参画し自立して社会生活を営むために必要な力を、実効的に身に付けるための新たな科目等の在り方
- (2) 日本史の必修化の限りなど地理歴史科の見直しの在り方
- (3) 以高度な思考力・判断力・表現力等を育成するための新たな教科・科目等の在り方
- (4) より確実な学習活動を重視する観点からの「総合的な学習の時間」の改善の在り方
- (5) 社会的要請を踏まえた専門学科の充実の在り方など、職業教育の充実の在り方
- (6) 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための教科・科目等の在り方

（諮問）初等中等教育審議会諮問資料（平成26年11月30日）抜粋 29

育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の在り方や、教育内容の見直し例②

幼児教育

- 子供の発達や早期化をめぐる現象や指摘、幼児教育の特性等を踏まえ、幼児教育と小学校教育をより円滑に接続させていくためには、どのような見直しが必要か。

体育・健康

- 子供の体力等の現状を踏まえつつ、2020年のオリンピック・パラリンピック開催を契機に、子供たちの運動の土壌に対する関心や意欲の向上を図るとともに、体育・健康に関する指導を充実させ、運動する習慣を身に付け、健康を増進し、豊かな生活を送るための基礎を培うためには、どのような見直しが必要か。

特別支援教育

- 障害者の権利に関する法的に定められたインクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、全ての学校において、発達障害を含めた障害のある子供たちに対する特別支援教育を普及させるためには、どのような見直しが必要か。その際、特別支援学校において、小・中・高等学校等に接続した改善を図るとともに、自立と社会参加を一層推進する観点から、自立活動の充実や知的障害のある児童生徒のための各教科の改善等について、どのように考えるべきか。

その他の課題

- 社会の課題等を踏まえ、教科等を踏まえた幅広い観点からの実現が求められる確かな教育の充実のための方策について、関係する会議等におけるこれまでの議論の状況等を踏まえつつ、どのように考えるべきか。
- 各教科等の教育目標や内容を、初等中等教育を通じて一貫した観点から対照的に示すためにどのような方策が考えられるか。また、学年間や学校間での教育課程の接続の改善を図ることについて、現在中央教育審議会で開催されている小・中一貫教育に関する検討状況も踏まえつつ、どのように考えるべきか。

（諮問）初等中等教育審議会諮問資料（平成26年11月30日）抜粋 30

政策3. 教職員指導体制の整備

【課題】

○世界トップレベルの「これから求められる力」



【改革の方向性】

教職員等指導体制の整備

- 授業革新等(課題解決型授業、アクティブラーニング等)の教育の質の向上を実現するため、これまでの少人数教育や指導力向上への取組を踏まえ、きめ細やかな指導体制の整備を推進
- 学校を取り巻く環境が複雑化・困難化するとともに、様々な教育課題への対応を迫られる中、教員が授業など子供への指導により専念できるようにも、教員に加えて多様な専門性を持つスタッフを配置し、一つのチームとして学校の教育力を最大化(チーム学校)

32

日本におけるESDの推進について

2015年1月19日

文部科学省国際統括官付
江幡 忍



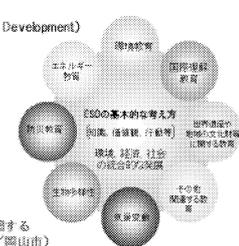
文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

I 持続可能な開発のための教育(ESD)について

1. 「ESD(持続可能な開発のための教育)」とは？
ESD=Education for Sustainable Development.
持続可能な社会の担い手を育てるため、地球規模の課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自分で実行行動を起こす力を身に付けるための教育。

2. 「国連ESDの10年」(UNDECAD)について
(United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年 国連決議(第57回総会)
 - 2005~2014年の10年
 - ユネスコを主導機関に指名
- 2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定
- 2009年 ESD世界会議(ボン)
 - ボン宣言の採択
- 2014年 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議(愛知県・名古屋市/岡崎市)



文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

II ESDに関するこれまでの我が国の取組

○これまでの取組

- 2005年 内閣官房に関係者庁連絡会を設置
- 2006年 DESD国内実施計画を策定
- 2011年 DESD国内実施計画を改定
- 2014年10月 ジャパンレポートの完成・公表



ジャパンレポートについて

ESDの10年の提案国として、また、来年の「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催地国として、国内の取組を喚起するとともに、2015年以降の諸外国における取組の参考としてもらうため、「我が国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」(平成18年連絡会議決定、平成23年改訂。以下、「実施計画」という。)に基づく取組・成果及び国内の優良事例を、円卓会議の実施により関係者からの意見を聴取しつつ、来年の出来だけ早い時期までに取りまとめ、国内外に発信する。
(平成25年10月30日 関係者庁連絡会議決定)

文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

III これまでの文部科学省の取組

① 教育振興基本計画について

2008年 第一期教育振興基本計画
ESDを我が国の教育の在り方にとって重要な理念の一つとして位置付け

2013年 第二期教育振興基本計画
より明確にESDの推進を位置付け

(第二期計画における主な記載)

第2部今後5年間に実施すべき教育上の方策
I 四つの基本的方向性に基づく方策
1. 社会を生き抜く力の養成
(4)生涯の各段階を通じて推進する取組
基本施策11 現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進

【主な取組】11-1 現代的・社会的な課題等に対応した学習の推進
ユネスコスクールの賛同国における先達等を通じ地球規模での持続可能な社会の構築に向けた教育(持続可能な開発のための教育「ESD」)を推進する。

「生きる力」を育むことと軌を一にするESDの取組

文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

② 学習指導要領

2008年 小学校・中学校学習指導要領の改訂
2009年 高等学校学習指導要領の改訂

(学習指導要領における記載の例)

○中学校 社会 地理的分野
地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、その産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。

○中学校 理科 第一分野及び第二分野
自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会を構築することが重要であることを認識すること。

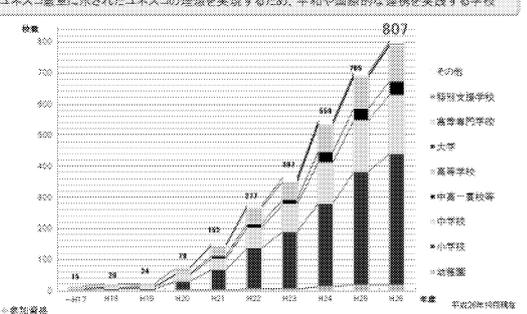
↓

総合的な学習の時間を活用したESDの取組事例が多数

文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

③ ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付け拡充

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実現する学校



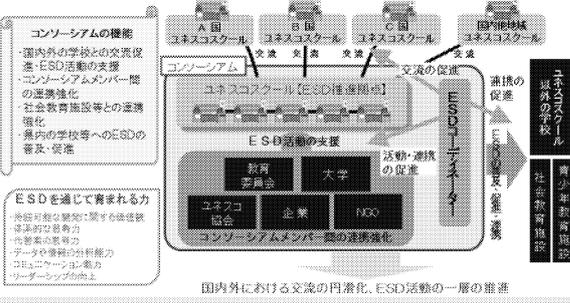
年度	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学	その他	合計
H17	14	0	0	0	0	0	14
H18	38	0	0	0	0	0	38
H19	54	0	0	0	0	0	54
H20	78	0	0	0	0	0	78
H21	100	0	0	0	0	0	100
H22	133	0	0	0	0	0	133
H23	167	0	0	0	0	0	167
H24	200	0	0	0	0	0	200
H25	233	0	0	0	0	0	233
H26	267	0	0	0	0	0	267
H27	300	0	0	0	0	0	300
H28	333	0	0	0	0	0	333
H29	367	0	0	0	0	0	367
H30	400	0	0	0	0	0	400
H31	433	0	0	0	0	0	433
H32	467	0	0	0	0	0	467
H33	500	0	0	0	0	0	500
H34	533	0	0	0	0	0	533
H35	567	0	0	0	0	0	567
H36	600	0	0	0	0	0	600
H37	633	0	0	0	0	0	633
H38	667	0	0	0	0	0	667
H39	700	0	0	0	0	0	700
H40	733	0	0	0	0	0	733
H41	767	0	0	0	0	0	767
H42	800	0	0	0	0	0	800

※参加資格
○国際教育(小学校・中学校・高等学校・技術学校・職業学校・教員養成学校・特別支援学校等(国及私立を問わず))
ユネスコの理念に沿った取組を継続的に実施していることが必要

文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

④ グローバル人材の育成に向けたESDの推進

教育委員会及び大学が中心となり、ユネスコ協会及び企業等の協力を得つつ、ESDの推進拠点であるユネスコスクールと包括コンソーシアムを形成し、ESDの浸透・普及及び国内外におけるユネスコスクール間の交流等を促進する。コンソーシアムに置かれるESDコーディネーターは、教育委員会、大学、ユネスコ協会及び企業等のコンソーシアムメンバーの活動・連携の促進、学校、社会教育施設等の場内でのESDに関する連携強化及び国内外における交流の円滑化を図る。



文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

IV ユネスコスクールにおけるESD取組例

ESDカレンダー

教科・学年を超えた体系的・総合的な指導を進めるための「年間指導計画」

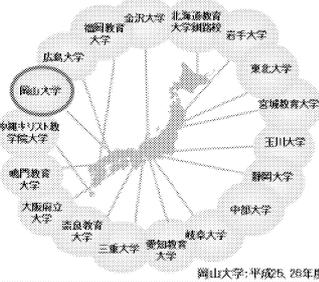
教科領域	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	3年次
国語	ESDの基礎知識を学ぶ												
算数	ESDの基礎知識を学ぶ												
理科	ESDの基礎知識を学ぶ												
社会	ESDの基礎知識を学ぶ												
英語	ESDの基礎知識を学ぶ												
音楽	ESDの基礎知識を学ぶ												
美術	ESDの基礎知識を学ぶ												
体育	ESDの基礎知識を学ぶ												
道徳	ESDの基礎知識を学ぶ												
総合的な学習の時間	ESDの基礎知識を学ぶ												

出典：東京女子大学立上合15の学校(14年)

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

V その他の取組

① ASPUnivNet (ユネスコスクール支援大学間ネットワーク。2008年創設) ユネスコスクールに助言・支援、現在18大学が加盟



文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

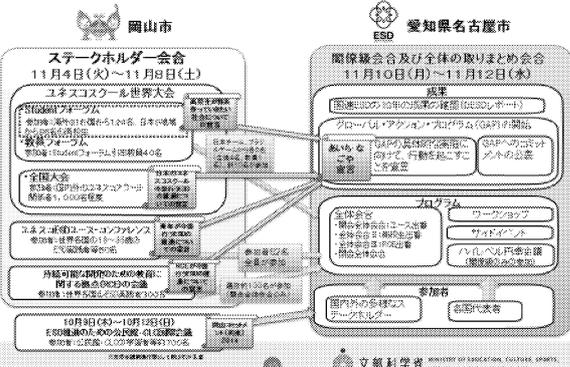
② 企業におけるユネスコスクールへの支援

- ユネスコスクールへのプレートの寄贈
- ユネスコスクールへの支援事業
 - ユネスコスクールESDアシストプロジェクト助成金
 - 助成の対象：国内全てのユネスコスクール加盟校
 - 助成金額：1校あたり10万円を上限
 - ESD関連の教材提供
 - 環境教育用教材や国際理解教育用教材など様々な教材が企業により作成され学校に配布されている。
 - ESDロゴマークのホームページなどへの掲載 (2014年まで)
- ESDコンソーシアムへの参画

私たちはESDを応援しています。 ESDは持続可能な社会づくりを目指す活動です (ESD: Education for Sustainable Development)

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

IV ESDに関するユネスコ世界会議について



① ステークホルダー会合(於 岡山市)

<p>ユース・コンファレンス</p> <p>全世界から応募のあった約5,000名の中から選ばれた18歳から35歳までのESD実践者・研究者48か国50名(うち3名が日本人)が、各々がこれまで培ってきた経験や知識を共有し、2015年以降のESDの推進について議論を行い、「ユース・ステートメント」を策定。</p>	<p>高校生フォーラム</p> <p>日本を含む世界32か国から40チーム(1チームは高校生4人、教員1人で構成)が参加。これまでにESDを学習してきた成果を授業にプレゼンテーションとディスカッションを行い、高校生である参加者が強志と未来においてできることとなすべきことをまとめた「共同宣言」を策定。</p>	<p>ユネスコスクール全国大会</p> <p>海外32国からの参加者も得て、日本のユネスコスクール関係者約1,000名が参加し、全体会ではESD大賞の授賞式と受賞校による発表、国内外の交流実践発表会等を行うとともに、分科会では実践事例の発表、テーマ別交流研修会を行った。我が国におけるESDの要となる普及とユネスコスクールの活動の充実を図るための「ユネスコスクール岡山宣言」を策定。</p>
--	---	--

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

②「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催概要

1. 参加国・関係者数等
 - 1) 愛知・名古屋(11月10日(月)～12日(水))
 - 正式参加者: 150か国・地域 1,000名以上
 - 観 衆: 76名(大使:62名,その他:24名)
 - 2) 岡山(11月4日(火)～6日(土))
 - ステークホルダー会合参加者: 約2,000名
(Studentフォーラム、若貴フォーラム、ユネスコスクール全国大会、ユース・コンフレックス等)
2. 世界会議における成果
 - 1) 採択された各種宣言
 - ①「あいち・なごや宣言」
 - ②「ESD推進のためのユネスコスクール宣言」
 - ③「ユース・ステートメント」
 - ④「ユネスコスクール世界大会Student(高校生)フォーラム 共同宣言」
 - 2) 「国連ESDの10年」の後継プログラムである「グローバル・アクション・プログラム」(GAP)開始の正式発表
 - 3) 「ユネスコ/日本ESD賞」創設の正式発表
GAPの具体的な実施を促進するため、ESDへの首長の参加の支援、ESDへの地域コミュニティの参加の促進などGAPの5つの優先行動分野のうち、一つ以上の分野で活発に活動している個人又は団体を表彰する。(1件当たり5万米ドル、毎年3件を表彰)



③「あいち・なごや宣言」

1 これまでの評価

1. 国連ESDの10年に多くの実質的な優れた取組が出たことを祝す。
2. ユネスコ/日本ESD賞の創設を評価する。

2 今後に向けた呼びかけ

【全てのステークホルダーへ】	【ユネスコ加盟国政府へ】	【ユネスコ事務局長へ】
<ul style="list-style-type: none"> ・フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルな環境におけるGAP開始のモメンタムを構築、維持。 ・GAPの五つの優先行動分野におけるモニタリング、評価の方法を強化。 ・ユースをキーとするステークホルダーとして巻き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育政策とカリキュラムのESDのゴール達成度を評価し、教育、訓練、職能開発へESDを導入。 ・GAPの五つの優先行動分野に沿った政策を行動に移すため、実質的資源を配分、業態。 ・ユネスコ世界会議の成果をポスト2015年アジェンダへ反映。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDのグローバルリーダーシップを奨励。 ・ユネスコスクール等のネットワークの活用。 ・ESDの資金を含む適切な方策を確保する重要性を支援。

VII 今後のESD推進に向けた取組

- 学校教育への更なる浸透
- 社会教育をはじめ、学校外の学習の場への浸透
- ESDのモニタリング・評価に向けた研究
- ユースの参画の促進
- マルチステークホルダーによる取組の促進
- ステークホルダー間の連携の強化

御静聴ありがとうございます

ESD ポータルサイト <https://www.esd-jpnatcom.jp/>



ESD Facebook <https://www.facebook.com/esd.jpnatcom/>



日本ユネスコ国内委員会Webサイト <https://www.mext.go.jp/unesco/>

日本ユネスコ国内委員会Facebook <https://www.facebook.com/jpnatcom/>



◆付録 6. 過去のプログラム実績

実施期間	開催地	訪問人数
2001年2月5日～24日	東京都、広島県、佐賀県、鹿児島県、京都府、奈良県	50名
2002年1月24日～2月5日	東京都、三重県、兵庫県、京都府、奈良県	50名
2003年1月15日～28日	東京都、山口県、鳥取県、香川県、宮崎県、大阪府、京都府、奈良県	98名
2004年1月29日～2月10日	東京都、北海道、静岡県、大分県、愛媛県、京都府、奈良県	100名
2005年1月19日～2月1日	東京都、北海道、福島県、兵庫県、鳥取県、大阪府、京都府、奈良県	99名
2006年1月11日～24日	東京都、北海道、滋賀県、鳥取県、熊本県、大阪府、京都府	98名
2007年1月23日～2月5日	東京都、北海道、兵庫県宝塚市、埼玉県さいたま市、奈良県、鹿児島県、大阪府、奈良県	159名
2008年1月22日～2月4日	東京都、群馬県、宮城県気仙沼市、兵庫県宝塚市、埼玉県さいたま市、秋田県、大阪府、京都府	158名
2009年2月3日～16日	東京都、福島県西郷村、埼玉県さいたま市、奈良県奈良市、高知県、熊本県、大阪府、京都府	148名
2010年1月12日～25日	東京都、宮城県気仙沼市、石川県金沢市、和歌山県、大阪府、大阪府豊中市、京都府	149名
2011年1月11日～24日	東京都、千葉県八千代市、京都府与謝野町、埼玉県さいたま市、千葉県、奈良県奈良市、大阪府	149名
2012年1月11日～22日	東京都、埼玉県さいたま市、京都府与謝野町、宮城県気仙沼市、岡山県岡山市、福岡県、大阪府	148名
2013年1月16日～27日	東京都、千葉県八千代市、和歌山県橋本市、石川県小松市、千葉県、福岡県、大阪府	144名
2014年1月19日～27日	東京都、奈良県奈良市、東京都稲城市、和歌山県橋本市、石川県小松市、大阪府	118名
2015年1月18日～26日	東京都、千葉県八千代市、千葉県、和歌山県、大阪府	98名

計 1,766名

●国際連合大学 2014-2015 年国際教育交流事業●
韓国教職員招へいプログラム
実施報告書

2015 年 3 月
編集・発行

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒162-8484

東京都新宿区袋町 6 番地 日本出版会館

電話 (03) 3269-4498

Email general@accu.or.jp

URL <http://www.accu.or.jp>

Printed in Japan by WACO Inc. [120]

©2015Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)